

岸和田市まちづくりビジョン (第4次総合計画)

課題整理集

【第1～第3期戦略計画の振り返り】

2021.4

目次

1. 岸和田市まちづくりビジョン策定時の振り返り.....	1
1.1 現行の岸和田市まちづくりビジョン（第4次総合計画）の策定の背景	1
1.2 まちづくりの基本理念・・・「市民自治都市の実現」.....	1
1.3 将来像・・・「目指すまちの姿」.....	1
1.4 7つの特徴	1
1.5 枠組み	2
1.6 基本目標	2
2. 第1期戦略計画（2011～2014）の振り返り	3
2.1 第1期戦略計画期間内の状況	3
2.2 成果を測る指標の分析	3
2.3 目指す成果を達成するための取組	4
3. 第2期戦略計画（2015～2018）の振り返り	5
3.1 第2期戦略計画期間内の状況	5
3.2 総括目指す成果と総括指標	5
3.3 最優先目指す成果・優先目指す成果	6
3.4 成果を測る指標の分析	6
3.5 目指す成果を達成するための取組	7
4. 第3期戦略計画（2019～2023）の振り返り	8
4.1 第3期戦略計画期間内の状況	8
4.2 重点目指す成果と指標	8
4.3 成果を測る指標の分析	9
5. 基礎データの推移	11
5.1 総人口と将来推計	11
5.2 人口増減の推移	12
5.3 通勤先の動向	14
5.4 産業の動向	15
5.5 農林水産業の動向	17
5.6 商業の動向	19
6. 市民アンケート調査からみる岸和田市の現状と市民ニーズ	20
6.1 岸和田市の住みよさに対する評価	20
6.2 今後の定住意向	21
6.3 若い世代を増やすために必要な取組	23
6.4 子どもを生み育てやすいまちとしての評価	24
6.5 住まいの周辺に求めるもの	26

6.6 市のまちづくりの取組に対する市民の評価.....	27
8. 岸和田市の強み・弱みと環境分析.....	29
9. 課題集（本編）	31

1. 岸和田市まちづくりビジョン策定時の振り返り

1.1 現行の岸和田市まちづくりビジョン（第4次総合計画）の策定の背景

人口減少時代の突入、経済の低成長時代の到来など「成長社会」から「成熟社会」への転換のなか、これまでのまちづくりの制度や手法がそのままでは通用しえない時代に直面していることを受け、21世紀型の新しい仕組みづくりが必要となりました。

これまでの成長社会において必要とされたあらゆる分野の課題を公共が担い、画一的なサービスと量的充足を担う課題積み上げ型の施策網羅型総合計画では対応が難しくなり、社会の成熟化に伴う地域課題や市民ニーズの多様化・複雑化に対応した計画が必要とされました。

1.2 まちづくりの基本理念・・・「市民自治都市の実現」

2005年8月1日に施行された「岸和田市自治基本条例」の前文にある「市民が自治の主体、市政の主権者であることを認識し、自らの地域は自らの手で築いていこうとする意思を明確にし、自ら考え、行動することで、常に安心していつまでも住み続けることができる、個性豊かな持続性のある地域社会、すなわち「市民自治都市の実現」が岸和田市のまちづくりの根底に流れ続けている基本的な考え方です。

1.3 将来像・・・「目指すまちの姿」

岸和田の多様な産業や豊かな歴史と文化を継承しながら、新たな時代を切り拓いていくためには、だんじり祭に象徴される「躍動感」こそが、岸和田に求められているという考えのもと、そこで、様々な人が出会い交流し、そこに子どもたちの笑顔、若者たちや働く人のエネルギー、高齢者や障害者の生きがいなどがあふれ、人もまちも元気で躍動感のあるまちを目指し、「元氣あふれる躍動都市 岸和田」を将来像としました。

1.4 7つの特徴

この計画には、下記の7の特徴があります。

1. 自治基本条例を具体化し、実践するための計画
2. 市の最上位の計画
3. 成果志向の計画
4. 「選択と集中」を明らかにした計画
5. 「地域経営」と「行政経営」の2つの視点を盛り込んだ計画
6. 目指す目標を数値化し、進行管理ができる計画
7. 市民が公共サービスを行う際、その根拠となる計画

これらの特徴は、これまでの総合計画にない、新しい時代を歩む上で非常に重要な視点です。

1.5 枠組み

この計画は、将来構想（12 年）、戦略計画（4 年）、経営計画（3 年）の 3 層で組み立てられています。

将来構想は、まちづくりの指針を明らかにするものと位置づけ、岸和田のまちが将来どのようになればいいのかを示す「目指すまちの姿」と、それを実現するための長期的な考え方を明らかにしています。

戦略計画は、目指すまちの姿を実現するための中期的な戦略シナリオと位置づけ、市民みんなの共通の目標として、目指す成果を数値化した「目指そう値」と、その成果を達成するための「公民の役割分担の方向性」を示すとともに、市長が掲げるローカル・マニフェストとの連動や何に重点を置くのかといった「選択と集中」を明らかにしています。

経営計画は、「目指そう値」を達成するための役割分担に基づいて行政が実施する事務事業を明らかにするものと位置づけ、事業内容や実行目標などについて財政的な裏付けをもって示しています。

昨今のような激しい社会経済状況の変化や市長が掲げたマニフェストに迅速かつ的確に対応するため、市長任期のサイクルを考慮し、将来構想を 12 年、戦略計画を 4 年、経営計画を 3 年とし、時代の変化に応じた見直しを行えるようにしています。

1.6 基本目標

目指すまちの姿を実現するための 10 個の基本目標を定めました。

- | | |
|---------|--------------------------|
| 基本目標 1 | 生きがいを創造する |
| 基本目標 2 | 次世代を育てる |
| 基本目標 3 | 暮らしの安全性・快適性を高める |
| 基本目標 4 | 人も街も災害に強くする |
| 基本目標 5 | 健康を育み、地域医療を充実させる |
| 基本目標 6 | 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する |
| 基本目標 7 | 豊かな自然を未来につなぐ |
| 基本目標 8 | みんながみんなを大事にし、見守る |
| 基本目標 9 | 市民と議会、行政がそれぞれの役割を果たす |
| 基本目標 10 | 適正で分かりやすい行財政運営をする |

2. 第 1 期戦略計画(2011～2014)の振り返り

2.1 第 1 期戦略計画期間内の状況

第 1 期戦略期間内の国内の大きな変化として、2011 年 3 月に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）を契機とした防災意識の高まりが挙げられます。また、2012 年 12 月には、中央自動車道笹子トンネル内の天井板崩落事故が発生し、高度成長期などに設置された道路や建物などの老朽化が顕著になり、次々と耐用年数を迎えることに対する対処が求められることとなりました。また、国民生活に目を向けると、生活保護の受給者数が過去最多を記録し、少子高齢化や生活形態の多様化などによる福祉ニーズの高まりや多様化はさらに進みました。本市独自の動態としては、2011 年 4 月に「愛彩ランド」が開業され、10 月には、連続テレビ小説「カーネーション」放映が開始され、2012 年 5 月には「観光交流センター」が開館されました。さらに 11 月には市制施行 90 周年の節目を迎え、これらのことを契機に市内外から多くの人を訪れ、岸和田のまちがおおいに活気づきました。さらに、2013 年 11 月には、2 館の新しい市民センター（八木市民センター、桜台市民センター）が完成し、本市に、5 館の市民センターが設置されました。

一方、財政状況は、歳入の根幹となる市税収入に大きな伸びは期待できないことや、歳出に占める扶助費の割合が増大するなどの理由から、2011 年 12 月に策定した「行財政新改革プラン」（2011 年度～2016 年度）に基づき、行財政改革を実施し、「選択と集中」による施策や事務事業の優先順位付けを基本とした業務の見直しが行われました。

2.2 成果を測る指標の分析

第 1 期戦略計画には、173 の指標（2 指標は分析対象外とした。）を設定していました。このうち、最終年度には目指そう値に達していたものが 47 指標あり、全体の 27.5%にあたります。計画期間中に目指そう値を超えたことがあるもの（ただし、超えた後に基準値を大きく下回ったものは除く。）を含めると、60 指標となり、全体の 35.1%にあたります。一方、半数以上にあたる 111 指標が目指そう値に達せず、基準値よりも下回る傾向のものも 46 指標あるという非常に厳しい結果となりました。

★分析種類

	分類の説明	該当数	割合
S	最終年には目指そう値が達成された指標	47	27.5%
A	途中経過で目指そう値を超えたが、最終年には達成できていない指標（ただし、経過年内に目指そう値を超えたものの、その後に大きく数字が落ち、基準値を大きく下回ったものは除く。）	13	7.6%
B	基準値からは目指そう値に近づいたものの、達成できなかった指標	65	38.0%
C	基準値からも後退し、目指そう値から遠ざかる傾向にある指標	46	26.9%

※第 1 期戦略計画は、目指そう値の目標年次を一律（2014 年）に設定しましたが、計画期間内に 2014 年の数値が把握できないものも含まれていました。そういったもののうち、経過実績から達成が見込まれるものについては、「A」として分類しています（該当するのは 2 指標）。

2.3 目指す成果を達成するための取組

外部評価を含む事務事業評価の実施とともに、本計画に掲げた「市民の役割の方向性」と「行政の役割の方向性」について話し合う場として、定期的に『岸和田市まちづくりビジョン市民懇話会』を実施し、市民みずからがまちづくりを考えるとともに、懇話会で出された意見については、ただちに、市民活動や行政運営の改善に用いました。

【外部評価写真】



【市民懇話会の様子】



3. 第2期戦略計画(2015~2018)の振り返り

3.1 第2期戦略計画期間内の状況

第2期戦略期間内の国内の大きな変化として、2016年4月に発生した熊本地震は、予測不能かつ想定外の地震であり、大規模な地震が2度発生するなど、日本が地震大国であることを再認識させられることになりました。また、2018年6月に発生した大阪北部地震は、地震発生確率が低い場所での発生であり、常日頃からの災害への備えの重要性を認識することとなりました。他方、地震に限らず、台風や豪雨による河川氾濫や土砂崩れなど異常気象による自然災害が多発し、本市においても2017年10月の台風第21号及び秋雨前線による大雨・暴風等による土砂災害により1名の尊生命が失われました。今後のさらなる危機意識の向上や防災力の強化が求められています。

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」で示された結果では、少子高齢化により、今後さらなる総人口の減少や少子高齢化の加速という人口問題が明らかになりました。推計によると2045年の本市の人口は、約14万8千人となると示されました。

本市独自の動態としては、2015年10月には、久米田池が「世界かんがい施設遺産」に登録され、歴史的・技術的・社会的価値が示され、2017年4月には、岸和田城が「続日本100名城」（主催：公益財団法人日本城郭協会）に選ばれた。2016年9月には、岸和田市学校給食センターが竣工し、市内の中学生に安全で安心な給食が届けられるようになりました。さらに、7月には福祉総合センターが建て替えられ、総合的な福祉の拠点として、福祉分野の機能を集約した中核的施設が誕生しました。

一方、財政状況は、歳入の根幹となる市税収入に大きな伸びは期待できないことや消費税率の引き上げ再延期、国の地方財政計画に基づく地方交付税の減額に加え、生活保護に係る統計調査の誤報告による地方交付税の返還や社会保障費の継続的な増加などにより、非常に厳しいものとなったことから、2018年1月には行財政再建プラン（案）を策定し、収支不足の解消とぜい弱な財政体質からの脱却を目指し進めました。さらに、2018年8月には、持続可能な市政運営のための構造改革を実現するため、事業の総点検を行い、2019年3月に行財政再建プランを策定し、一つひとつの改革を着実に前進させ、成果をあげられるよう進めました。

3.2 総括目指す成果と総括指標

第2期戦略計画では、将来構想に掲げる「元気あふれる躍動都市 岸和田」を具現化する目標として、総括目指す成果と数値目標を設定しました。

総括目指す成果

総括指標

総括指標

総括指標

総括指標

みんなが住んでみたい、住み続けたいと思えるまちになっている

岸和田市は住みやすいと感じている市民の割合

生産年齢人口（15歳～64歳）

合計特殊出生率

市税収入額

3.3 最優先目指す成果・優先目指す成果

第2期戦略計画では、『最優先目指す成果』を4個、『優先目指す成果』を1個設定しました。これらについては、本市が有する資源を集中的に配分し、行政評価等とも連動しながら、限られた資源を効率的・効果的に活用し、その結果として、他の目指す成果と比較して、大きな成果が得られることを目標に、掲げている『目指そう値』も高めに設定しました。

最優先目指す成果

子どもを生み育てやすい環境が整っている
仕事と子育てが両立できている
子どもが感受性や社会性を身につけている
市内の移動がスムーズにできている

優先目指す成果

安全で快適な教室で児童・生徒が学習活動に取り組んでいる

3.4 成果を測る指標の分析

第2期戦略計画で設定した総括指標の結果は以下のとおりでした。

指標名	基準値	目指そう値	計画最終
岸和田市は住みやすいと感じている市民の割合	67.7% (2014)	75.0% (2018)	67.6% (2018)
生産年齢人口（15歳～64歳）	122,904人 (2014)	123,000人 (2018)	117,165人 (2018)
合計特殊出生率	1.54 (2008-2012)	1.80 (2013-2017)	未公表
市税収入額	24,436百万円 (2013)	25,000百万円 (2017)	24,307百万円 (2017)

第2期戦略計画では、「みんなが住んでみたい、住み続けたいと思えるまちになっている」ことを目指し、各種計画に基づき、施策を展開してきましたが、総括指標については、基準値からの改善及び目指そう値の達成には至りませんでした。

また、各目指す成果の達成度を測るため、指標として179の指標（3項目は分析対象外とした。）を設定していました。このうち、最終年に目指そう値に達していたものが69指標あり、全体の38.5%にあたります。一方、基準値は上回るものの、最終年に目指そう値に達していないものが38指標あり、全体の21.2%、最終年に基準値よりも下回った指標が72指標あり、全体の40.2%という非常に厳しい結果となりました。

★分析種類

	分類の説明	該当数	割合
S	最終年には、目指そう値が達成された指標	69	38.5%
A	最終年に目指そう値は達成されていないが、7割以上達成している指標	7	3.9%
B	最終年に目指そう値の7割未満だが、基準値より改善しているもしくは基準値と同じ指標	31	17.3%

C	基準値から悪化している指標	72	40.2%
---	---------------	----	-------

※なお、最終年に数値が把握できなかった指標（3項目）については、分析対象外としています。

3.5 目指す成果を達成するための取組

行政が担う事務に対する評価（事務事業評価）を実施するとともに、事務事業評価と総合計画の進行管理を連携させるため、事務事業評価制度の見直しを行いました。加えて、戦略計画に掲げる目指す成果（施策）ごとに施策評価を実施し、施策ごとの現状と課題を明らかにし、情報共有できるよう、公表しています。

4. 第3期戦略計画(2019~2023)の振り返り

4.1 第3期戦略計画期間内の状況

第3期戦略計画期間内の国内の大きな変化として、2019年11月に中華人民共和国湖北省武漢市で初めて確認された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が、2020年1月に日本国内でも初の感染が見られ、そこから現在に至るまで、日本国内で約45万人もの感染者を出し、今なお収束には至っていないことが挙げられます。この感染症の拡大により、市民生活はもとより社会における仕組みの変容を余儀なくされることになり、生活様式が一変することとなりました。人と人との物理的な接触機会を減らすことによる感染防止策として、テレワークの推進による働き方改革や手続きのオンライン化による行政手続きの省力化などの必要性が高まりました。

本市独自の動態としては、新型コロナウイルス感染症に対応するため、3つの柱「1. 市民を守る～市民生活の支援～」、「2. 経済を活かす～地域経済の活性化～」、「3. 市民の利便性の向上～行政サービスの変革～」の視点から、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、ふるさと寄附金、一般財源(議員報酬10%削減相当分等)を活用し、岸和田市独自支援・対策事業を実施しています。

一方、財政状況は、新型コロナウイルス感染症の影響等を背景とした経済の下振れが見込まれることや人口減少、税法改正に伴う市税収入の減少が見込まれます。そのような中、2019年3月に策定した行財政再建プランの取組を着実に前進させ、成果をあげられるよう進めています。

4.2 重点目指す成果と指標

第3期戦略計画では、将来構想に掲げる「元気あふれる躍動都市 岸和田」を具現化する目標として、特に重点的に取り組むべき成果として、重点目指す成果を設定するとともに、将来イメージを設定しました。これらについては、本市が有する資源を集中的に配分し、行政評価等とも連動しながら、限られた資源を効率的・効果的に活用し、その結果として、他の目指す成果と比較して、大きな成果が得られることを目標に、掲げている『目指そう値』も高めに設定しました。

将来イメージ

重点目指す成果

「人が行き交い、子どもたちの笑顔輝く都市 岸和田」
子どもを生き育てやすい環境が整っている
仕事と子育てが両立できている
等しく教育を受ける機会が保証されている
子どもが個性や能力にあった教育を受けている
市内の移動がスムーズにできている
市民が観光資源に親しみ、多くの観光客でにぎわっている
効率的かつ円滑に業務が実施されている

成果指標

子どもを生き育てやすいと感じている市民の割合／保育所の入所待機児童数／
子どもたちが適正規模・適正配置の学校で学んでいると感じている市民の割合
全国学力・学習状況調査結果における全国平均正答率との差／
市内をスムーズに移動できると感じている市民の割合／
1年間の主要観光施設及びイベント等への入込客数／財政調整基金残高

4.3 成果を測る指標の分析

第3期戦略計画で示した重点目指す成果に係る、結果は以下のとおりです。

指標名	基準値	目指そう値	直近値
子どもを生み育てやすいと感じている市民の割合	25.9% (2018)	30.9% (2022)	23.6% (2020)
保育所の入所待機児童数	38 人 (2018)	0 人 (2022)	27 人 (2020)
子どもたちが適正規模・適正配置の学校で学んでいると感じている市民の割合	39.3% (2018)	44.3% (2022)	40.0% (2020)
全国学力・学習状況調査結果における全国平均正答率との差	国語 A 小6 ▲8.7p 国語 A 中3 ▲5.1p 算数 A 小6 ▲5.5p 数学 A 中3 ▲6.1p (2018)	0.0% (2022)	▲10.8% ▲9.8% ▲6.6% ▲7.8% (2019)
市内をスムーズに移動できると感じている市民の割合	34.1% (2018)	39.1% (2022)	36.1% (2020)
1 年間の主要観光施設及びイベント等※1 への入込客数	295 万人 【76 万人※2】 (2017)	321 万人 【95 万人】 (2021)	240 万人 【72 万人】 (2019)
財政調整基金残高	2,547 百万円 (2017)	3,000 百万円 (2021)	2,749 百万円 (2019)

第3期戦略計画では、「人が行き交い、子どもたちの笑顔輝く都市 岸和田」を目指し、各種計画に基づき、施策を展開してきましたが、指標については、全国学力・学習状況調査結果における全国平均正答率との差以外は、基準値からの改善は見られるものの、目指そう値の達成には至っていません。

また、各目指す成果の達成度を測るため、指標として 185 の指標（6 項目は分析対象外とした。）を設定していました。このうち、現在の時点（2021 年 3 月）で目指そう値に達していたものが 79 指標あり、全体の 42.7%にあたります。一方、基準値よりも下回った指標が 35 指標あり、全体の 18.9%という結果となりました。その他、最終年での結果でないため、数値の上下が大きい指標や数値の傾向が不明な指標は 71 指標あり、38.4%でした。

★分析種類

分類の説明	該当数	割合
直近値で、目指そう値が達成された指標	79	42.7%
数値の上下が大きいなど、数値の傾向が不明な指標	71	38.4%
基準値から悪化している指標	35	18.9%

※なお、数値が把握できなかった指標（6 項目）については、分析対象外としています。

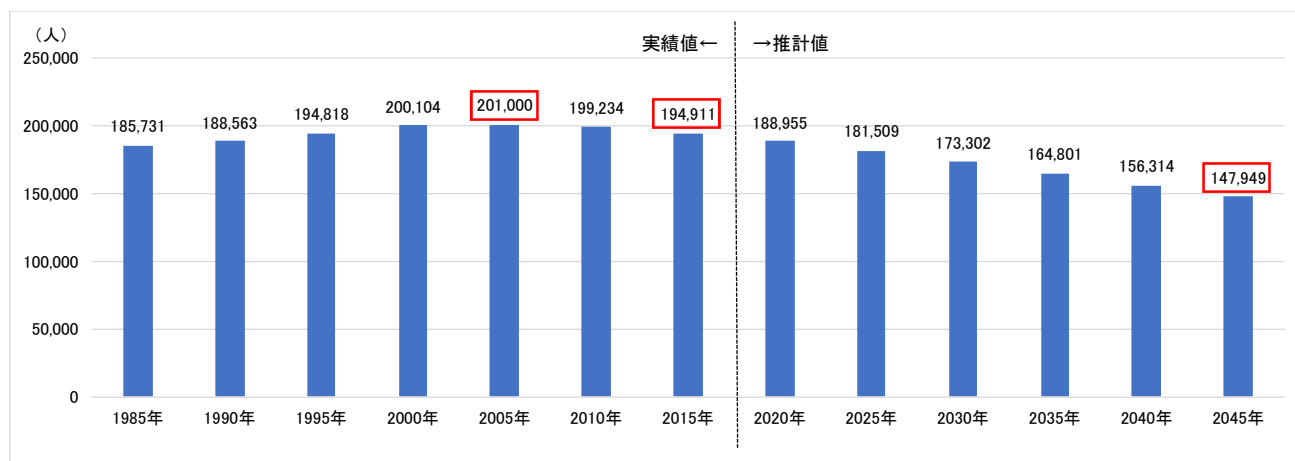
余白

5. 基礎データの推移

5.1 総人口と将来推計

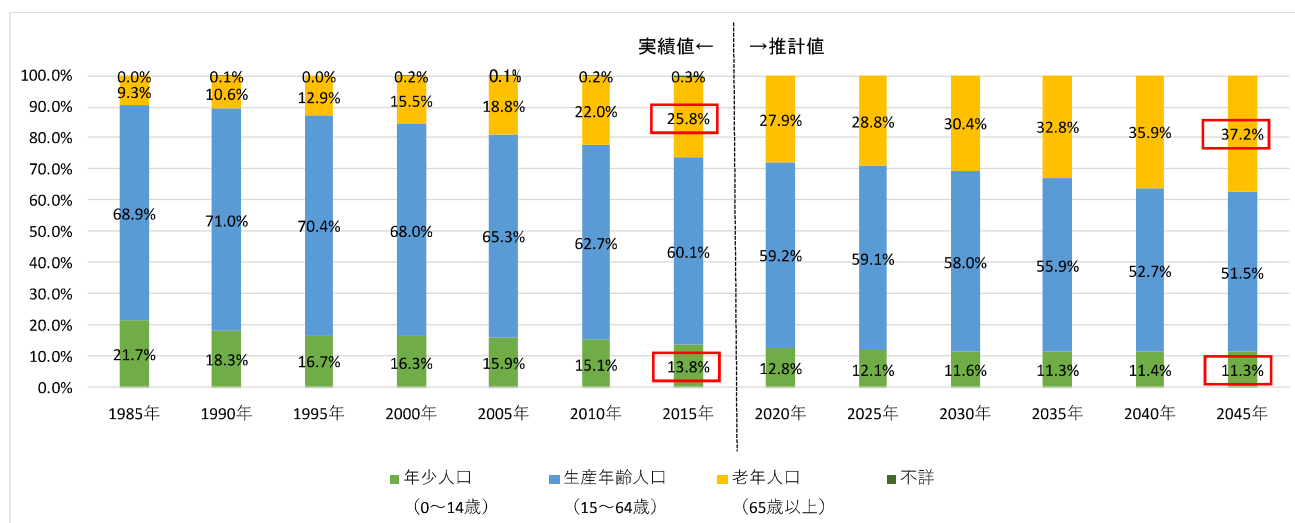
総人口は、2005年の201,000人をピークに減少し、2015年には194,911人となっています。将来推計人口をみると、2030年には173,302人、2045年には147,949人と人口減少が著しく進む推計となっています。一方、年代別人口（3区分）は、2015年では年少人口の構成比が13.8%、生産年齢人口の構成比が60.1%、老年人口の構成比が25.8%であり、将来推計人口における年代別人口の構成比をみると、2030年には老年人口の構成比が30%を超え、少子高齢化がますます進行する推計となっています。大阪府の平均と比較すると、年少人口（0～14歳）及び老年人口（65歳以上）の割合は、大阪府より高い結果がでています。また、2008－2012年の合計特殊出生率は、全国・大阪府と比較して高い結果となっています。

＜岸和田市の総人口の推移と将来推計人口＞



【資料】岸和田市「岸和田市人口ビジョン」に基づき作成

＜岸和田市の年代別人口の推移と将来推計＞



【資料】岸和田市「岸和田市人口ビジョン」に基づき作成

＜全国・大阪府と岸和田市の人口推移についての比較＞

岸和田市が大阪府以上 ↑ 岸和田市が大阪府未満 ↓

推移情報	全国平均	大阪府平均	岸和田市	
年少人口割合	12.50% ※1	12.37% ※1	13.80% ※1	↑
生産年齢人口割合	60.33% ※1	60.43% ※1	60.06% ※1	↓
老年人口割合	26.33% ※1	25.77% ※1	25.84% ※1	↑
合計特殊出生率	1.38% ※2	1.35% ※3	1.54% ※2	↑

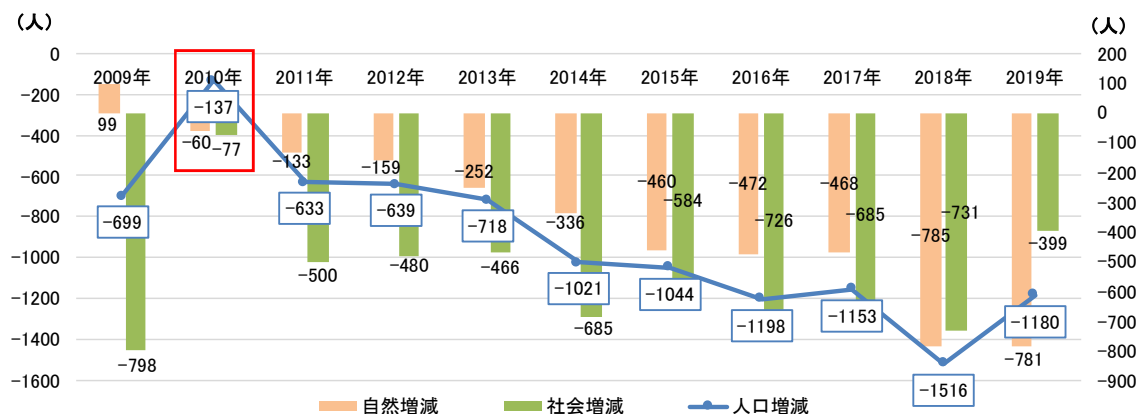
※1 2015 年の数値 ※2 2008-2012 年の合計特殊出生率 ※3 2018 年の合計特殊出生率

【資料】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、時系列分析：総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

5.2 人口増減の推移

人口の社会減（転出）は 2002 年度から、自然減（住居の移動による人口の増減を除いた人口の減少。死亡数から出生数を減じた数）は 2010 年度から生じています。

＜岸和田市の人口動態の推移＞ 【資料】岸和田市「岸和田市人口ビジョン」に基づき作成



＜自然増減・社会増減の推移の岸和田市・大阪府との比較＞



【出典】都道府県：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「住民基本台帳人口移動報告年報」

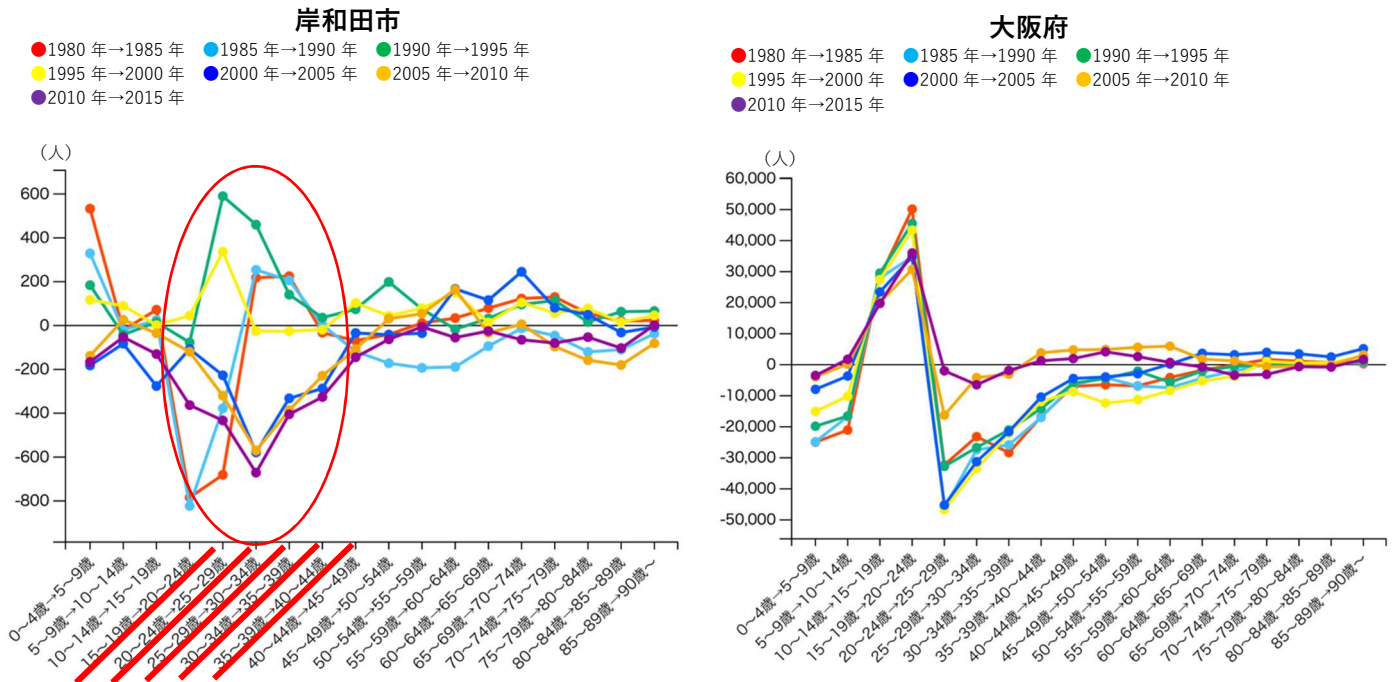
市区町村：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】都道府県：2013 年までは日本人のみ、2014 年以降は外国人を含む数字。

市区町村：2012 年までは年度データ、2013 年以降は年次データ。2011 年までは日本人のみ、2012 年以降は外国人を含む数字。

また、人口の社会増減を時代の推移で見たときには、2000 年代を境に傾向が変わっています。若年層の転出が進んでおり、2000 年以降は 25～29 歳→30～34 歳の転出超過が最も多い状況です。

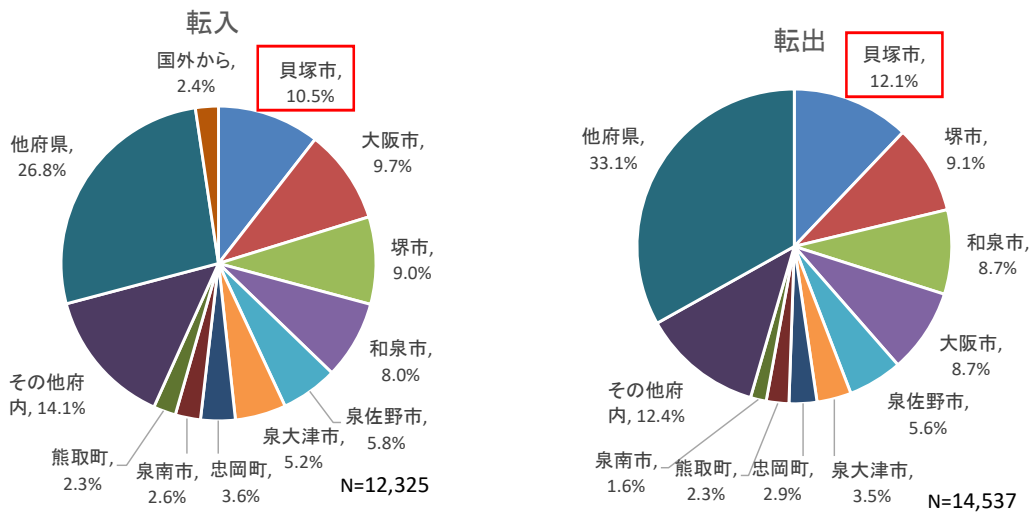
＜年代別社会増減の推移の岸和田市・大阪府との比較＞



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

転出先をみると、近隣市町を含む大阪府内が約 7 割と多く、中でも貝塚市、堺市、和泉市、大阪市への転出が多くなっています。一方、転入先をみると、近隣市町を含む大阪府内が約 7 割と多く、中でも貝塚市、大阪市、堺市、和泉市からの転入が多くなっています。

＜近隣市町との転出入動向(2015 年)＞



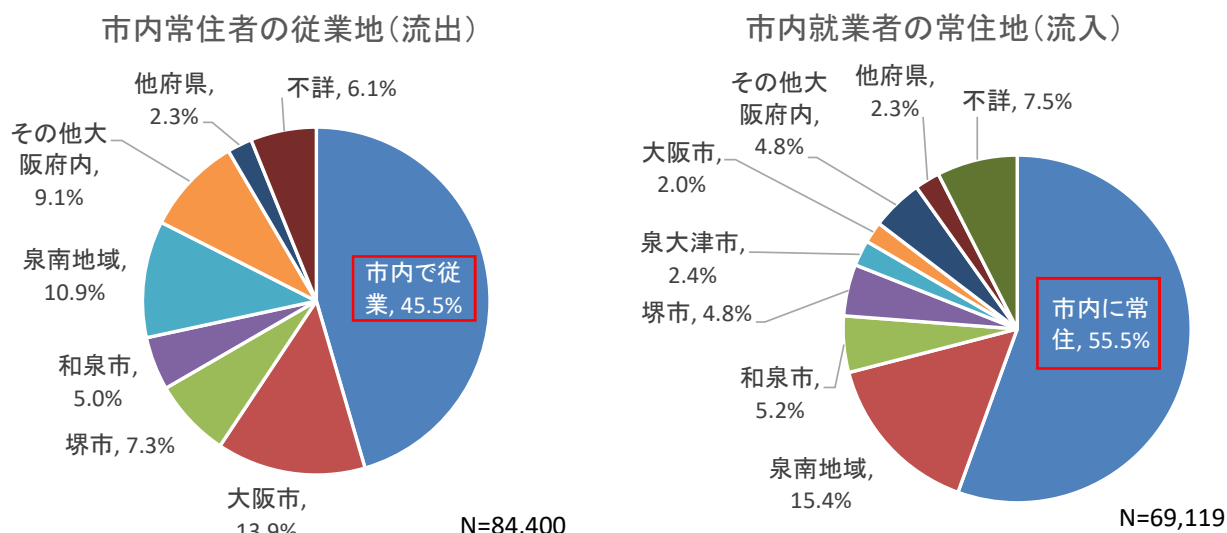
【出典】総務省「国勢調査」

5.3 通勤先の動向

2015 年における 15 歳以上就業者の流出入の動向をみると、市内常住者の従業地の 45.5% が市内となっています。また、市内に次いで多いのは、大阪市、泉南地域（貝塚市、泉佐野市など）、堺市となっています。

市内就業者の常住地をみると、55.5% が市内常住者と半数以上が市内となっています。また、市内に次いで多いのは、泉南地域、和泉市となっています。

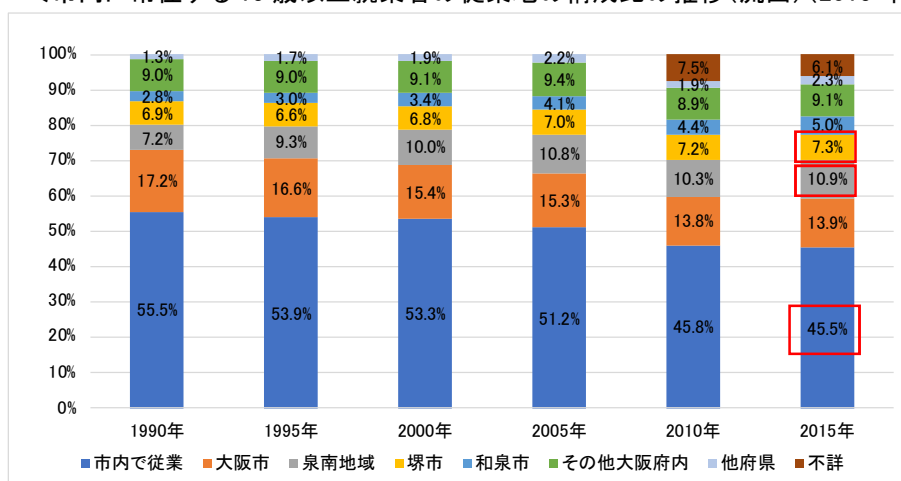
＜岸和田市の流出入人口（2015 年）＞



【出典】総務省「国勢調査」

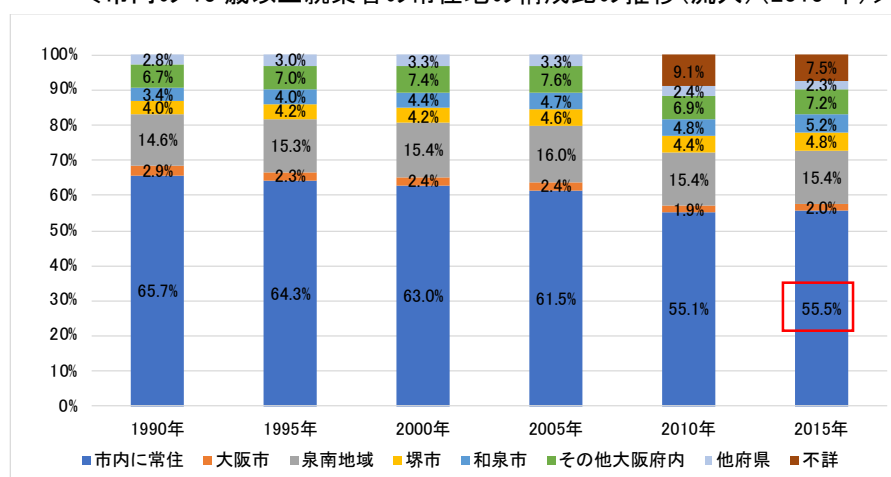
次に、市内常住者のうち、市内で従業する人の割合は減少傾向、泉南地域（貝塚市、泉佐野市など）、堺市、和泉市等周辺都市への流出が増加傾向にあります。また、市内就業者のうち、市内に常住する人の割合は減少傾向にあります。

＜市内に常住する 15 歳以上就業者の従業地の構成比の推移（流出）（2015 年）＞



【出典】総務省「国勢調査」

＜市内の15歳以上就業者の常住地の構成比の推移(流入)(2015年)＞

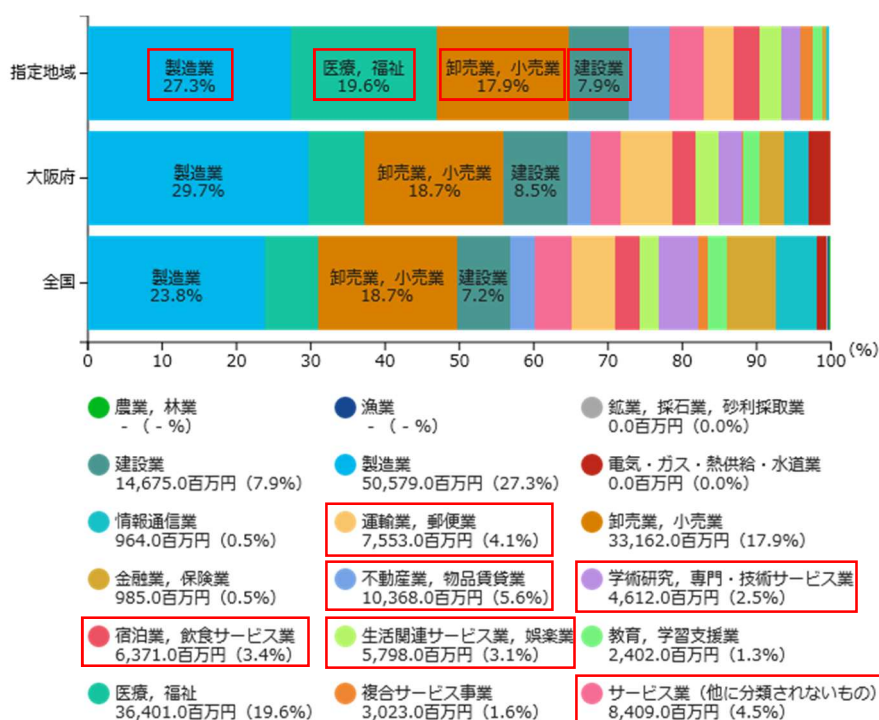


【出典】総務省「国勢調査」

5.4 産業の動向

付加価値額(企業単位)の割合が高い産業は、「製造業」「医療・福祉」「卸売業・小売業」「建設業」となっています。

付加価値額(企業単位) 2016 年
指定地域: 大阪府岸和田市

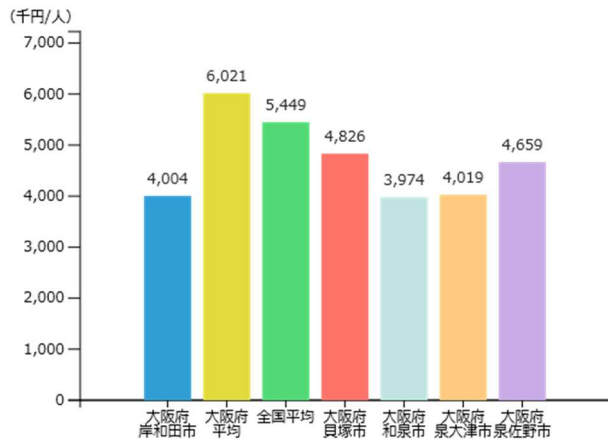


【出典】総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工

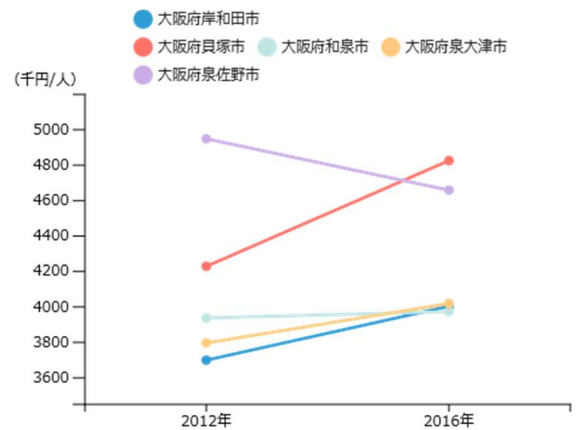
【注記】付加価値額 = 売上高 - 費用総額 + 給与総額 + 租税公課 (費用総額 = 売上原価 + 販売費及び一般管理費)

企業単位（製造業以外も含む）の労働生産性は、全国平均、大阪府平均よりも低く、近隣市との比較においても低い状況です。2012年から2016年の推移では増加傾向にあります。

<大阪府・全国・近隣市との比較(2016 年)>



<近隣市と比較した推移>



【出典】総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工 【注記】労働生産性＝付加価値額÷常用従業員数

次に、地域のお金の流れを生産、分配、支出の三段階で表示し、各段階におけるお金の流出・流入状況を表示した地域経済循環マップの結果では、分配（所得）は地域外からの流入が多く、市外で働いている市民が多いことを示し、支出の民間消費額は地域外からの流入が多くなっています。地域経済循環率は73.0%となっており、他地域からの流入する所得に依存する割合が高くなっています。

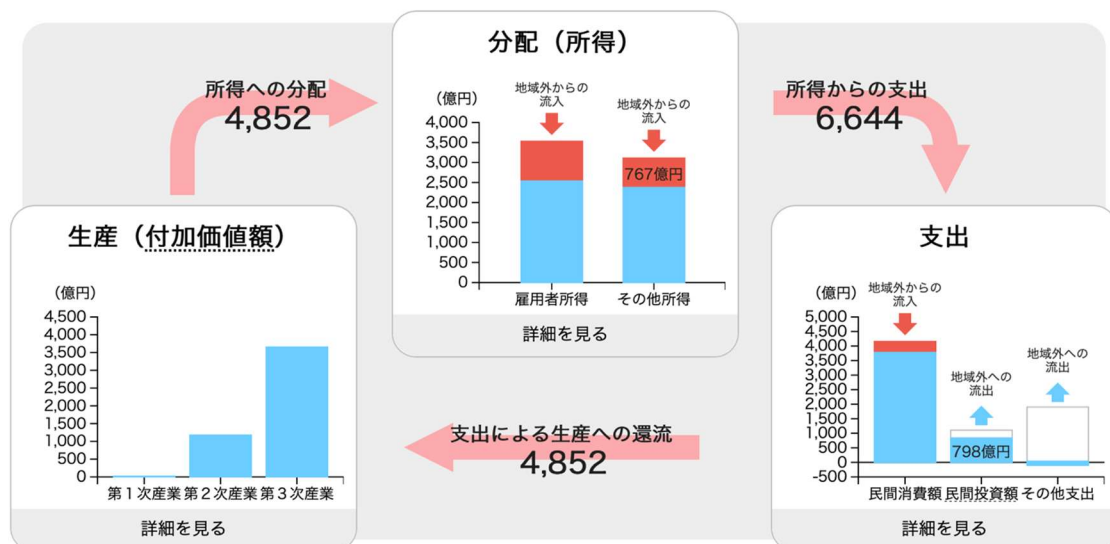
地域経済循環率

73.0%

地域経済循環図

2015年

指定地域：大阪府岸和田市



【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）
地域経済循環分析 <http://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html>

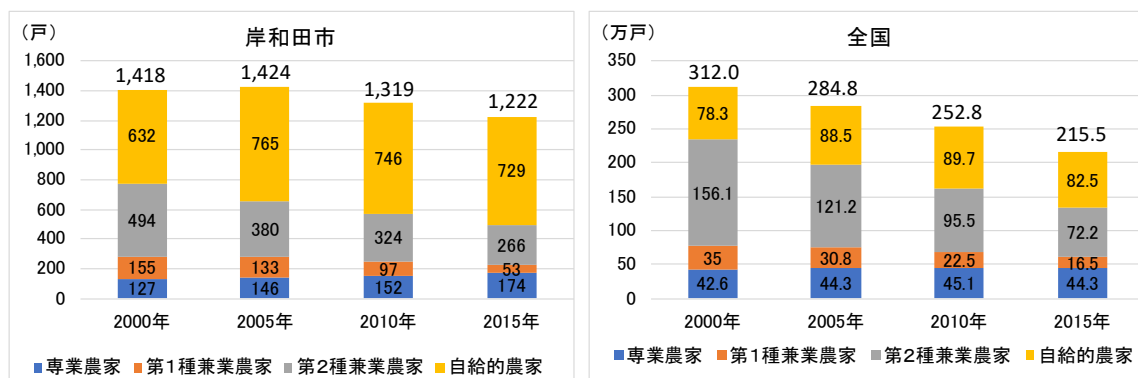
地域経済循環率	生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）
雇用者所得	主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等をいう。
その他所得	財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成される。
その他支出	政府支出＋「地域内産業の移輸出-移輸入」により構成される。例えば、移輸入が移輸出を大きく上回り、その差が政府支出額を上回る場合（域外からの財・サービスの購入を通じた所得流出額が政府支出額よりも大きい場合）は、「その他支出」の金額がマイナスとなる。
支出流出率	地域内に支出された金額に対する地域外から流入・地域外に流出した金額の割合で、プラスの値は地域外からの流入、マイナスの値は地域外への流出を示す。

5.5 農林水産業の動向

農家数は全国の動向と同様に減少を続けていますが、専業農家は2000年から2015年にかけて増加を続けています。農家の半数以上が自給的農家と、全国より高い割合となっています。

経営耕地面積は大阪府内で4位、農産物生産額（耕種）は大阪府内で1位であり、大阪府内では有数の農業生産地です。タマネギ、水ナス、包近の桃、いちじく、花き等が特産品であり、2011年に農産物直売所「愛彩ランド」がオープンしています。

＜岸和田市・全国の販売農家数の推移＞



【出典】農林水産省「農林業センサス」

注1：「販売農家」とは、経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家をいう

注2：「専業農家」とは、世帯員の中に兼業従事者が一人もない農家

注3：「兼業農家」とは、世帯員の中に兼業従事者が一人以上いる農家

注4：「第1種兼業農家」とは、農業を主とする兼業農家

注5：「第2種兼業農家」とは、農業を従とする兼業農家

注6：「自給的農家」とは、経営耕地面積30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家をいう

＜大阪府内の経営耕地総面積上位10位＞

単位: ha

	市町村	経営耕地総面積
1位	能勢町	626
2位	堺市	505
3位	泉佐野市	390
4位	岸和田市	347
5位	茨木市	333
6位	和泉市	316
7位	高槻市	277
8位	枚方市	271
9位	富田林市	270
10位	泉南市	207

【出典】農林水産省「農林業センサス」

＜大阪府内の農業産出額(耕種)上位10位＞

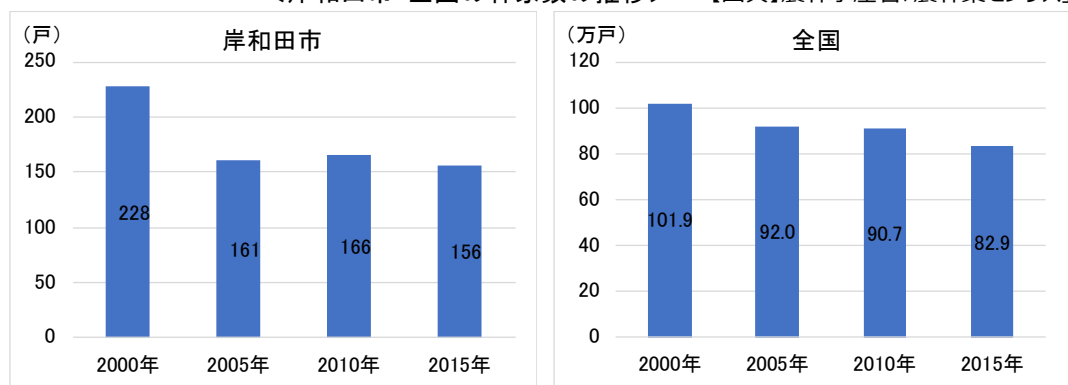
単位: 1,000万円

	市町村	農業産出額(耕種)
1位	岸和田市	269
2位	泉佐野市	237
3位	堺市	232
4位	羽曳野市	227
5位	貝塚市	222
6位	泉南市	214
7位	和泉市	201
8位	富田林市	171
9位	八尾市	134
10位	能勢町	124

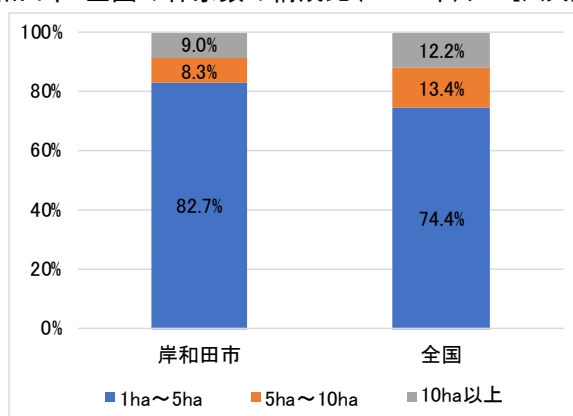
【出典】農林水産省「2018年度市町村別農業産出額（推計）」

林家数は全国の動向と同様に減少傾向にあり、保有山林規模別の林家数の構成比を全国と比較すると、林家の82.7%が保有山林規模1ha～5haで、全国よりも小規模林家の占める割合が高いです。

＜岸和田市・全国の林家数の推移＞ 【出典】農林水産省「農林業センサス」

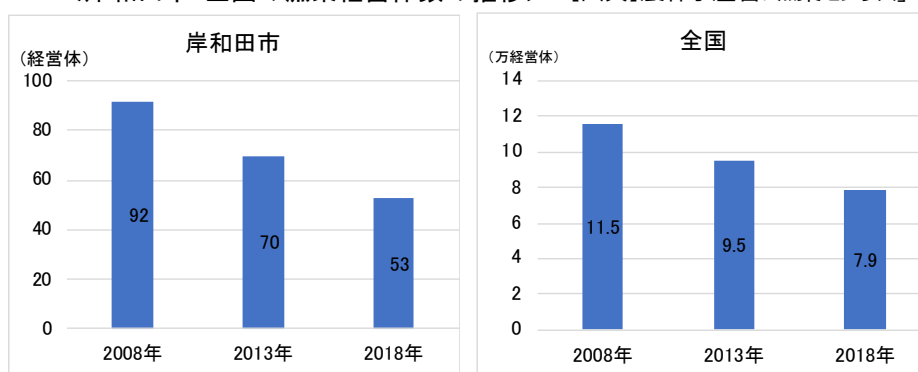


＜保有山林規模別にみた岸和田市・全国の林家数の構成比(2015年)＞ 【出典】農林水産省「農林業センサス」

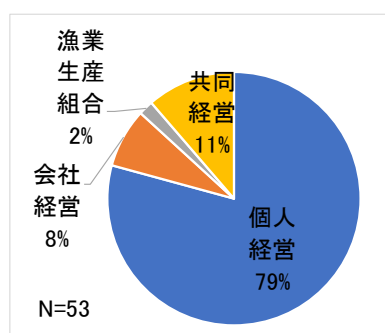


漁業経営体数は全国の動向と同様に減少を続けており、漁業経営体の経営組織は、ほとんどが個人経営となっていますが、大阪府内の漁獲量に占める割合は82%と、多くのシェアを占めています。

＜岸和田市・全国の漁業経営体数の推移＞ 【出典】農林水産省「漁業センサス」

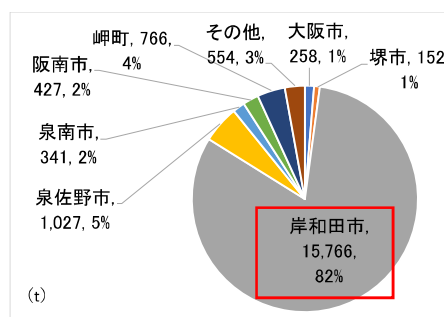


＜岸和田市の経営組織別漁業経営体数の構成比(2018年)＞



【出典】農林水産省「漁業センサス」

＜市町別大阪府の漁獲量(2017年)＞

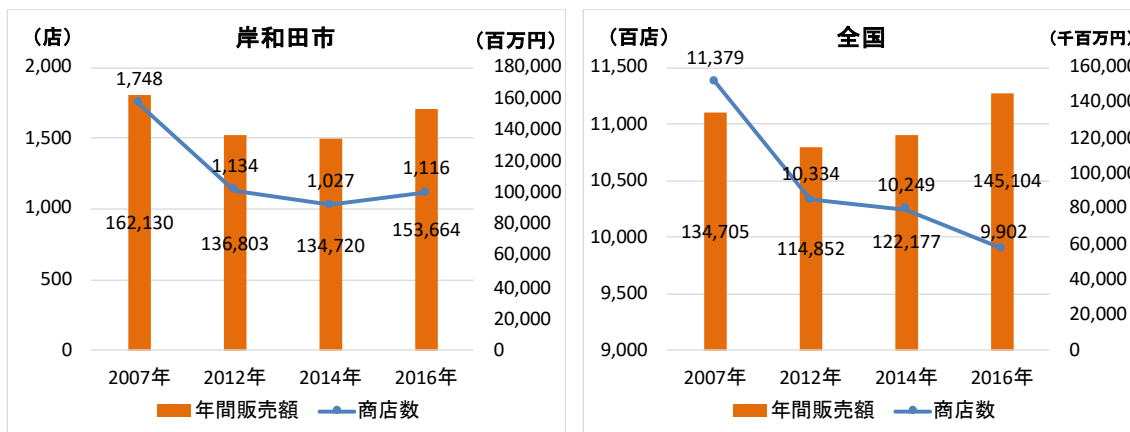


【出典】農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

5.6 商業の動向

小売業の商店数は、全国と同様減少傾向にありますますが、2014年から2016年にかけては増加しています。年間販売額については、2014年までは減少を続けていましたが、2014年から2016年にかけては増加しており、景気回復の影響を背景とした全国の動向と同様となっています。商店街の会員数は減少しているほか、組織を解散する商店街もみられます。

＜岸和田市・全国の小売業の商店数と年間販売額の推移＞ 【出典】経済産業省「商業統計調査」



＜市内商店街会員数＞

No	商店街名	2001年	2007年	2013年	2020年	備 考
1	蛸地藏商店街	55	42	26	21	
2	かじやまち	50	51	20	28	(旧中央商店街・らんかん橋商店街)
3	岸和田駅前通商店街	68	72	67	58	
4	岸和田本通り商店街	48	37	23	26	
5	寿栄広商店街	50	45	31	34	
6	城見橋筋商店街	40	23	21	13	
7	野田町商栄会	45	39	33	33	
8	春木駅前通商店街	40	29	34	21	
9	春木旭商店街	69	73	51	36	
10	久米田駅前商店街	60	46	44	35	
11	別所町商店会(天神宮通り商店会)	33	20	19	20	
12	泉州卸売商業団地協同組合	—	—	—	37	2017から
—	下松駅前商店会	8	4	解散	—	
—	東岸和田駅前商店街	56	38	解散	—	

【出典】岸和田市産業政策課

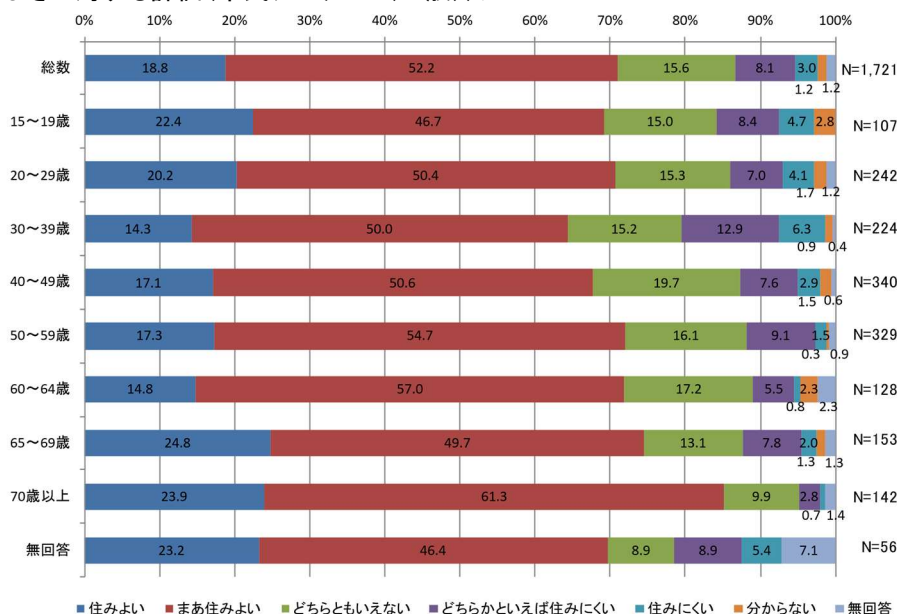
6. 市民アンケート調査からみる岸和田市の現状と市民ニーズ

6.1 岸和田市の住みよさに対する評価

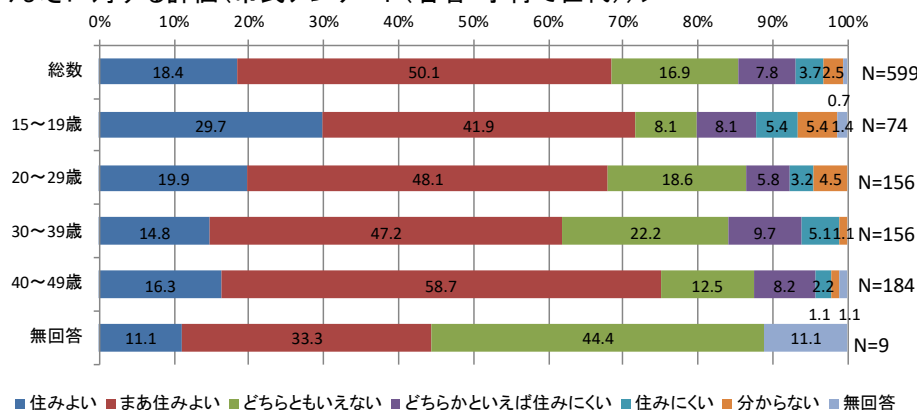
- 住みよいと感じている市民は全体の約7割、住みにくと感じている市民は約1割
- 30歳代で住みにくと感じている市民が約2割と多い。

- ・市民アンケート（15歳以上の全年代1,721人を対象としたアンケート。以下「市民アンケート（一般）」という。）では、岸和田市の住みよさについて、「住みよい」と「まあ住みよい」を合わせた住みよいとの回答が71%、「住みにく」と「どちらかといえば住みにく」を合わせた住みにくとの回答が11.1%となっており、過去の市民意識調査とおおむね同様の結果となっています。
- ・市民アンケート（15～49歳の599人を対象としたアンケート。以下「市民アンケート（若者・子育て世代）」という。）では、住みよいとの回答が68.5%、住みにくとの回答が11.5%と同等の結果となっています。
- ・年代別に市民アンケート（一般）をみると、30歳代で住みにくとの回答が19.2%と多くなっています。

<年代別の住みよさに対する評価(市民アンケート(一般))>



<年代別の住みよさに対する評価(市民アンケート(若者・子育て世代))>

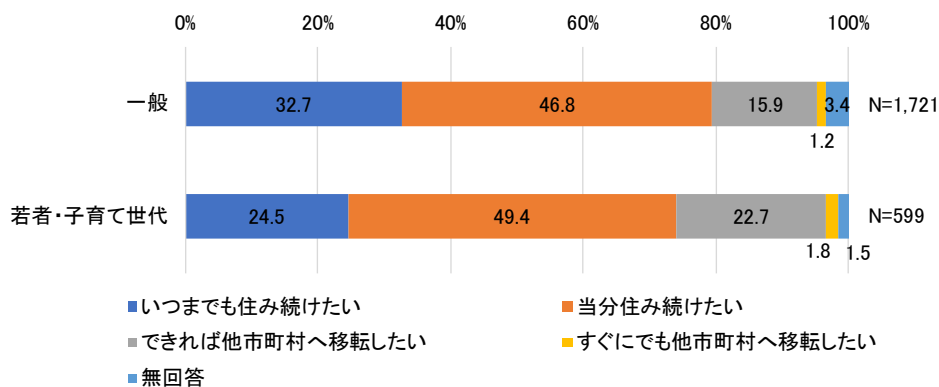


6.2 今後の定住意向

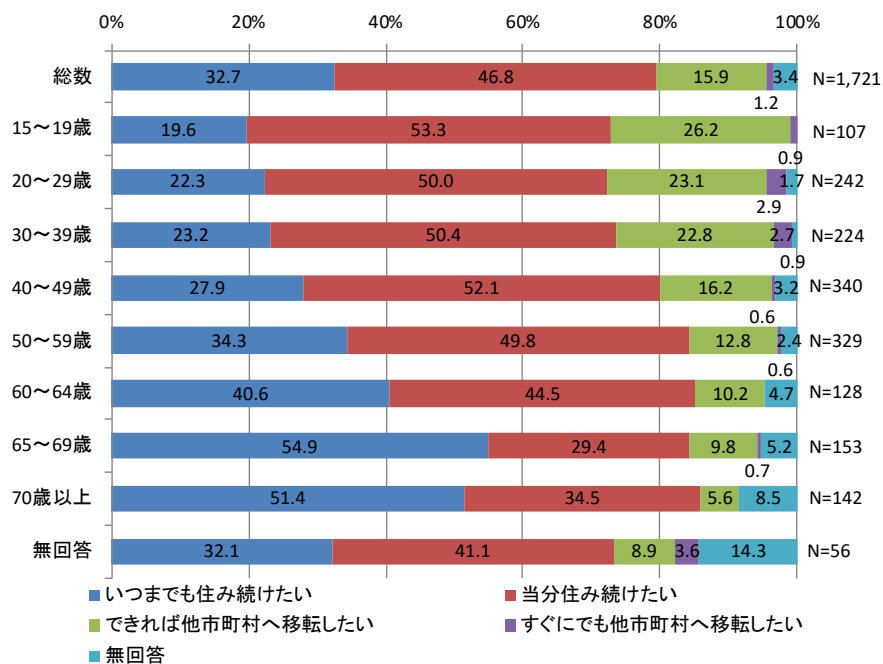
- 全世代では住み続けたいが約8割、移転したいが2割弱
- 全世代に比べ、若者・子育て世代の定住意向は低い。
- 特に、10～30代の定住意向が低い。

- ・ 市民アンケート（一般）では、今後の定住意向について、「いつまでも住み続けたい」と「当分住み続けたい」を合わせた住み続けたいとの回答が 79.5%、「できれば他市町村へ移転したい」と「すぐにでも他市町村へ移転したい」を合わせた移転したいが 17.1%となっています。一方、市民アンケート（若者・子育て世代）では、住み続けたいとの回答が 73.9%とやや市民アンケート（一般）より低く、移転したいが 24.5%と高いです。
- ・ 市民アンケート（一般）の今後の定住意向を年代別にみると、10 歳代・20 歳代・30 歳代で移転したいが他の年代に比べて高く、60 歳代以上は低くなっています。

<今後の定住意向(市民アンケート(一般／若者・子育て世代))>



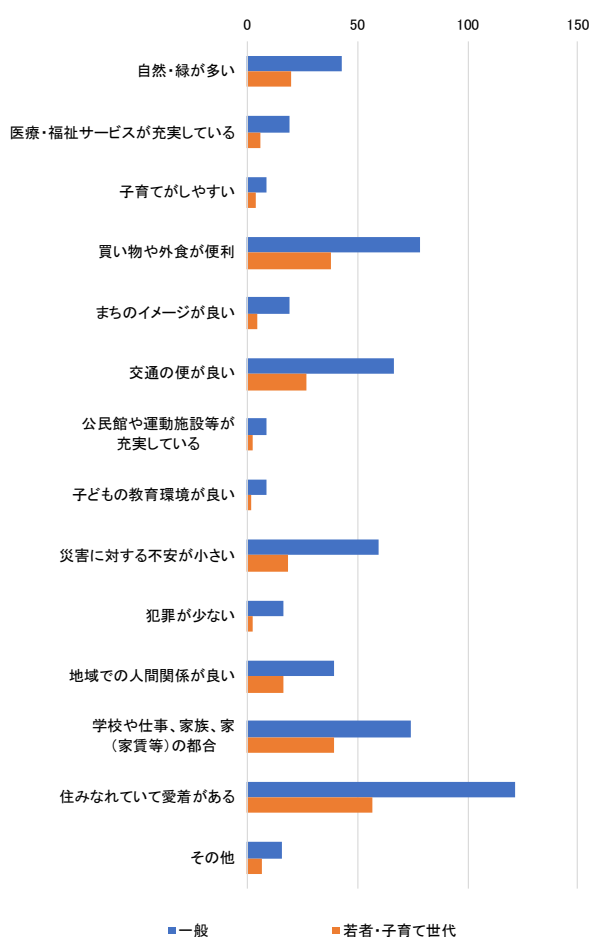
<年代別今後の定住意向(市民アンケート(一般))>



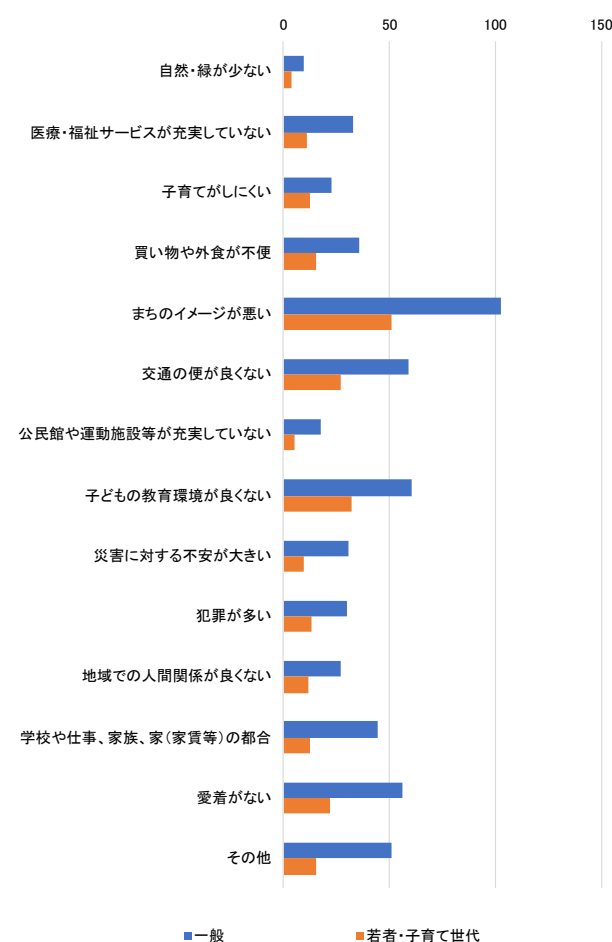
- 住み続けたい理由の上位は一般（全世代）、若者・子育て世代ともに「住み慣れていて愛着がある」、「買い物や外食が便利」、「学校や仕事、家族、家の都合」、「交通の便が良い」
- 住み続けたくない理由の上位は一般（全世代）、若者・子育て世代ともに「まちのイメージが悪い」、「交通の便が良くない」、「子どもの教育環境が良くない」

- ・「住み続けたい」理由の上位は、「住み慣れていて愛着がある」、「買い物や外食が便利」、「学校や仕事、家族、家、家賃等の都合」、「交通の便が良い」であり、市民アンケート（一般）と市民アンケート（若者・子育て世代）とで同様の結果となっています。
- ・「住み続けたくない理由」の上位は、「まちのイメージが悪い」、「交通の便が良くない」、「子どもの教育環境が良くない」、「愛着がない」であり、市民アンケート（一般）と市民アンケート（若者・子育て世代）とで同様の結果となっています。特に、市民アンケート（一般）の年代別では、10 歳代で「まちのイメージが悪い」が他の年代より多く、10 歳代・30～40 歳代での「子どもの教育環境が良くない」が他の年代より多くなっています。

<住み続けたい理由(市民アンケート(一般/若者・子育て世代))>



<住み続けたくない理由(市民アンケート(一般/若者・子育て世代))>



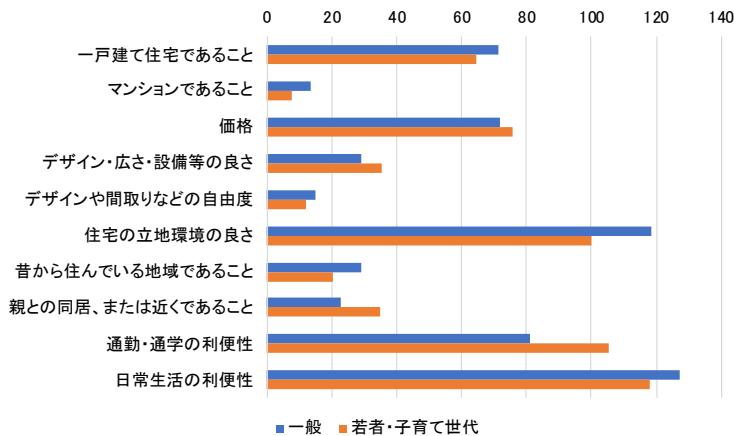
* 住み続けたい理由・住み続けたくない理由それぞれ回答者1人につき3つまで選択

上記のグラフでは、各項目選択された数の和を各項目の回答者数で除し、100 を乗じた数値を表示

- 今後住み替えを行うとしたら重視する項目の上位は、一般（全世代）、若者・子育て世代ともに「日常生活の利便性」、「住宅の立地環境の良さ」、「通勤・通学の利便性」

・ 今後住み替えを行うとしたら重視する項目の上位は、「日常生活の利便性」、「住宅の立地環境の良さ」、「通勤・通学の利便性」であり、市民アンケート（一般）と市民アンケート（若者・子育て世代）とで同様の結果となっています。

＜今後住み替えを行うとしたら重視する項目（市民アンケート（一般／若者・子育て世代））＞



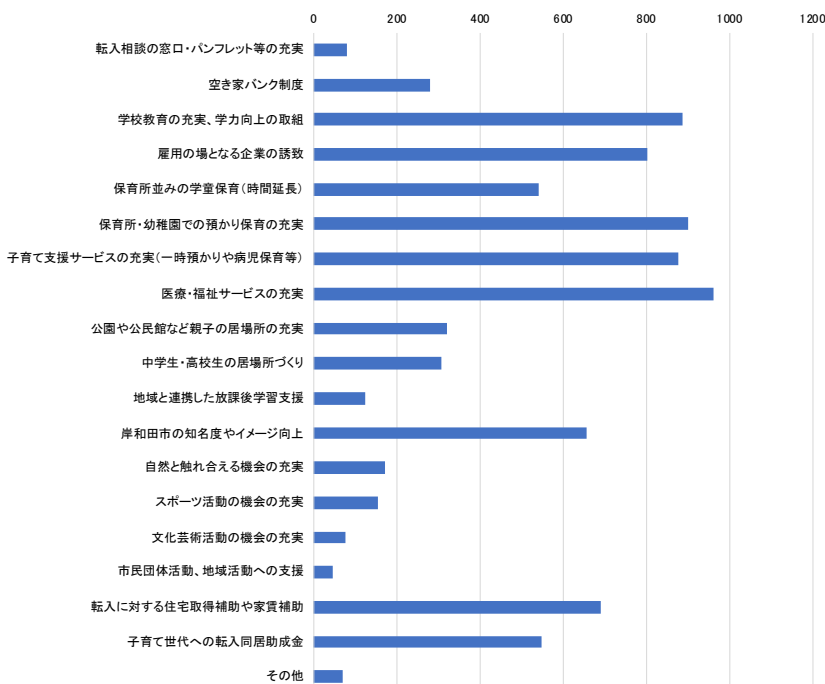
* 重視する項目を1位から3位まで選択
左のグラフでは、1位に3ポイント、2位に2ポイント、3位に1ポイントを付与した数値の和を回答者数で除し、100 を乗じた数値を表示

6.3 若い世代を増やすために必要な取組

- 若い世代を増やすために魅力となる行政サービスとして重要度1位なのは「学校教育の充実、学力向上の取組」、総合では「医療・福祉サービスの充実」、「保育所・幼稚園での預かり保育の充実」

・ 市民アンケート（若者・子育て世代）で、岸和田に若い世代を増やすために魅力となる行政サービスの上位は、「医療・福祉サービスの充実」、「保育所・幼稚園での預かり保育の充実」、「学校教育の充実、学力向上の取組」、「子育て支援サービスの充実」、「雇用の場となる企業の誘致」となっています。また、重要度1位に最も多く選ばれたのは「学校教育の充実、学力向上の取組」となっています。

＜岸和田市に若い世代を増やすために魅力となる行政サービス（市民アンケート（若者・子育て世代））＞



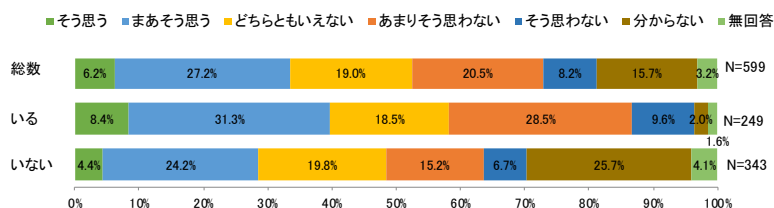
* 最もあてはまる項目を1位から5位まで選択
左のグラフでは、1位に5ポイント、2位に4ポイント、3位に3ポイント、4位に2ポイント、5位に1ポイントを付与した数値の和を表示

6.4 子どもを生み育てやすいまちとしての評価

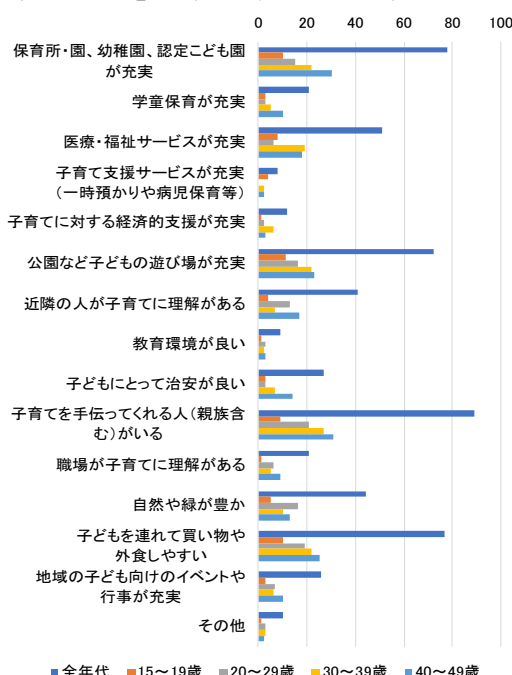
- 子どもを生み育てやすいまちだと思う市民は約3割、思わない市民の割合をやや上回る。
- 子どもを養育中の人では、そう思う市民が約4割と全体より高いが、そう思わない市民も約4割と高い。
- そう思う理由の上位は「子育てを手伝ってくれる人がいる」、「保育所等が充実」、「子どもを連れて買い物や外食しやすい」
- そう思わない理由の上位は「教育環境が悪い」、「子育てに対する経済的支援が不十分」、「子どもにとって治安が悪い」

- ・ 市民アンケート（若者・子育て世代）では、子どもを生み育てやすいまちだと思うかについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせたそう思う市民の割合（33.4%）が、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせたそう思わない市民の割合（28.7%）をやや上回る結果となっています。
- ・ 養育中の子どもの有無別でみると、子どもがいる人は、いない人よりもそう思う割合が高い一方で、子どもがいる人のそう思わない割合がそう思う割合と同等程度となっています。
- ・ そう思う理由の上位に挙げられたのは、「子育てを手伝ってくれる人（親族を含む）がいる」、「保育所・園、幼稚園、認定こども園が充実」、「子どもを連れて買い物や外食しやすい」となっています。
- ・ そう思わない理由の上位に挙げられたのは、「教育環境が悪い」、「子育てに対する経済的支援が不十分」、「子どもにとって治安が悪い」となっています。特に、30歳代で「子育てに対する経済的支援が不十分」が他の年代に比べて多く挙げられています。

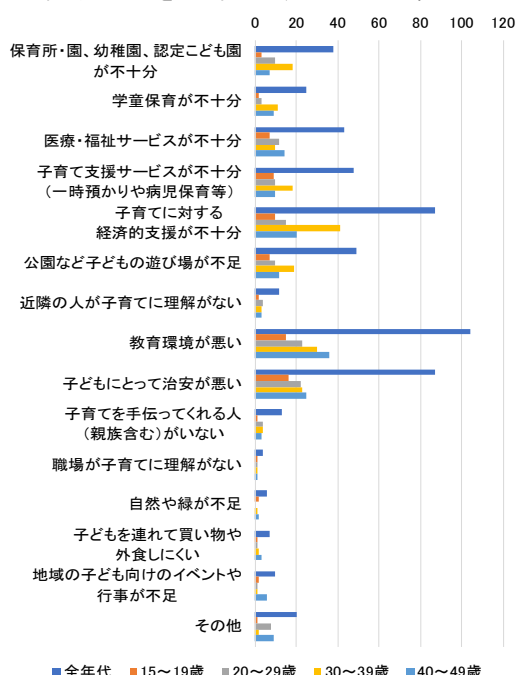
＜子どもの有無別の子どもを生み育てやすいまちだと思うか（市民アンケート（若者・子育て世代））＞



＜年代別子どもを生み育てやすいまちだと思う理由＞



＜年代別子どもを生み育てやすいまちだと思わない理由＞



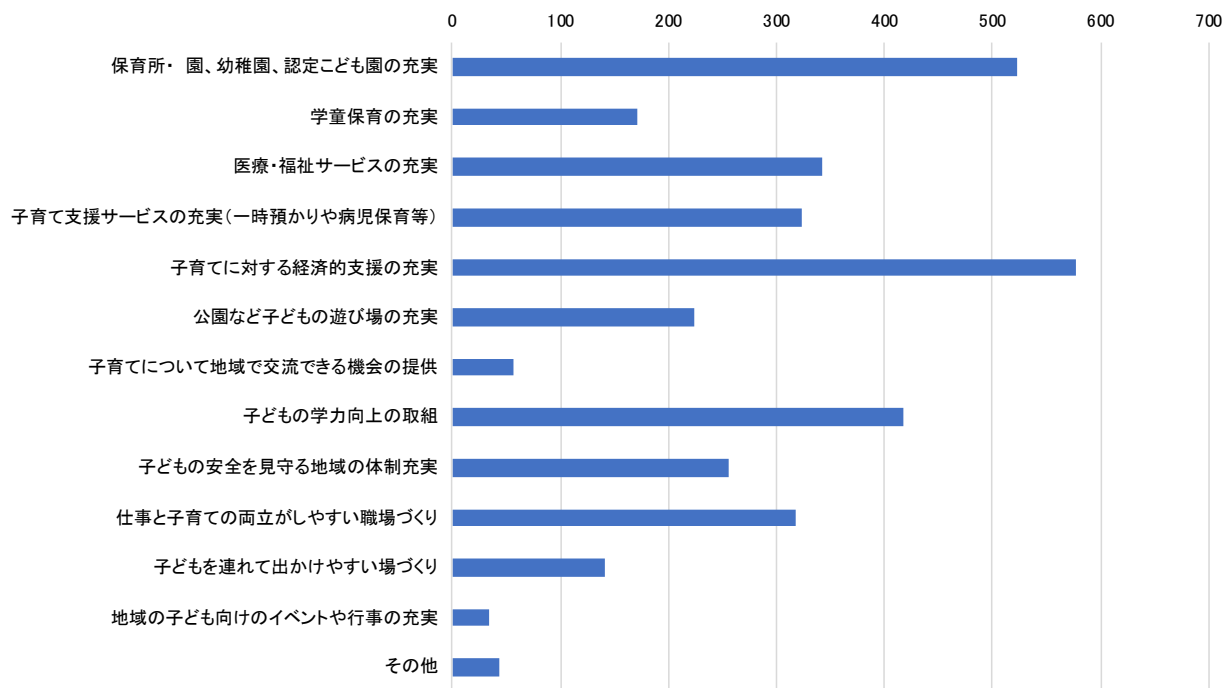
* 最もあてはまる項目を3つまで選択

上のグラフでは、各項目選択された数を集計した数値を表示

- 子育て環境を良くするために重要な取組の重要度1位は「保育所・園・幼稚園、認定こども園の充実」、総合では「子育てに対する経済的支援の充実」、「保育所・園・幼稚園、認定こども園の充実」、「子どもの学力向上の取組」

・今後岸和田の子育て環境を良くするために重要な取組として、上位に挙げられたのは「子育てに対する経済的支援の充実」、「保育所・園・幼稚園、認定こども園の充実」、「子どもの学力向上の取組」となっています。また、重要度1位として最も多く選ばれたのは、「保育所・園・幼稚園、認定こども園の充実」でした。

<子育て環境を良くするために重要な取組(市民アンケート(若者・子育て世代))>



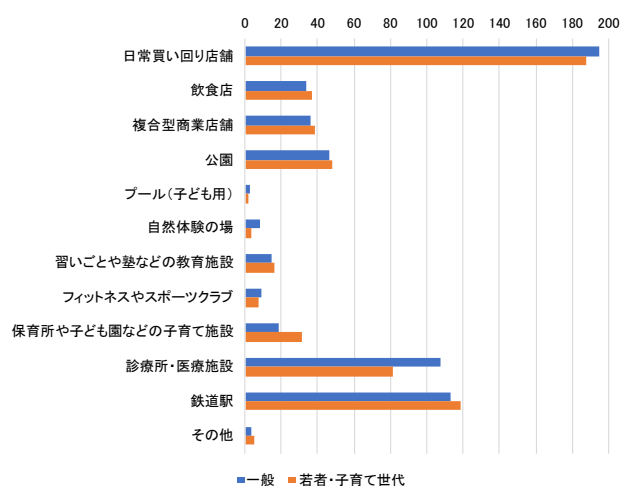
上のグラフでは、1位に3ポイント、2位に2ポイント、3位に1ポイントを付与した数値の和を表示

6.5 住まいの周辺に求めるもの

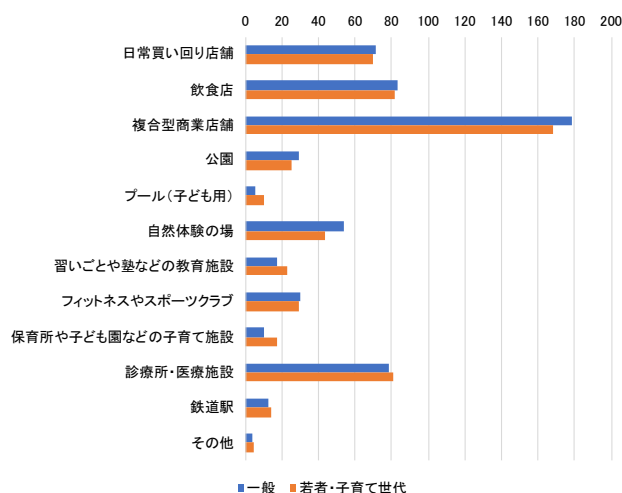
- 歩いていける範囲にあったら良いものは「日常買い回り店舗」、「鉄道駅」、「診療所・医療機関」
- 車で行きやすいところにあったら良いものは「複合型商業店舗」、「飲食店」、「診療所・医療機関」

- ・住まいから歩いていける範囲にあったら良いと思うものの上位は、「日常買い回り店舗」、「鉄道駅」、「診療所・医療機関」であり、市民アンケート（一般）と市民アンケート（若者・子育て世代）とで同様の結果となっています。
- ・車で行きやすいところにあったら良いものは「複合型商業店舗」、「飲食店」、「診療所・医療機関」、「日常買い回り店舗」であり、市民アンケート（一般）と市民アンケート（若者・子育て世代）とで同様の結果となっています。

＜住まいから歩いていけるところにあったら良いもの＞
（市民アンケート（一般／若者・子育て世代））



＜住まいから車で行きやすいところにあったら良いもの＞
（市民アンケート（一般／若者・子育て世代））



* 最もあてはまる項目を1位から3位まで選択

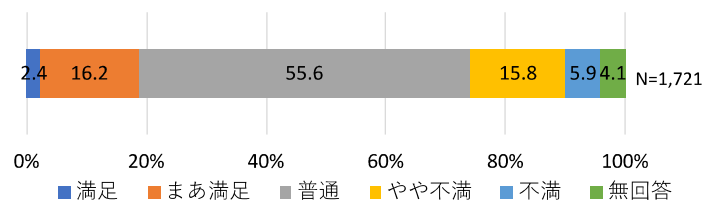
上のグラフでは、1位に3ポイント、2位に2ポイント、3位に1ポイントを付与した数値の和を回答者数で除し、100 を乗じた数値を表示

6.6 市のまちづくりの取組に対する市民の評価

- 市のまちづくりの取組に対して総合的には「普通」との回答が多いが、満足より不満が上回る。
- 満足の上位は「安全で良質な水道水の供給」や「市民病院の充実」、「ごみの減量化とリサイクルの促進」等
- 不満の上位は「商店街への支援」や「道路・交通網の整備」、「まちの美化対策」等

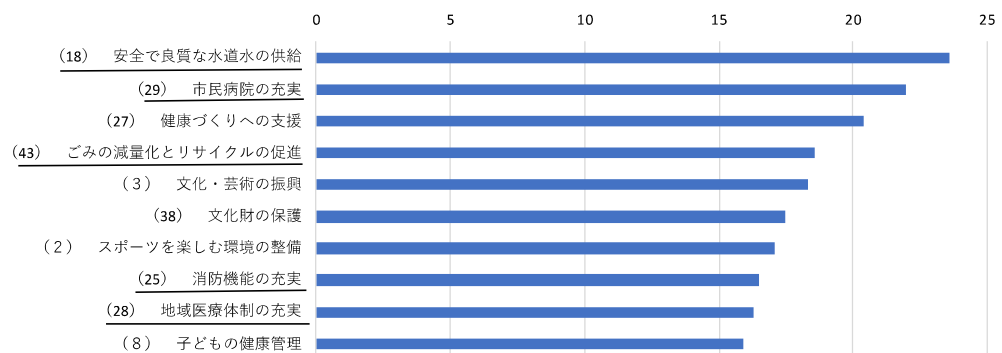
- ・ 市民アンケート（一般）では、岸和田のまちづくりの取組に対する総合的な満足度は、「普通（55.6%）」が最も多いが、「満足（18.6%）」よりも「不満（21.7%）」の方が上回っています。
- ・ 54 個の市の取組の「満足」、「まあ満足」と回答した人の割合（以下「満足率」という。）の上位 10 位と、「不満」、「やや不満」と回答した人の割合（以下「不満率」という。）の上位 10 個をみると、満足率の上位は「安全で良質な水道水の供給」、「市民病院の充実」、「健康づくりへの支援」等となっており、10 個の取組のうち 5 個の取組が過年度における市民意識調査においても満足率上位 10 位に入っています。また、不満率の上位は「まちの美化対策」、「道路・交通網の整備」、「商店街等への支援」等となっており、10 個の取組のうち 2 個の取組が 2020 年度における市民意識調査においても不満率上位 10 位に入っています。

<岸和田のまちづくりの取組に対する総合的な満足度(市民アンケート(一般))>

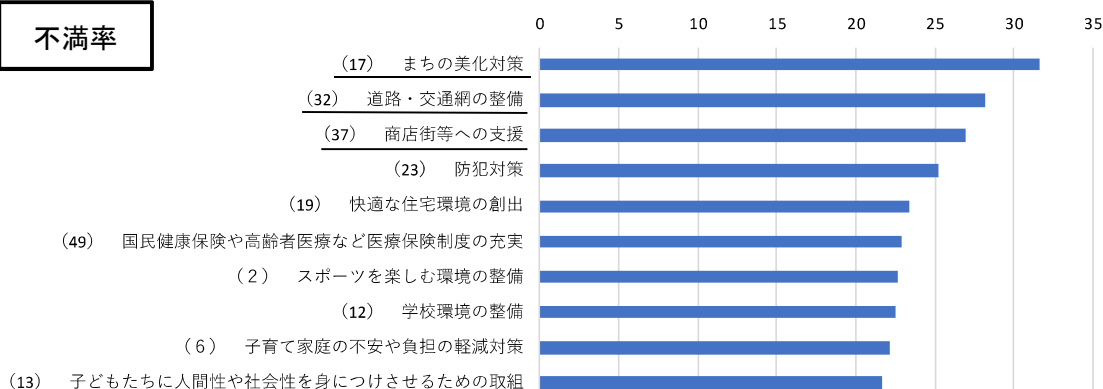


<岸和田のまちづくりの取組に対する満足率・不満率の上位 10 位(市民アンケート(一般))>

満足率



不満率

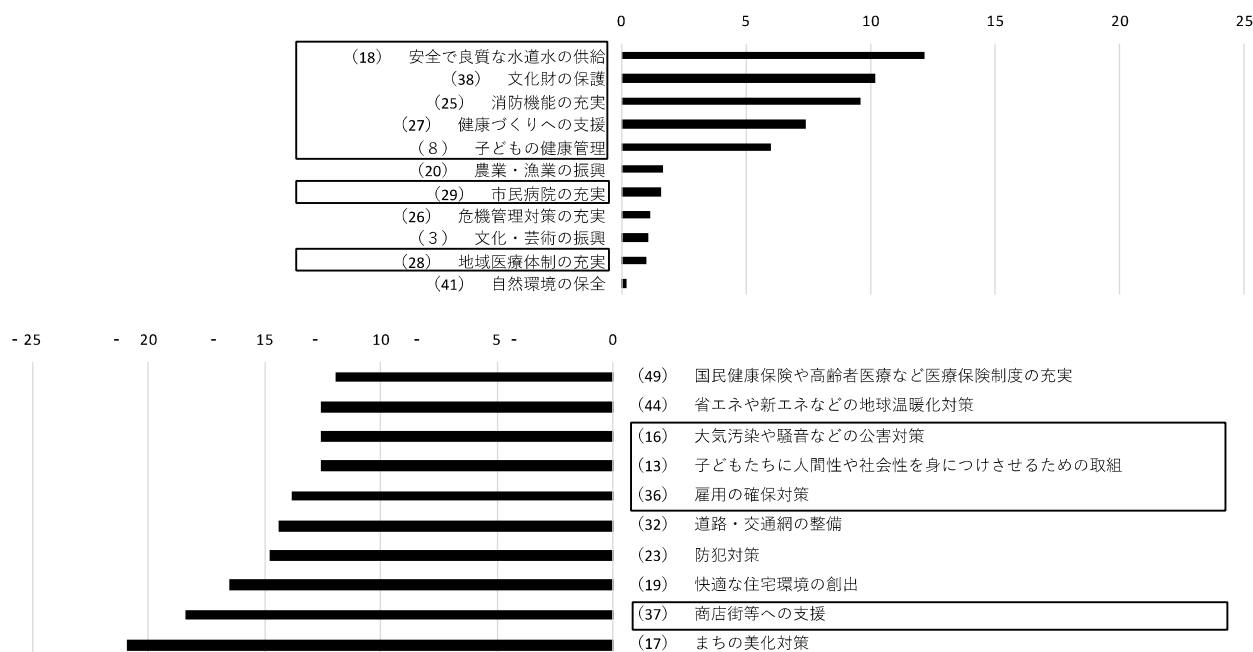


* 下線は 2020 年度市民意識調査においても上位 10 位以内の取組

- 54 個の取組については、不満率より満足率が上回るものが 11 個
- 満足率が不満率を上回る傾向が 2020 年度から継続して確認されたのは、「安全で良質な水道水の供給」や「文化財の保護」、「消防機能の充実」、「健康づくりへの支援」、「子どもの健康管理」等
- 不満率が満足率を上回る傾向が 2020 年度から継続して確認されたのは、「商店街への支援」や「雇用の確保対策」、「子どもたちに人間性や社会性を身につけさせるための取り組み」、「大気汚染や騒音などの公害対策」

- ・ 54 個の市の取組のうち、満足率が不満率を上回ったのは 11 の取組で、全体の約 20% となりました。
- ・ 54 個の市の取組それぞれについて、満足率から不満率を引いた数値を算出し、上位 10 位と下位 10 位を抽出すると、満足が不満を上回った取組のうち、「安全で良質な水道水の供給」や「文化財の保護」、「消防機能の充実」をはじめとした 7 個の取組が、過去の市民意識調査でも上位 10 位に入っています。また、不満が満足を上回った取組のうち、「商店街への支援」や「雇用の確保対策」、「子どもたちに人間性や社会性を身につけさせるための取組」をはじめとした 4 個の取組が 2020 年度の市民意識調査でも下位 10 位に入っています。

< 満足率から不満率を引いた数値の上位・下位 10 位の取組(市民アンケート(一般)) >



* 囲み線は 2020 年度市民意識調査においても上位・下位 10 位以内の取組

7. 岸和田市の強み・弱みと環境分析

上記結果と分析等を踏まえ、岸和田市の強み・弱みと社会経済環境について、以下のとおり整理・分析しています。

外部環境

機会

【ICT の劇的な進歩、技術革新】

- ・多分野に渡る行政サービス提供において、AI・IoTをはじめとした革新的技術の活用・充実が求められている。

【ダイバーシティのさらなる推進】

- ・働く場面をはじめあらゆる場面において、多様性の尊重が求められている。

【SDGs】

- ・SDGs における 17 の目標に、総合計画の推進を通じて貢献していくことが求められている。

内部環境

強み

【人口・世帯】

- ・年少人口の割合が大阪府・全国より高い。
- ・合計特殊出生率は、国・大阪府と比較して高い。

【産業】

- ・売上高の割合が全国より高い業種は、製造業、建設業、不動産業・物品賃貸業、医療・福祉
- ・近代に地場産業として発展した泉州紡織工業地帯の繊維工業や、昭和 40 年代に臨海部で企業誘致を進めてきた大阪木材コンビナートでの木材製造業、大阪鉄工金属団地・岸和田工業センターの鉄鋼業・金属製品製造業、現在もちきりアイランドやゆめみヶ丘といった産業団地で企業誘致が進むものづくり都市であり、近年も大阪府内で有数の工業立地件数
- ・経営耕地面積は大阪府内で 4 位、農産物生産額（耕種）は大阪府内で第 1 位と、大阪府内では有数の農業生産地
- ・専業農家が近年増加している。
- ・漁業は大阪府随一の漁獲量

【土地利用・立地】

- ・臨海部～平地のまち～丘陵地のまち～山間部がある、豊かな地形
- ・大阪市内まで車で約 30 分、また関西国際空港までも車で約 15 分とアクセス良好、複数の鉄道駅を有し公共交通での移動も便利

【歴史・文化財】

- ・全国的にも知名度が高い岸和田城や、城下及びその周辺で行われるだんじり祭がある。
- ・市内には 77 の指定文化財がある。

【市民意識（アンケート）】

- ・住み続けたい理由の 1 位が「愛着がある」、子どもを生み育てやすいまちと感じる理由の 1 位が「子育てを手伝ってくれる人がいる」と地域コミュニティのつながりが豊か
- ・住み続けたい理由の上位に「買い物や外食が便利」、「交通の便が良い」が挙がっており、特に平野部では利便性の高さが評価されている。
- ・満足率が不満率を上回る傾向のある市の取組は、「安全で良質な水道水の供給」、「消防機能の充実」、「健康づくりへの支援」、「子どもの健康管理」

脅威

【少子高齢化、人口減少】

- ・人口急減・高齢化による多くの問題の解決に向け、活力ある地域社会の形成が求められている。

【自然災害への対応】

- ・激甚化する自然災害等への対応に向け、都市の強靱性を高める取組が求められている。

【地球環境問題、循環型社会】

- ・環境に与える影響が最小化された経済社会システムへの転換が求められている。

【ポストコロナ時代の「新たな日常」】

- ・ポストコロナ時代のあり方を取り入れ、「新たな日常」を構築していくことが求められている。

弱み

【人口・世帯】

- ・目標年次の令和 19 年には高齢化率 32%以上と超高齢社会となることが予測される。
- ・転出超過傾向が続いており、特に若年層（25～34 歳）で顕著
- ・転出先は、大阪市が最も多く、堺市・泉大津市・和泉市等近隣市等、大阪府内への転出が約 7 割

【産業】

- ・地域経済循環マップでは、他地域から流入する所得に依存する傾向がみられ、市民の多く（国勢調査では 55%）が地域外で働いている。ただし、大阪府内では上位 5 位であり、市内での従事者数は、なお多い。しかし、ここ 10 年で 5.7%減少している。
- ・製造品出荷額は近年減少傾向
- ・小売業事業所数及び年間販売額は共に減少傾向
- ・商店街は会員数が減少、組織自体を解散するケースもみられ衰退が進む。
- ・大阪府全体、近隣市町と比べて創業比率は低い。

【土地利用・立地】

- ・特に山間部において、公共交通が不足

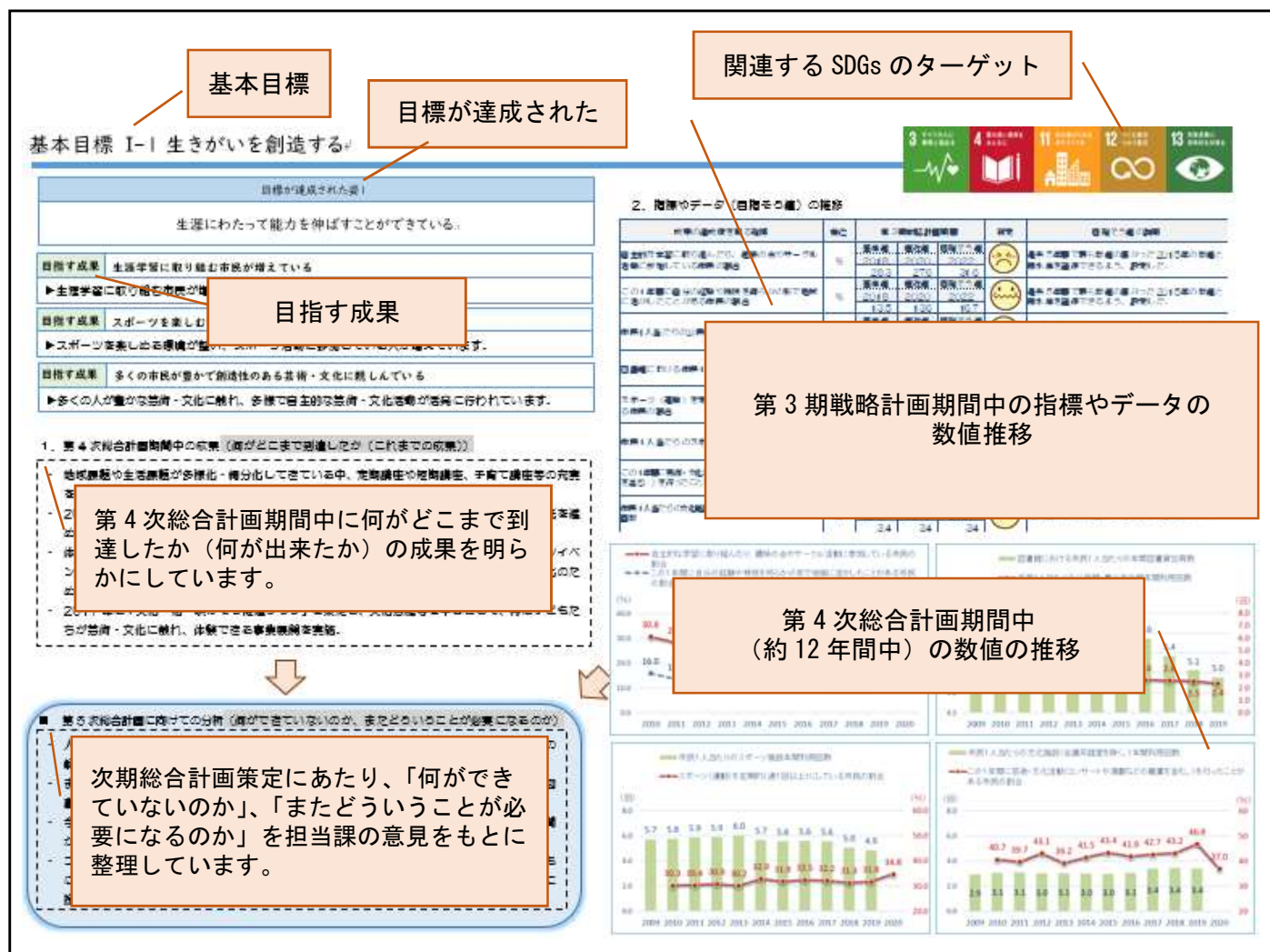
【市民意識（アンケート）】

- ・住み続けたくない理由の上位が「まちのイメージが悪い」、「子どもの教育環境が良くない」
- ・住み続けたくない理由の上位に「交通が不便」が挙がっており、特に山間部等で利便性の低さが指摘されている。
- ・子どもを生み育てやすいまちと「思わない」と感じる若年層が約 3 割、その理由の上位が「教育環境が悪い」、「子どもにとって治安が悪い」、「子育てに対する経済的支援が不十分」
- ・不満率が満足率を上回る傾向のある市の取組は、「商店街への支援」、「雇用の確保対策」、「子どもたちに人間性や社会性を身につけさせるための取組」、「大気汚染や騒音等の公害対策」
- ・重要度が高く満足度が低い市の取組として抽出されたもののうち、特に重要度が高いとされたのは、「災害を未然に防ぐための都市基盤整備」、「防犯対策」、「子どもの安全確保対策」、「学校教育の内容の充実」、「子どもたちに人間性や社会性を身につけさせるための取組」、「学校環境の整備」と、安心・安全、子どもに関わるものが多い。

8. 課題集(本編)

次ページ以降は、第3期戦略計画で掲げた「目標が達成された姿」ごとに、第4次総合計画期間中の取組と目指す成果の達成度を測る指標の第3期戦略計画期間中の結果、そして、12年間の数値の推移を示すとともに、「何がどこまで到達したか（これまでの成果）」について、さらに次期総合計画である第5次総合計画において「どういうことが必要になるのか」を担当課の意見をもとに記載しています。

【図の見方】



第3期戦略計画の判定欄は、下記のとおりです。



目標を達成



数値が改善傾向



数値が上下している
(傾向が不明)



数値が悪化傾向

基本目標ⅠーⅠ 生きがいを創造する

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較	・・・ P.33
目標が達成された姿 1 生涯にわたって能力を伸ばすことができる	・・・ P.34
目標が達成された姿 2 誰もが活躍する場が増えている	・・・ P.35
目標が達成された姿 3 郷土への愛着心が育まれている	・・・ P.37

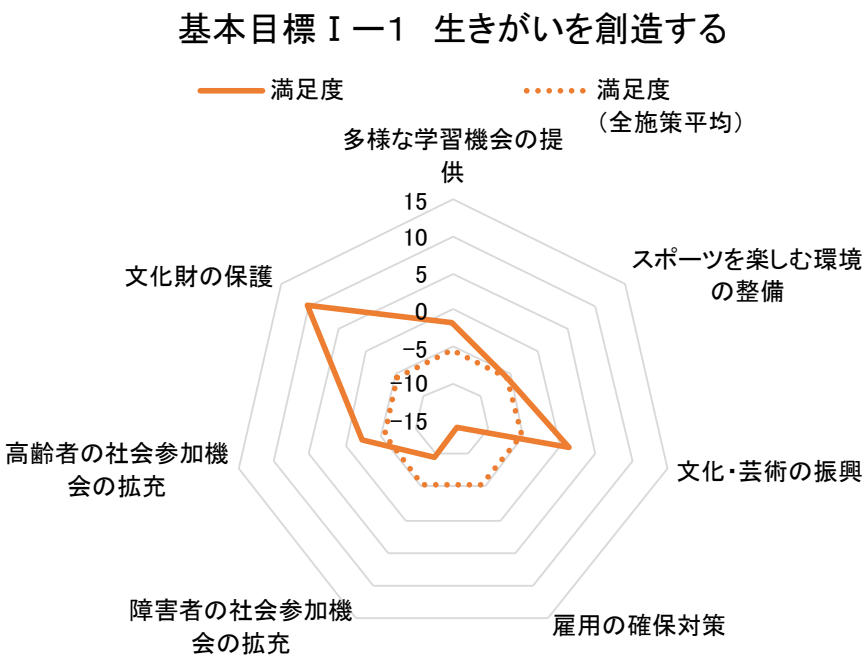
指標の達成状況と市民アンケート結果の比較

- 達成状況は「雇用の確保対策」、「文化・芸術の振興」、「文化財の保護」以外の施策では、全ての指標が未達となっています。
- 満足度は「文化・芸術の振興」、「文化財の保護」、「多様な学習機会の提供」、「高齢者の社会参加機会の拡充」で高い一方、「雇用の確保対策」と「障害者の社会参加機会の拡充」で低くなっています。
- 重要度は各施策で全施策平均値より低くなっています。
- 達成している指標が多い一方、満足度が低いのは「雇用の確保対策」となっています。

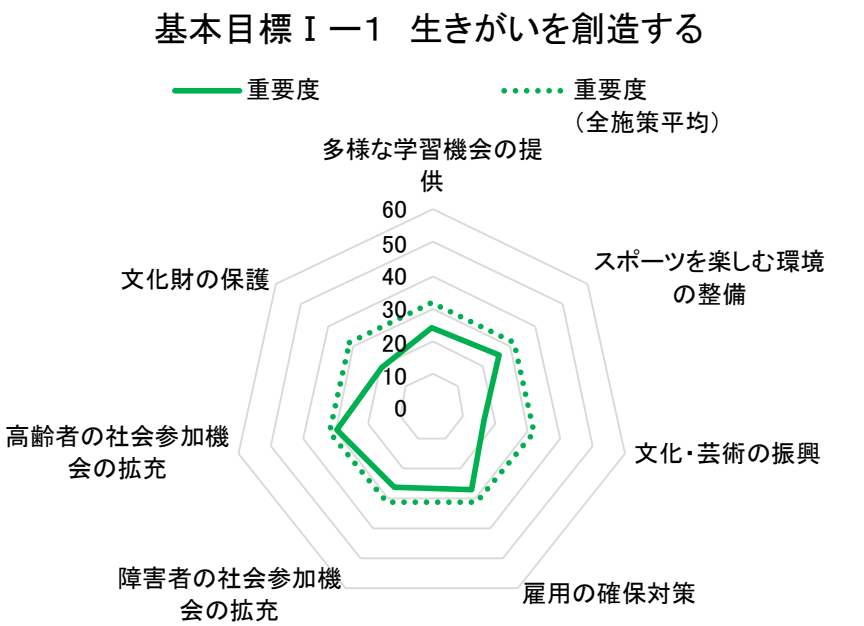
<各施策の指標の達成状況>

目標が達成された姿	施策(項目)	指標名		単位	基準値		直近値		目指そう値		経過状況	達成状況
											向上／低下	達成／未達
(1)生涯にわたって能力を伸ばすことができる	(1) 多様な学習機会の提供	①	自主的な学習に取り組んだり、趣味の会やサークル活動に参加している市民の割合	%	28.3	(2018)	27.6	(2020)	31.6	(2022)	低下	未達
		②	この1年間に自分の知識や技術を何らかの形で地域に活かしたことがある市民の割合	%	13.5	(2018)	13.6	(2020)	16.7	(2022)	向上	未達
		③	市民1人当たりの公民館・青少年会館年間利用回数	回	2.6	(2017)	2.4	(2019)	2.7	(2021)	低下	未達
		④	図書館における市民1人当たりの年間図書貸出冊数	冊	5.4	(2017)	5	(2019)	5.8	(2021)	低下	未達
	(2) スポーツを楽しむ環境の整備	①	スポーツ(運動)を定期的(週1回以上)にしている市民の割合	%	31.3	(2018)	34.8	(2020)	45	(2022)	向上	未達
		②	市民1人当たりのスポーツ施設年間利用回数	回	5.6	(2017)	4.9	(2019)	5.6	(2021)	低下	未達
	(3) 文化・芸術の振興	①	この1年間に芸術・文化活動(コンサートや演劇などの鑑賞を含む。)を行ったことがある市民の割合	%	43.2	(2018)	37	(2020)	43.4	(2022)	低下	未達
		②	市民1人当たりの文化施設(会議系諸室を除く。)年間利用回数	回	3.4	(2017)	3.4	(2019)	3.4	(2021)	向上	達成
(2)誰もが活躍する場が増えている	(36) 雇用の確保対策	①	働く意欲のある人に働ける場所が確保されていると感じている市民の割合	%	9.6	(2018)	12	(2020)	9.6	(2022)	向上	達成
		②	仕事と生活の調和が取れていると感じている市民の割合	%	46.4	(2018)	50.5	(2020)	46.9	(2022)	向上	達成
		③	労働環境に満足している市民の割合(市内労働者に限る)	%	23.6	(2018)	29.5	(2020)	23.6	(2022)	向上	達成
		④	有効求人倍率(岸和田公共職業安定所管内)	倍	1.02	(2018)	0.86	(2020)	1.02	(2022)	低下	未達
		⑤	「岸和田・貝塚合同就職面接会」における採用者数	人	11	(2017)	12	(2019)	17	(2021)	向上	未達
	(4) 障害者の社会参加機会の拡充	①	長期的な病気や障害を抱えている人のうち、生きがいを感じることがある市民の割合	%	45.9	(2018)	45.5	(2020)	46.4	(2022)	低下	未達
		②	就労継続支援及び就労移行支援サービスの1か月当たりの利用日数	日	9,634	(2017)	11,505	(2019)	13,125	(2021)	向上	未達
	(5) 高齢者の社会参加機会の拡充	①	生きがいを感じることがある65歳以上の市民の割合	%	49.3	(2018)	44.6	(2020)	49.3	(2022)	低下	未達
		②	シルバー人材センター登録者数	人	1,038	(2018)	1,099	(2020)	1,250	(2022)	向上	未達
		③	就業件数	件	952	(2017)	868	(2019)	1,067	(2021)	低下	未達
		④	老人クラブ会員数	人	19,598	(2018)	17,700	(2020)	20,000	(2022)	低下	未達
(3)郷土への愛着心が育まれている	(38) 文化財の保護	①	岸和田の歴史や伝統がしっかりと引き継がれていると感じている市民の割合	%	56.6	(2018)	59.3	(2020)	64.9	(2022)	向上	未達
		②	市指定文化財の数	件	45	(2017)	45	(2019)	45	(2021)	向上	達成

<市民アンケートでの各施策項目の満足度>



<市民アンケートでの各施策項目の重要度>



基本目標 I-1 生きがいを創造する

目標が達成された姿I	
生涯にわたって能力を伸ばすことができる	
目指す成果	生涯学習に取り組む市民が増えている
▶生涯学習に取り組む市民が増え、その成果が地域に活かされています	
目指す成果	スポーツを楽しむ市民が増えている
▶スポーツを楽しめる環境が整い、スポーツ活動に参加している人が増えています。	
目指す成果	多くの市民が豊かで創造性のある芸術・文化に親しんでいる
▶多くの人が豊かな芸術・文化に触れ、多様で自主的な芸術・文化活動が活発に行われています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

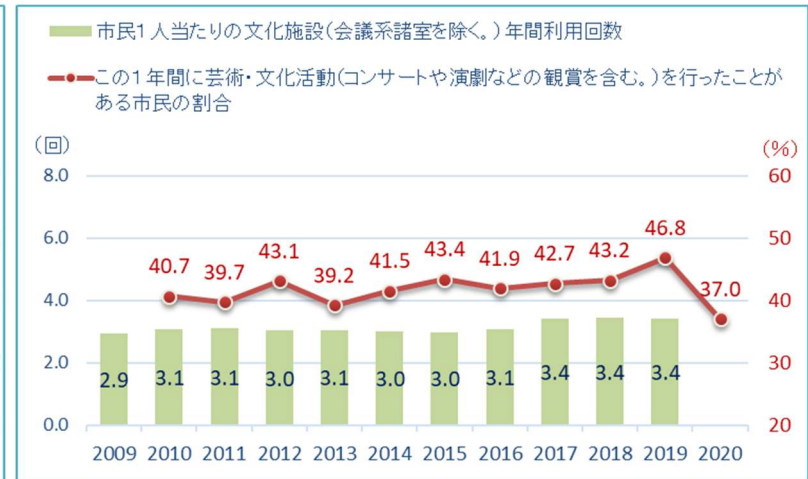
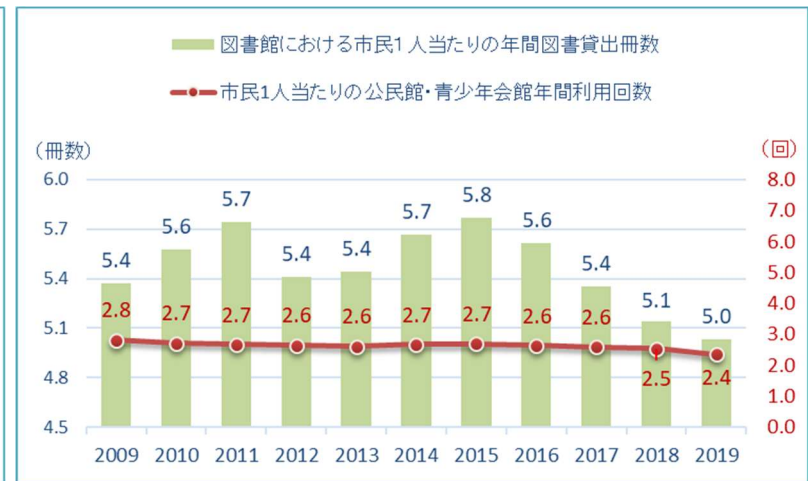
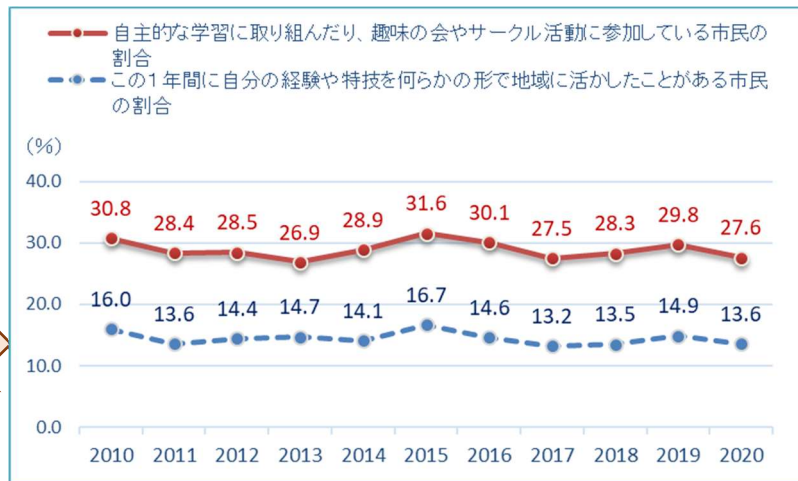
- 地域課題や生活課題が多様化・細分化してきている中、定期講座や短期講座、子育て講座等の充実を図り、持続可能な社会づくりに対応するため、生涯学習の機会や場を提供。
- 2013年に図書館2館を新設し、その後、2018年度から図書館分館の窓口業務の民間委託を進め、開館時間の延長などの市民サービスの向上と業務の効率化を推進。
- 体育館や運動広場などの整備充実。スポーツ振興団体との連携を図りながら、各種のスポーツイベント・競技大会等の開催、幅広い年齢層を対象としたスポーツ教室事業、地域スポーツ活性化のための学校体育施設開放事業など、市民が様々な形でスポーツに親しむ機会や場の提供。
- 2017年に「文化 花 咲かそう推進プラン」を策定し、文化会館等を中心として、特に子どもたちが芸術・文化に触れ、体験できる事業展開を実施。

■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 人口減少や少子高齢化の進展に伴う公民館の在り方を引き続き検討するとともに、地域課題の解決にあたるため、地域コミュニティと公民館の連携強化、体制等について検討が必要。
- まちづくりに貢献する図書館をめざして、ICT化の進展や社会情勢の変化を鑑み、今後の図書館に求められるサービスとその対応について検討していく必要がある。
- 今後のスポーツ大会・イベントについては、市（行政）が大会等の誘致などの後方支援、民間が大会等の運営主体となるなど、それぞれの役割分担を行うことが求められる。
- コロナ禍においても市民が豊かな芸術文化に触れることができる事業手法を検討するとともに、次世代を育てるため新しい試みを取り入れ、子どもたちが芸術文化に触れる機会をさらに提供していくことが求められる。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
自主的な学習に取り組んだり、趣味の会やサークル活動に参加している市民の割合	%	2018	2020	2022	☹️	過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		28.3	27.6	31.6		
この1年間に自分の経験や特技を何らかの形で地域に活かしたことがある市民の割合	%	2018	2020	2022	☹️	過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		13.5	13.6	16.7		
市民1人当たりの公民館・青少年会館年間利用回数	回	2017	2019	2021	☹️	過去5年間で利用の多かった2014年、2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2.6	2.4	2.7		
図書館における市民1人当たりの年間図書貸出冊数	冊	2017	2019	2021	☹️	過去5年間で最も貸出の多かった2015年の数値と同水準確保できるよう、設定した。
		5.4	5.0	5.8		
スポーツ（運動）を定期的（週1回以上）にしている市民の割合	%	2018	2020	2022	😊	「岸和田市スポーツ推進計画」における2022年度の中間目標にあわせて、設定した。
		31.3	34.8	45.0		
市民1人当たりのスポーツ施設年間利用回数	回	2017	2019	2021	☹️	近年減少傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		5.6	4.9	5.6		
この1年間に芸術・文化活動（コンサートや演劇などの観賞を含む。）を行ったことがある市民の割合	%	2018	2020	2022	☹️	過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		43.2	37.0	43.4		
市民1人当たりの文化施設（会議系諸室を除く。）年間利用回数	回	2017	2019	2021	☹️	現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		3.4	3.4	3.4		



基本目標 I-1 生きがいを創造する

目標が達成された姿2	
誰もが活躍する場が増えている	
目指す成果	就労機会が確保され、市内で働く人がいきいきと働いている
▶働く意欲のある人に就業の機会が提供され、市内の職場で働く人が、安全で快適な労働環境の下でいきいきと働いています。	
目指す成果	障害者がいきいきと暮らしている
▶地域に障害者の活動や社会参加の場があり、その人らしくいきいきとした生活を送っています。	
目指す成果	高齢者がいきいきと暮らしている
▶高齢者が様々な場面で社会活動に参加し、生きがいをもって生活しています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

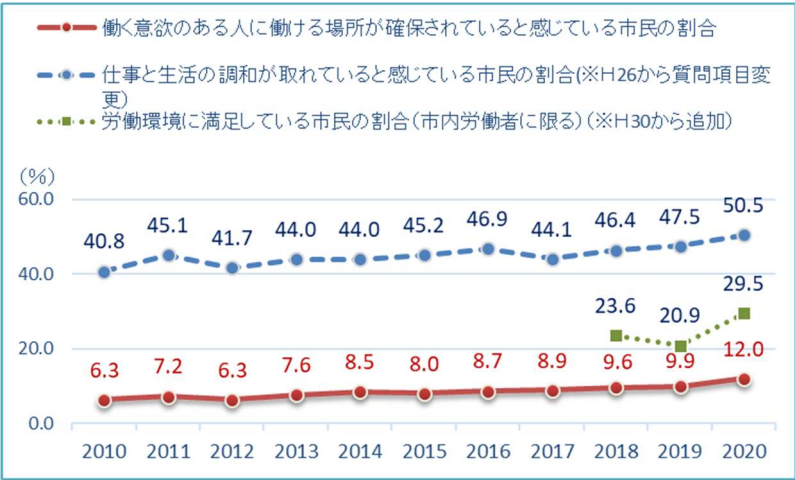
- 国内の経済状況が安定しない状態の中、景気の変動による影響を受けやすい中小企業向けに、誰もがやりがいや充実感を感じながら働ける仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を推進するための労働知識の普及・啓発事業や職業能力開発、労働調査などの労働教育啓発事業を実施
- 就労支援として、関係機関と連携し、就職面接会や企業説明会を通じて地元企業の魅力を発信するとともに、就職希望者との的確なマッチングの実施
- 障害のある人や様々な障害についての正しい理解や認識を深めるための市民への啓発や学習の推進、障害福祉サービスによる就業の場の創出のため、事業者の参入の働きとともに、障害者の就労機会の継続的な確保を実施
- 手話言語条例を制定し、手話に対する理解促進と手話普及を推進
- 老人クラブやシルバー人材センターを通じた就労や地域活動の推進を支援

第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

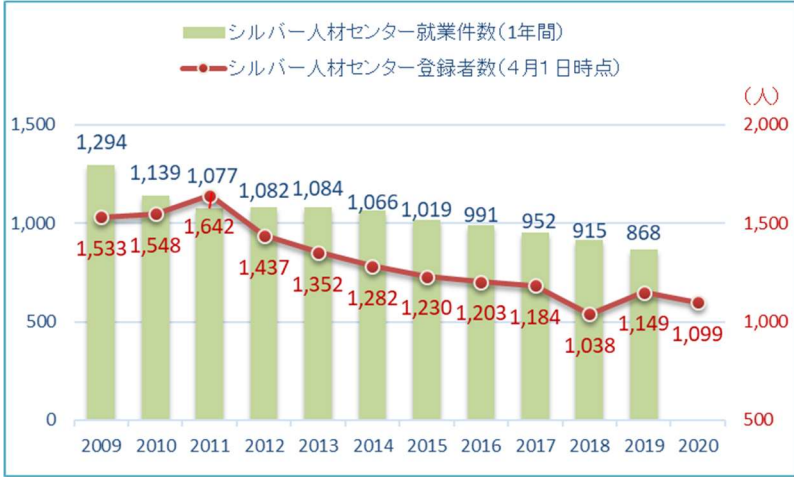
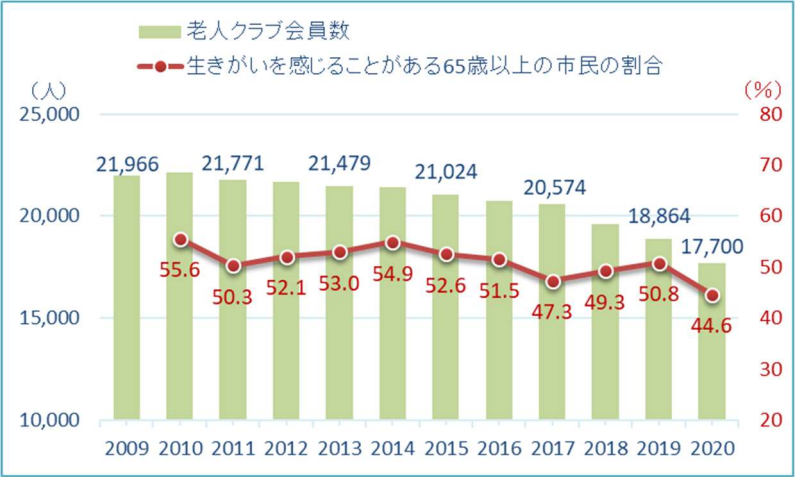
- 労働力人口の減少等に加え、コロナ禍のような予想が難しい影響なども含めて社会情勢とニーズを把握し、今後どのような工夫を行いマッチングの場を提供していくかが問われている。また、労働者の権利を守り、働きやすい職場環境の整備に引き続き取り組む必要がある。
- 障害者が社会生活上必要な外出や余暇活動等の社会参加の機会を増やし、障害を持ちながらも生きがいを感じて生活できるための支援が必要である。
- 様々な活動を通じて高齢者の生きがいづくりや健康づくり等を行うとともに、多彩な技能を持った働きたい高齢者に就労の場を提供する必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
働く意欲のある人に働ける場所が確保されていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		9.6	12.0	9.6		
		基準値	直近値	目指そう値		
仕事と生活の調和が取れていると感じている市民の割合(※H26から質問項目変更)	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		46.4	50.5	46.9		
		基準値	直近値	目指そう値		
労働環境に満足している市民の割合（市内労働者に限る）(※H30から追加)	%	2018	2020	2022		新規調査項目であるため、傾向は不明であるが、当面の間、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		23.6	29.5	23.6		
		基準値	直近値	目指そう値		
有効求人倍率（岸和田公共職業安定所管内）	倍	2018	2020	2022		現状値を確保できるよう、設定した。
		1.02	0.86	1.02		
		基準値	直近値	目指そう値		
「岸和田・貝塚合同就職面接会」における採用者数	人	2017	2019	2021		近年採用者数の多かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		11	12	17		
		基準値	直近値	目指そう値		
長期的な病気や障害を抱えている人のうち、生きがいを感じることがある市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		45.9	45.5	46.4		
		基準値	直近値	目指そう値		
就労継続支援及び就労移行支援サービスの1か月当たりの利用日数	日	2017	2019	2021		第5期障害福祉計画における2020年度のサービス見込み量(13,125日)を確保することを目指し、設定した。
		9,634	11,505	13,125		
		基準値	直近値	目指そう値		
生きがいを感じることがある65歳以上の市民の割合	%	2018	2020	2022		近年減少傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		49.3	44.6	49.3		
		基準値	直近値	目指そう値		
シルバー人材センター登録者数（4月1日時点）	人	2018	2020	2022		シルバー人材センターの中期計画（2018～2022年度）に基づき設定した。
		1,038	1,099	1,250		
		基準値	直近値	目指そう値		
シルバー人材センター就業件数（1年間）	件	2017	2019	2021		シルバー人材センターの中期計画（2018～2022年度）に基づき設定した。
		952	868	1,067		
		基準値	直近値	目指そう値		
老人クラブ会員数	人	2018	2020	2022		近年減少傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		19,598	17,700	20,000		
		基準値	直近値	目指そう値		



（次のページにつづく）



基本目標 I-1 生きがいを創造する

目標が達成された姿 3

郷土への愛着心が育まれている

目指す成果 郷土の文化がしっかりと引き継がれている

▶岸和田の歴史や文化が発掘・保存・発信され、多くの人が理解し、しっかりと次世代へ引き継がれています。

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 岸和田城園庭（八陣の庭）が、芸術上の価値及び近代日本庭園史における学術上の価値が高いことから国指定名勝に指定。保存と活用を推進
- 郷土の歴史と文化を理解する上で重要になる、考古学の振興に寄与することを目的に創設した「濱田青陵賞」を継続的に企画
- 岸和田の歴史や文化の発掘・発信
- 未指定文化財の把握と精査による指定件数を拡大
- 歴史的まちなみ保全地区における家屋修景や団体活動への支援を実施

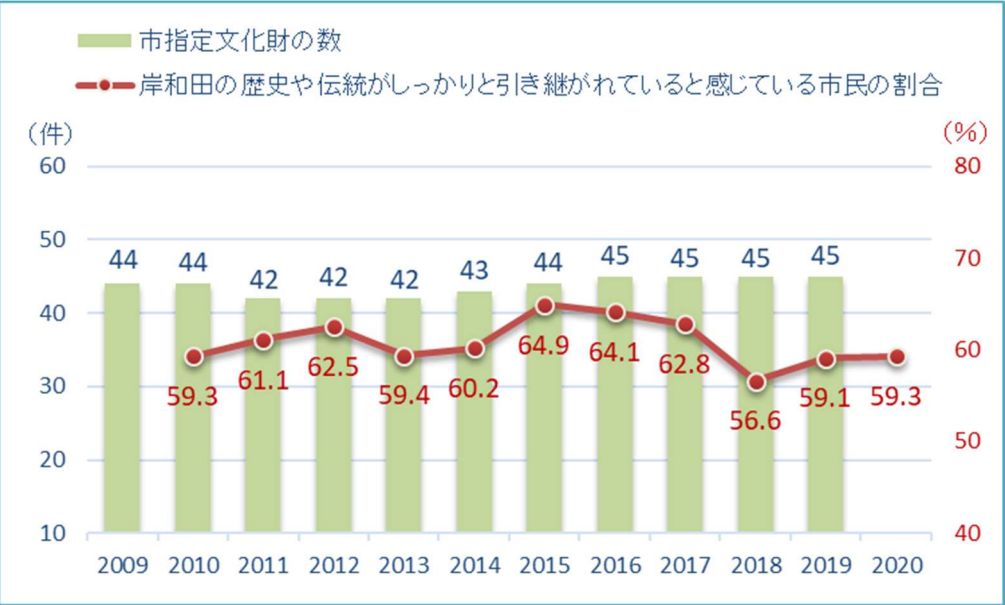


第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 引き続き、郷土の歴史や文化に触れる機会をつくることや、貴重な文化財を次世代に引き継ぐための取組を進めるとともに、郷土への愛着形成や文化の継承を市民が主体的に行えるよう、必要な支援活動に取り組む必要がある。
- これまで実施してきた歴史的町並み保全の効果を維持させるため、持続可能な市民団体組織の在り方について協議・支援するとともに、歴史的建築物の保存や活用、町並み保全活動や文化の継承に関する市民の理解と意識の向上が必要となる。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
岸和田の歴史や伝統がしっかりと引き継がれていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		56.6	59.3	64.9		
市指定文化財の数	件	基準値	直近値	目指そう値		現状値を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		45	45	45		



基本目標Ⅰ-2 次世代を育てる

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較	・・・ P.39
目標が達成された姿 1 安心して子どもを生み育てている	・・・ P.40
目標が達成された姿 2 子どもの健康と安全が保たれている	・・・ P.41
目標が達成された姿 3 子どもの個性や能力が育まれている	・・・ P.43
目標が達成された姿 4 岸和田の担い手が育っている	・・・ P.45

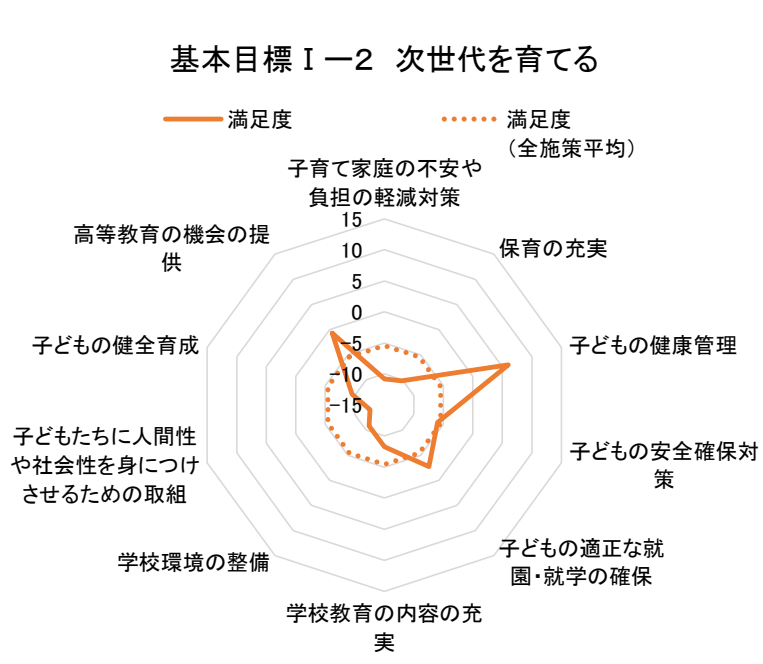
指標の達成状況と市民アンケート結果の比較

- 達成状況は「子どもたちに人間性や社会性を身につけさせる」で全ての指標で達成しているほか、「子どもの健康管理」や「子どもの安全確保対策」、「学校環境の整備」、「子どもの健全育成」、「高等教育の機会の提供」で指標の一部が達成されています。
- 満足度は「子どもの健康管理」、「高等教育の機会の提供」、「子どもの適正な就園・就学の確保」で全施策平均より高くなっています。
- 重要度はおおむね全ての施策において全施策平均より高くなっています。
- 達成している指標が多い一方、満足度が低い施策は「子どもたちに人間性や社会性を身につけさせる」、達成している指標が少なく、満足度も低い施策は「保育の充実」となっています。

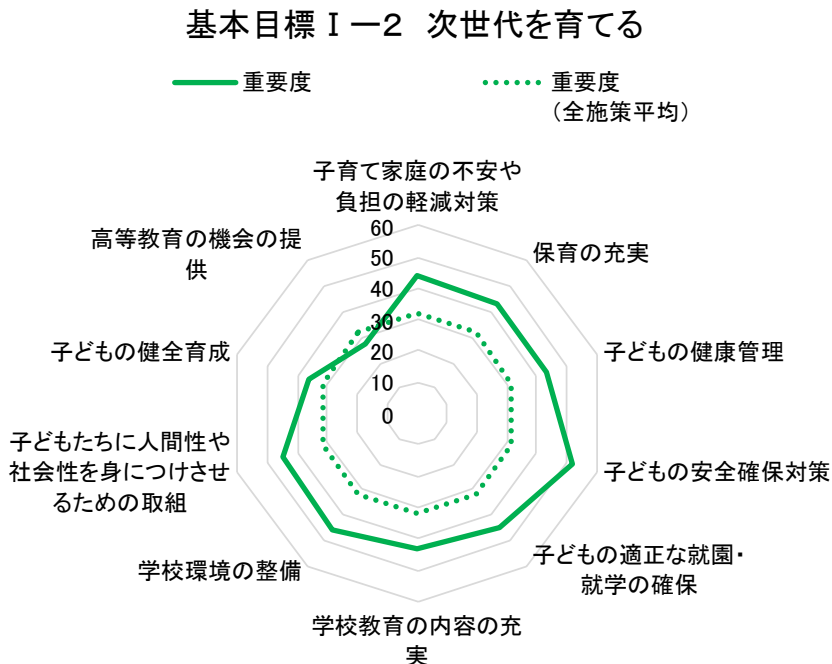
＜各施策の指標の達成状況＞

目標が達成された姿	施策(項目)	指標名	単位	基準値		直近値		目指そう値		経過状況	達成状況
										向上／低下	達成／未達
(1) 安心して子どもを生み育てている	(6) 子育て家庭の不安や負担の軽減対策	① 子どもを生み育てやすいと感じている市民の割合	%	25.9	(2018)	23.6		30.9		低下	未達
		② 地域に子育てに関する不安を相談できる機会や場があると感じている市民の割合	%	21.8	(2018)	23.9		27		向上	未達
		③ 妊婦1人当たりの妊婦健康診査受診回数	回	11.9	(2018)	10.9		14		低下	未達
		④ 4ヵ月児健康診査(集団分)の受診率	%	95.6	(2018)	97.9		100		向上	未達
		⑤ 地域子育て支援センターの利用者数	人	10,513	(2018)	7,981		11,000		低下	未達
	(7) 保育の充実	① 働きながら子育てができる環境が整っていると感 じている市民の割合	%	17.3	(2018)	22	(2020)	22.3	(2022)	向上	未達
		② 保育所の入所待機児童数	人	38	(2018)	27	(2020)	0		向上	未達
		③ ファミリー・サポート・センターの活動件数	件	1,395	(2017)	1266	(2019)	1400	(2021)	低下	未達
		④ チビッコホーム(放課後児童クラブ)の入所待機 児童数	人	106	(2018)	76	(2020)	0		向上	未達
(2) 子どもの健康と安全が保たれている	(8) 子どもの健康管理	① 子どもが心身ともに健康に育つ環境が整っていると感じている市民の割合	%	26.5	(2018)	30.2	(2020)	26.5	(2022)	向上	達成
		② 毎日朝食を食べている児童・生徒の割合 小6	%	76.4		—		81.5		—	—
		③	中3	68.8	(2018)	—		76.3	(2022)	—	—
		④ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結 果における体力合計点の全国平均点との差	小5男	-2.1		-1.4		0		向上	未達
		⑤	小5女	-2.4		-1.1		0		向上	未達
		⑥	中2男	-1.7		-1.6		0		向上	未達
		⑦	中2女	-2.9	(2017)	-4		0	(2021)	低下	未達
		⑧ 肥満傾向にある児童・生徒の割合	小学生男	8.1		12		5		低下	未達
		⑨	小学生女	6.5		8.4		5		向上	達成
		⑩	中学生男	8.9		10.3		5		向上	達成
		⑪	中学生女	7.9		9.2		5		向上	達成
	(9) 子どもの安全確保対策	① 子どもが地域で安全に遊べると感じている市民の割合	%	27.8	(2018)	30	(2020)	27.8	(2022)	向上	達成
		② 登下校時の見守り協力者数	人	4,147	(2018)	3,351	(2020)	4150	(2022)	低下	未達
		③ 総合通園センターへの受入れ待機児童数	人	0	(2018)	0	(2020)	0	(2022)	低下	未達
		④ 児童虐待(疑い含む。)相談のうち児童の状況が安定し終結した割合	%	28.1	(2017)	34.9	(2019)	28.1	(2021)	向上	達成
(3) 子どもの個性や能力が育まれている	(10) 子どもの適正な就園・就学の確保	① 子どもの教育を受ける機会が等しく確保されていると感じている市民の割合	%	34.2	(2018)	36.1	(2020)	39.2	(2022)	向上	未達
		② 子どもたちが、適正規模・適正配置の学校で学ん でいると感じている市民の割合	%	39.3	(2018)	40	(2020)	44.3	(2022)	向上	未達
		③ 経済的な理由により長期欠席している児童・生徒 の割合	%	0	(2017)	0	(2019)	0	(2021)	低下	未達
		④ 所在不明児童・生徒の数	人	0	(2017)	0	(2019)	0	(2021)	低下	未達
	(11) 学校教育の内容の充実	① 子どもの個性や能力にあった教育が行われていると感じている市民の割合	%	21.6	(2018)	20.5	(2020)	26.6	(2022)	低下	未達
		② 支援学級等支援者(介助員+特別支援教育支援員)の数	人	43	(2018)	48	(2020)	68	(2022)	向上	未達
		③ 全国学力・学習状況調査結果における全 国平均正答率との差(※)	国語A小6	-8.7		—		0	(2022)	—	—
			国語A中3	-5.1		—		0	(2022)	—	—
			算数A小6	-5.5		—		0	(2022)	—	—
			数学A中3	-6.1	(2018)	—		0	(2022)	—	—
	(12) 学校環境の整備	① 安全で快適な学校環境であると感じている市民の割合	%	28.1	(2018)	30.6	(2020)	28.1	(2022)	向上	達成
		② 学校便所の洋式化率	%	48.1	(2017)	48.5	(2019)	68.1	(2022)	向上	未達
(4) 岸和田の担い手が育っている	(13) 子どもたちに人間性や社会性を身につけさせるための取組	① 子ども一人ひとりに感受性や社会性が身についていると感じている市民の割合	%	17	(2018)	19	(2020)	17	(2022)	向上	達成
		② 児童・生徒の1人当たりの年間学校図書貸出冊数	冊	16	(2017)	20	(2019)	16.4	(2022)	向上	達成
	(14) 子どもの健全育成	① 子どもたちの健全育成を図るための環境が整っていると感じている市民の割合	%	18.9	(2018)	21.4	(2020)	18.9	(2022)	向上	達成
		② 将来の夢や目標を持っている児童・生徒 の割合	小6	82.6		—		84.3		—	—
			中3	69.5	(2018)	—		72.6	(2022)	—	—
		③ 不登校の児童・生徒の割合	小学校	1.1		1.2		1.1		低下	未達
			中学校	5.4	(2017)	5.9	(2019)	5.4	(2021)	向上	達成
		④ 青少年活動事業への参加者数	人	3,218	(2017)	3,224	(2019)	3,300	(2021)	向上	未達
	(15) 高等教育の機会の提供	① 産業や福祉、教育などの様々な分野でリーダーとなるべき人材が育っていると感じている市民の割合	%	11.8	(2018)	14.2	(2020)	11.8	(2022)	向上	達成
		② 大阪版認定農業者数(みなし認定を含む。)累計	人	282	(2017)	275	(2019)	290	(2021)	低下	未達
		③ 岸和田市立産業高等学校生徒のうち、全商協会特別表彰者数	人	10	(2017)	15	(2019)	32	(2021)	向上	未達
		④ 新緑会の会員数	人	78	(2018)	86	(2020)	78	(2022)	向上	達成

＜市民アンケートでの各施策項目の満足度＞



＜市民アンケートでの各施策項目の重要度＞



基本目標 I-2 次世代を育てる

目標が達成された姿Ⅰ	
安心して子どもを生み育てている	
目指す成果	子どもを生み育てやすい環境が整っている
▶精神的にも、経済的にも、安心して子どもを生み育てることができています。	
目指す成果	仕事と子育てが両立できている
▶子育て家庭が、働きながら子育てできる環境が整っています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

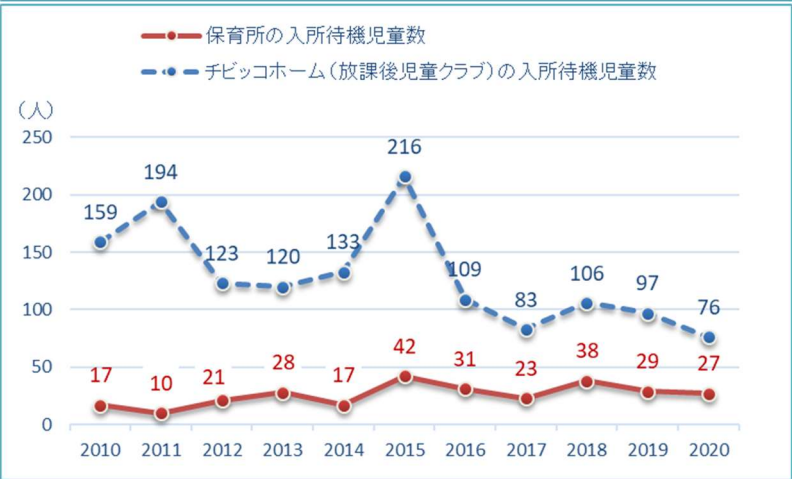
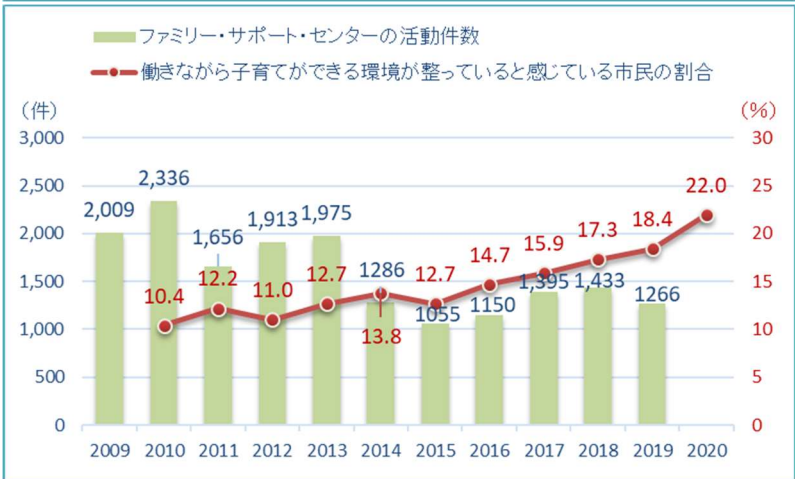
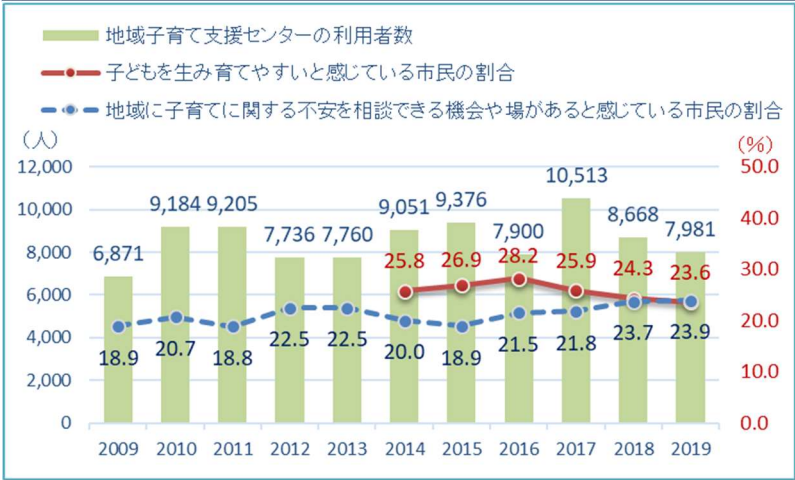
- ・平成26年市立岸和田市民病院の産科が再開し、24時間・365日婦人科医が常駐
- ・次の世代を健やかに生み育てるための母子保健サービスにおいて、育児支援機能を強化
- ・地域子育て支援センターの設置を始め、子育て関連施設による相談機能、地域開放の取組の充実
- ・子ども医療費助成の対象範囲を中学3年生まで拡充
- ・母子・父子家庭などのひとり親家庭への経済的支援
- ・令和元年に子育て世代包括支援センターを設置し、妊娠期から産後の子育て期まで、地区担当保健師と連携した切れ目のない支援を実施
- ・子ども家庭総合支援拠点を設置
- ・待機児童解消に向けた保育事業者の運営支援や放課後児童クラブの増設による定員の拡充
- ・保育を要する就学前児童を保護者に代わって保育するため市立保育所の適正な運営管理

第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- ・引き続き、母性及び乳幼児の健康の保持・増進を図るため、母子保健を推進していく必要がある。
- ・養育者が身近に相談できる場を提供するとともに、多岐にわたる課題に対応できる能力を培うことや親支援等の幅広い事業の展開が必要である。
- ・地域子育て支援センターの相談事業についてICTを活用して実施するなど、多様化するニーズに対応しながら地域の子育て支援機能の充実を図ることが求められている。
- ・待機児童の解消や教育・保育環境の向上のため、民間施設との意見交換や協力体制の強化を図り、市立幼稚園及び保育所の再編を推進していく必要がある。
- ・放課後児童クラブへの預け入れを望む声の高まりに対応するため、関連事業の進捗状況等を踏まえた上で、効果的に事業を進めていく体制を検討する必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
子どもを生み育てやすいと感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		重点目指す成果に関連する指標であるため、5%の上昇を目指し、設定した。
		25.9	23.6	30.9		
地域に子育てに関する不安を相談できる機会や場があると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		重点目指す成果に関連する指標であるため、5%を超える上昇を目指し、設定した。
		21.8	23.9	27.0		
妊婦1人当たりの妊婦健康診査受診回数	回	2017	2019	2021		厚生労働省は妊婦健診の望ましい回数は14回としているが、各々の妊婦が出産までに必要な回数の健診受診ができるよう、設定した。
		11.9	10.9	14.0		
4か月児健康診査（集団分）の受診率	%	2017	2019	2021		対象児の全てが受診することを目指し、設定した。
		95.6	97.9	100.0		
地域子育て支援センターの利用者数	人	2017	2019	2021		さらなる利便性向上を目指し、近年で利用者数の多かった現状値の水準を確保できるよう、設定した。
		10,513	7,981	11,000		
働きながら子育てができる環境が整っていると感じている市民の割合	人	2018	2020	2022		近年上昇傾向ではあるが、重点目指す成果に関連する指標であるため、さらなる5%の上昇を目指し、設定した。
		17.3	22.0	22.3		
保育所の入所待機児童数	人	2018	2020	2022		重点目指す成果に関連する指標のため、待機児童を出さない状態を目指し、設定した。
		38	27	0		
ファミリー・サポート・センターの活動件数	件	2017	2019	2021		近年減少傾向にあり、当面は現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		1,395	1,266	1,400		
チビッコホーム（放課後児童クラブ）の入所待機児童数	人	2018	2020	2022		「岸和田市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、設定した。
		106	76	0		



基本目標 I-2 次世代を育てる

目標が達成された姿2	
子どもの健康と安全が保たれている	
目指す成果	子どもの心身の健康が保たれている
▶ 疾病などの早期発見と予防が図られるとともに、食育の大切さが理解されています。	
目指す成果	子どもの人権と安全な生活環境が保たれている
▶ 子どもの人権が守られていて、子どもが犯罪や事故などにあわず、安全な生活を送っています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- ・栄養バランスのとれた安全安心な給食を実施するとともに、原材料などの学校給食物資の地産地消に努め、食育を推進
- ・体育の授業改善の取り組みにつなげるため、大学と連携した講師派遣や体育の授業改善アドバイザーの派遣、体育実技研修会等による、体育の授業の充実やスキップロープ等の取組を継続による学校全体での体力向上の取組の推進
- ・子どもの安全を確保のため、地域の子どもは地域で守るという視点に立ち、地域住民の協力のもと、通学路の安全見守りを実施
- ・子育て支援地域協議会（要保護児童地域対策協議会）において、子どもの虐待防止に努め、要保護及び要支援児童、特定妊婦の支援に係る進行管理を行っている。



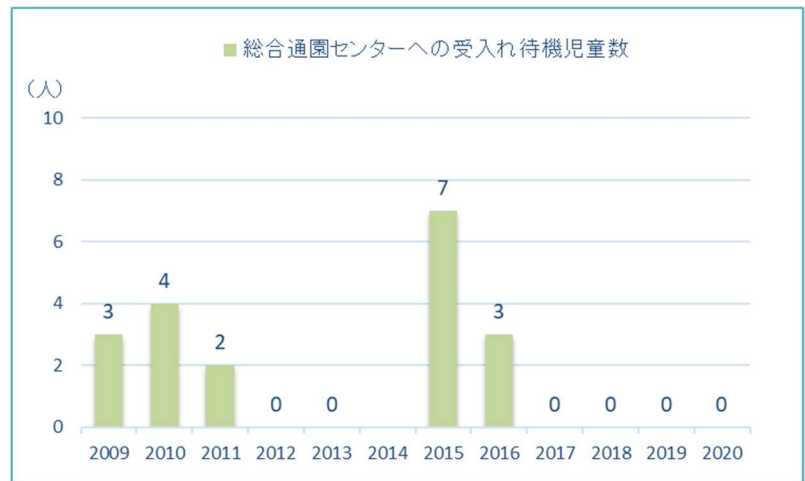
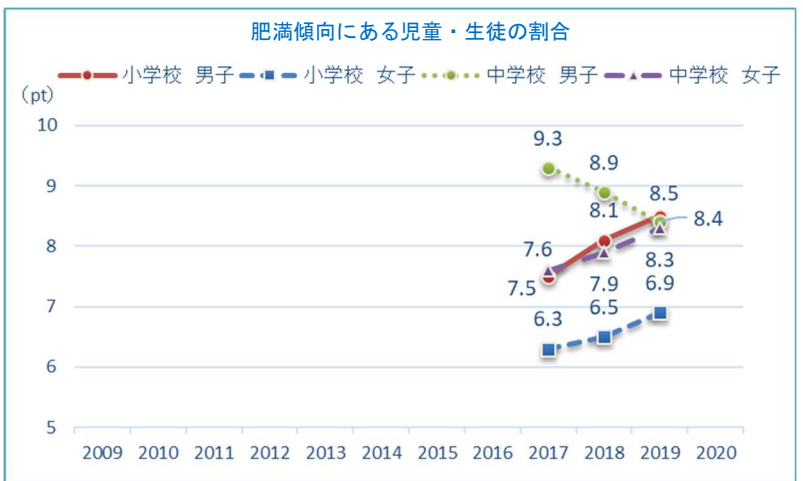
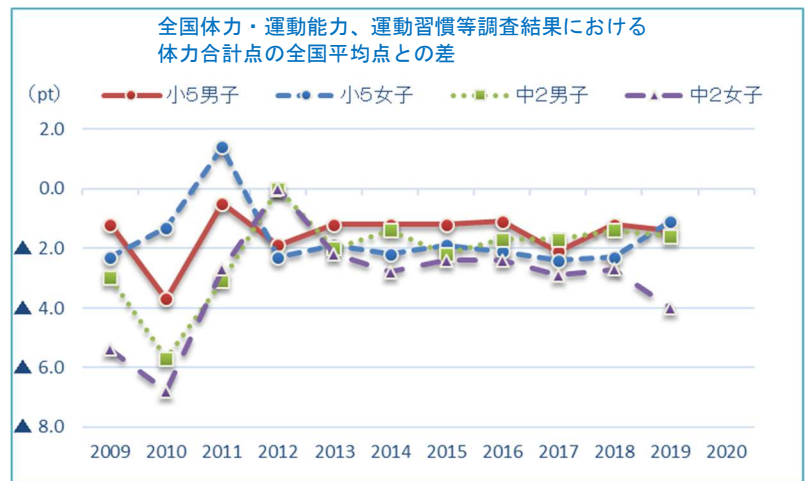
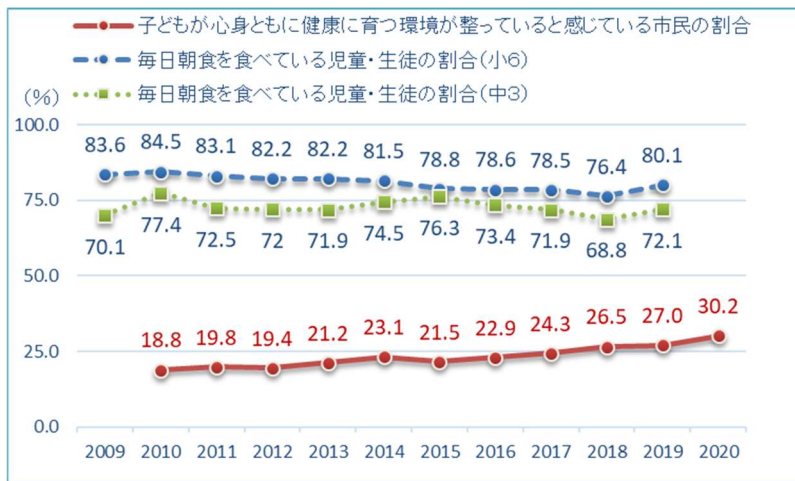
■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- ・安全安心でおいしい給食を提供するため、給食調理の委託化、地産地消のための物資調達、栄養教諭の配置等について、推進・検討していく必要がある。
- ・全国平均と比較すると依然として課題がある子どもたちの体力の向上をめざすため、引き続き体育の授業改善やスキップロープなどの取組を推進していく必要がある。
- ・子どもたちに対しての危険事案が多いため、引き続き見守り協力者との連携を図りながら、登下校時の巡回パトロールを行っていく必要がある。
- ・虐待対応件数の増加に対応するため、マンパワーの確保や職員の資質向上に努めるとともに、民生委員・児童委員はじめ、各関係機関と連携をとりながら、継続的な支援を行っていく必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
子どもが心身ともに健康に育つ環境が整っていると 感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		26.5	30.2	26.5		
毎日朝食を食べている児童・生徒の割合（小6）	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2014年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2019	2022		
		76.4	80.1	81.5		
毎日朝食を食べている児童・生徒の割合（中3）	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2019	2022		
		68.8	72.1	76.3		
全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における 体力合計点の全国平均点との差(小5男子)	ポイント	基準値	直近値	目指そう値		全国平均を目指すこととし、設定した。
		2017	2019	2021		
		▲2.1	▲1.4	0.0		
全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における 体力合計点の全国平均点との差(小5女子)	ポイント	基準値	直近値	目指そう値		全国平均を目指すこととし、設定した。
		2017	2019	2021		
		▲2.4	▲1.1	0.0		
全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における 体力合計点の全国平均点との差(中2男子)	ポイント	基準値	直近値	目指そう値		全国平均を目指すこととし、設定した。
		2017	2019	2021		
		▲1.7	▲1.6	0.0		
全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における 体力合計点の全国平均点との差(中2女子)	ポイント	基準値	直近値	目指そう値		全国平均を目指すこととし、設定した。
		2017	2019	2021		
		▲2.9	▲4.0	0.0		
肥満傾向にある生徒の割合(小学校 男子)	%	基準値	直近値	目指そう値		「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」に基づき、設定した。
		2018	2019	2022		
		8.1	8.5	5.0		
肥満傾向にある生徒の割合(小学校 女子)	%	基準値	直近値	目指そう値		「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」に基づき、設定した。
		2018	2019	2022		
		6.5	6.9	5.0		
肥満傾向にある生徒の割合(中学校 男子)	%	基準値	直近値	目指そう値		「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」に基づき、設定した。
		2018	2019	2022		
		8.9	8.4	5.0		
肥満傾向にある生徒の割合(中学校 女子)	%	基準値	直近値	目指そう値		「岸和田市保健計画ウエルエージングきしわだ2次計画・岸和田市食育推進計画」に基づき、設定した。
		2018	2019	2022		
		7.9	8.3	5.0		
子どもが地域で安全に遊べると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		27.8	30.0	27.8		
登下校時の見守り協力者数	人	基準値	直近値	目指そう値		近年下降傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		4,147	3,351	4,150		
総合通園センターへの受入れ待機児童数	人	基準値	直近値	目指そう値		待機児童を出さない状態を維持することを目指し、設定した。
		2018	2020	2022		
		0	0	0		
児童虐待（疑い含む。）相談のうち児童の状況が安定し終結した割合	%	基準値	直近値	目指そう値		近年下降傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		28.1	34.9	28.1		

（次のページにつづく）



基本目標 I-2 次世代を育てる

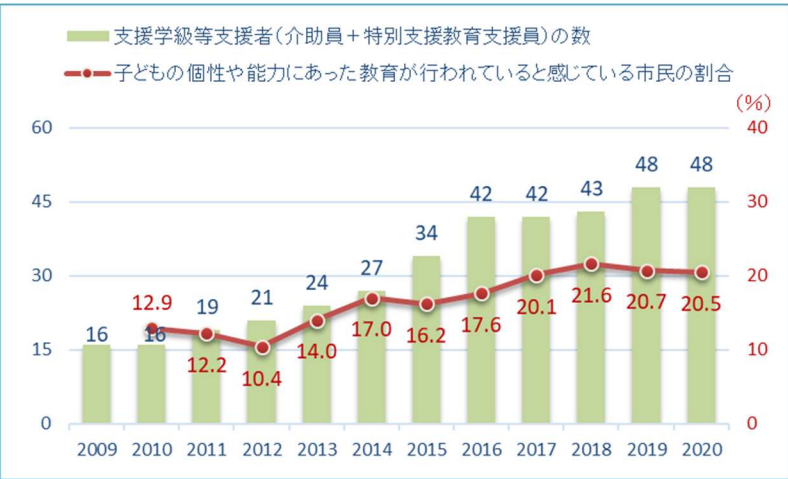
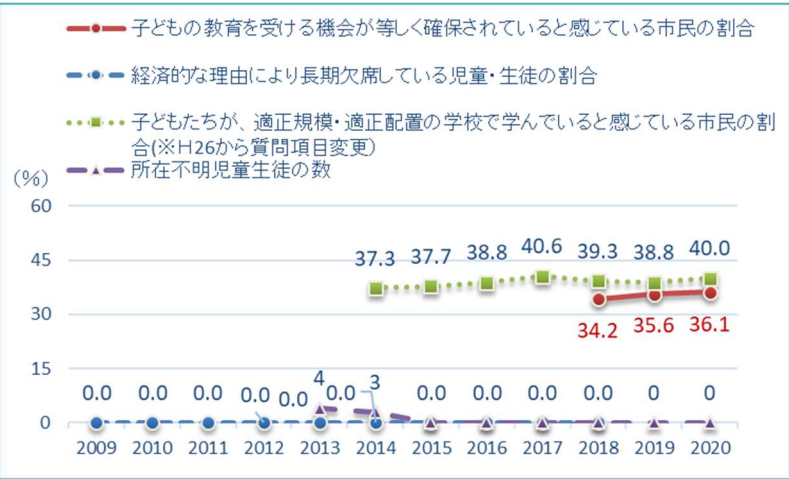
目標が達成された姿 3	
子どもの個性や能力が育まれている	
目指す成果	等しく教育を受ける機会が保障されている
▶すべての子どもたちが、適正に就園・就学しています。	
目指す成果	子どもが個性や能力にあった教育を受けている
▶子どもの個性や能力に応じた教育の場が用意され、障害の有無にかかわらず子どもがいきいきと活動しています。	
目指す成果	安全で快適な学校施設環境で児童・生徒が学習活動に取り組んでいる
▶教育を受ける環境が整備され、安全で快適な状態で児童・生徒が学習活動に取り組んでいます。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））
- ・経済的理由によって就園・就学が困難な幼児・児童・生徒の保護者に対して、幼稚園就園奨励費や就学奨励費、中学校への入学準備金を支給
 - ・子どもたちが安全で安心して学校園生活が送れる環境づくりを進めるため、幼稚園、小中学校における介助員や特別支援教育支援員を増員。
 - ・小学3～5年生の基礎学習定着のため、希望した児童に対して放課後学習支援を実施。また、個別の課題に対する支援や学校の指導方法の改善につなげるため、本市独自の学力調査（学力テスト）を小中学校（一部学年を除く）において実施
 - ・平成27年度までにすべての小中学校及び幼稚園校舎の耐震化が完了
 - ・平成30年度にすべての小中学校及び幼稚園の普通教室等に空調設備を設置

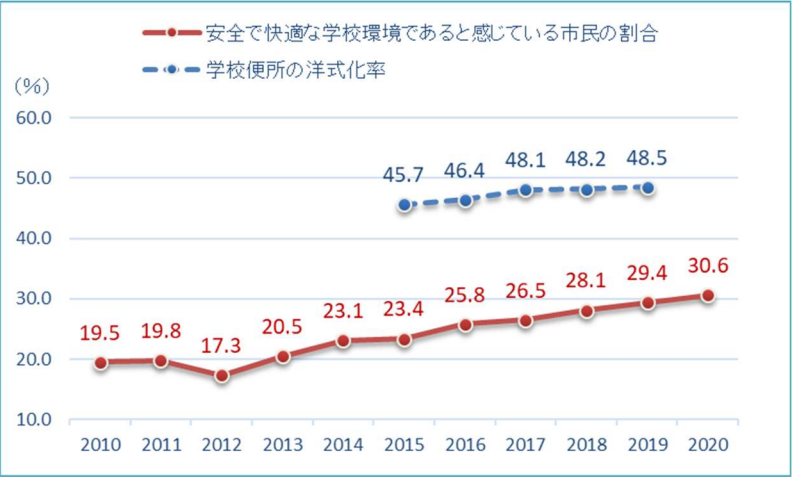
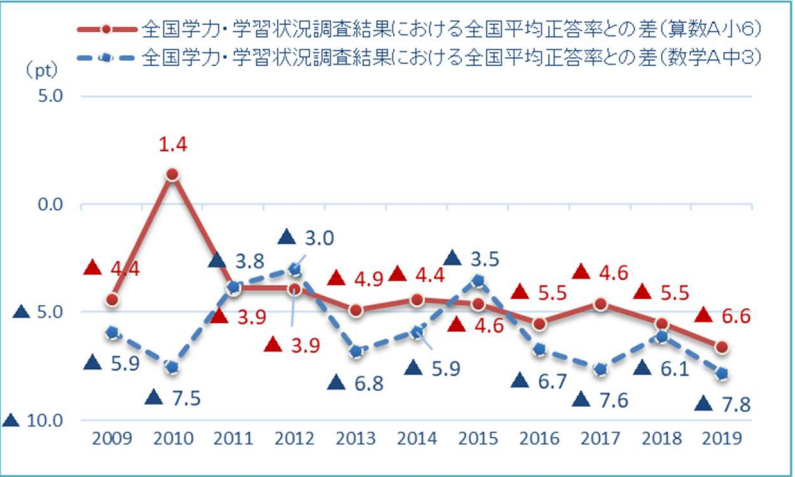
- 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）
- ・今後も支援や配慮を必要とする児童生徒の増加が見込まれ、特別教育支援員・介助員の必要性が高まっているため、人材を適切に確保するとともに、子ども一人ひとりにきめ細やかな指導及び必要な支援を行う必要がある。
 - ・岸和田市学力調査の結果や放課後学習支援事業等の効果測定結果を丁寧に分析し、課題を焦点化させたうえで、子どもたちの学力向上の施策を進めていく必要がある。
 - ・引き続き、学校施設環境において適切な維持管理を行い、児童生徒が安心安全に学べる教育環境を提供する必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
子どもの教育を受ける機会が等しく確保されていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		新規調査項目であるため、経過値がなく傾向は不明であるが、重点目指す成果に関連する指標であるため、5%の増加を目指し、設定した。
		34.2	36.1	39.2		
		基準値	直近値	目指そう値		
子どもたちが、適正規模・適正配置の学校で学んでいると感じている市民の割合（※H26から質問項目変更）	%	2018	2020	2022		近年上昇傾向であり、また、重点目指す成果に関連する指標であるため、さらなる5%の増加を目指し、設定した。
		39.3	40.0	44.3		
		基準値	直近値	目指そう値		
経済的な理由により長期欠席している児童・生徒の割合	%	2017	2018	2021		引き続き、現状を維持できるよう設定した。
		0.0	0.0	0.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
所在不明児童生徒の数	%	2017	2020	2021		全居所不明者の状況を把握できるよう、設定した。
		0.0	0.0	0.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
子どもの個性や能力にあった教育が行われていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		近年上昇傾向ではあるが、重点目指す成果に関連する指標であるため、さらなる5%の上昇を目指し、設定した。
		21.6	20.5	26.6		
		基準値	直近値	目指そう値		
支援学級等支援者（介助員＋特別支援教育支援員）の数	人	2018	2020	2022		国基準に則り、目標を設定した。
		43	48	68		
		基準値	直近値	目指そう値		
全国学力・学習状況調査結果における全国平均正答率との差（国語A小6）	ポイント	2018	2019	2022		全国平均を目指すこととし、設定した。
		▲8.7	▲10.8	0.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
全国学力・学習状況調査結果における全国平均正答率との差（国語A中3）	ポイント	2018	2019	2022		全国平均を目指すこととし、設定した。
		▲5.1	▲9.8	0.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
全国学力・学習状況調査結果における全国平均正答率との差（算数A小6）	ポイント	2018	2019	2022		全国平均を目指すこととし、設定した。
		▲5.5	▲6.6	0.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
全国学力・学習状況調査結果における全国平均正答率との差（数学A中3）	ポイント	2018	2019	2022		全国平均を目指すこととし、設定した。
		▲6.1	▲7.8	0.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
安全で快適な学校環境であると感じている市民の割合	%	2018	2019	2022		過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		28.1	30.6	28.1		
		基準値	直近値	目指そう値		
学校便所の洋式化率	%	2017	2019	2021		毎年5%の上昇を目指し、設定した。
		48.1	48.5	68.1		
		基準値	直近値	目指そう値		



（次のページにつづく）



基本目標 I-2 次世代を育てる

目標が達成された姿 4	
岸和田の担い手が育っている	
目指す成果	子どもが感受性や社会性を身につけている
▶生活の中で様々な居場所や体験の場が整い、子どもが豊かな人間性や社会性を身につけています。	
目指す成果	子どもたちが夢や目標をもって健全に育っている
▶子どもたちが夢や目標をもって、健全かつ着実に育っています。	
目指す成果	あらゆる分野での人材が育っている
▶産業・環境などのあらゆる分野で、リーダーが育っています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- ・外国語（英語）教育の充実のため、すべての小中学校に外国人指導助手（ALT）を派遣
- ・子どもたちの豊かな学びにつながる小中学校への図書館コーディネーターの配置
- ・放課後子ども教室や学校支援地域本部での活動を通じて、地域住民の協力を得ながら教育活動への参画を促し、学校と地域が一体となった教育コミュニティづくり、チビッコホーム（放課後児童クラブ）との連携を推進
- ・仲間づくりの大切さを学ぶとともに、地域における子ども会リーダーを育成するため、野外活動やプログラミング教育、異文化理解事業を実施
- ・学校内におけるいじめ防止や相談体制の充実
- ・産業高等学校では、将来的に地域社会に貢献する人材を育成するため、時代に応じた専門教育や産業教育の充実を実施

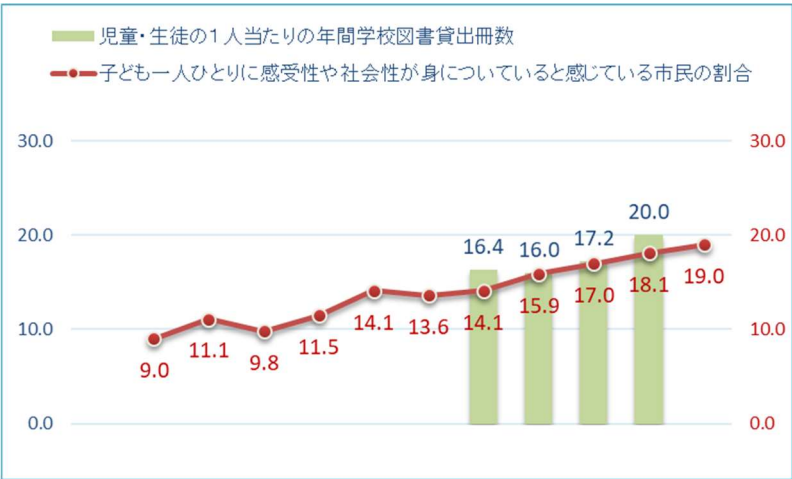


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどういふことが必要になるのか）

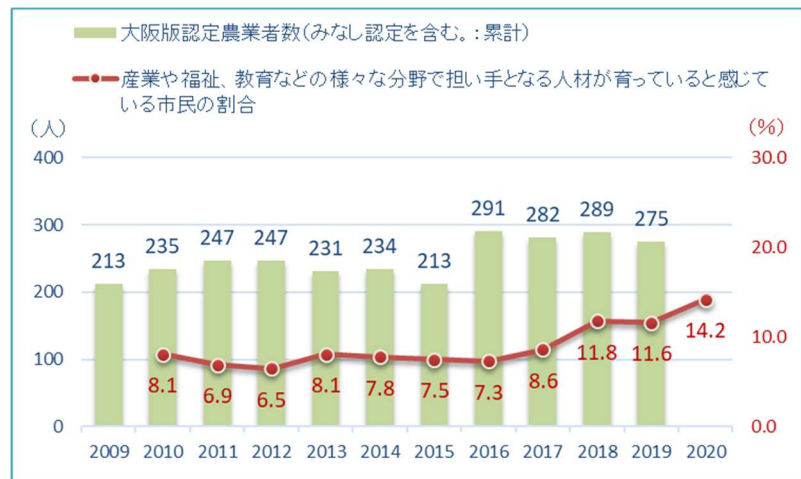
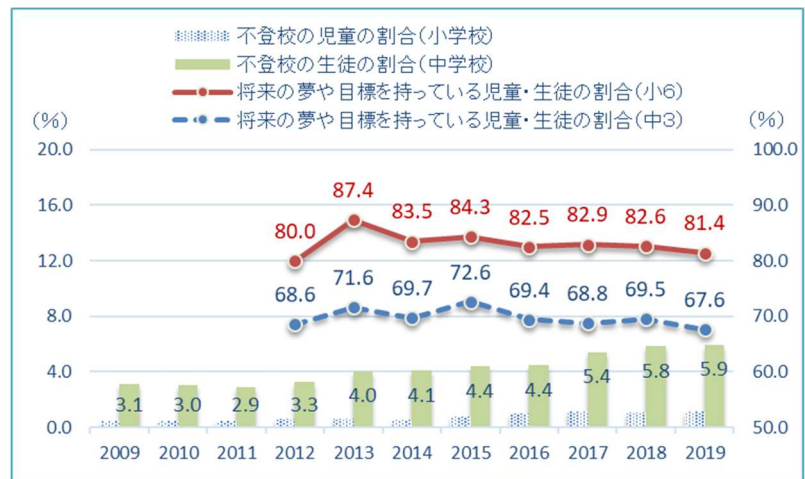
- ・ネイティブの英語に触れる機会を創出し、「使える英語」の習得をはじめ子どもたちの英語力の向上を図るため、ALT（外国語指導助手）を通年で派遣できるよう体制を構築していく必要がある。
- ・青少年育成事業では、青少年が様々な人と協力しながら活動することで主体性・協調性を養うものであり、引き続き継続していくとともに、新緑会などの指導者活動をより効果的に関連づけ、指導者層の育成にも取り組む必要がある。
- ・引き続き、社会のニーズに合った授業を行うとともに、資格の取得推進や姉妹校との交流などを実施し、将来的に地域社会に貢献する人材の育成に努めていく必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
子ども一人ひとりに感受性や社会性が身についていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022	😊	現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		17.0	19.0	17.0		
児童・生徒の1人当たりの年間学校図書貸出冊数	冊	2017	2019	2021	😊	児童・生徒がより学校図書に親しむよう、数値の高かった2016年と同水準を目指し、設定した。
		16.0	20.0	16.4		
子どもたちの健全育成を図るための環境が整っていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022	😊	現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		18.9	21.4	18.9		
将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合（小6）	%	2018	2019	2022	😞	過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		82.6	81.4	84.3		
将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合（中3）	%	2018	2019	2022	😞	過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		69.5	67.6	72.6		
不登校の児童の割合（小学校）	%	2017	2019	2021	😞	近年増加傾向にあるが、まずはそれに歯止めをかけ、現状値を超えないことを目指し、設定した。
		1.1	1.2	1.1		
不登校の生徒の割合（中学校）	%	2017	2019	2021	😞	近年増加傾向にあるが、まずはそれに歯止めをかけ、現状値を超えないことを目指し、設定した。
		5.4	5.9	5.4		
青少年活動事業への参加者数	人	2017	2019	2021	😞	近年で最も参加者数の多かった2016年の水準を確保できるよう、設定した。
		3,218	3,224	3,300		
産業や福祉、教育などの様々な分野で担い手となる人材が育っていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022	😊	現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		11.8	14.2	11.8		
大阪版認定農業者数（みなし認定を含む。：累計）	人	2017	2019	2021	😞	過去5年間で最も数値の高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		282	275	290		
岸和田市立産業高等学校生徒のうち、全商協会特別表彰者数	人	2017	2019	2021	😞	年度間で表彰者の数に大きな増減があるが、過去5年間で最も数値の高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		10	15	32		
新緑会の会員数	人	2018	2020	2022	😊	現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		78	86	78		



（次のページにつづく）



基本目標Ⅰ-3 暮らしの安全性・快適性を高める

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較	・・・ P.48
目標が達成された姿 1 健康的で快適な暮らしができている	・・・ P.49
目標が達成された姿 2 安全な食が生産され、身近に購入できている	・・・ P.51
目標が達成された姿 3 不安なく日常生活を送っている	・・・ P.52

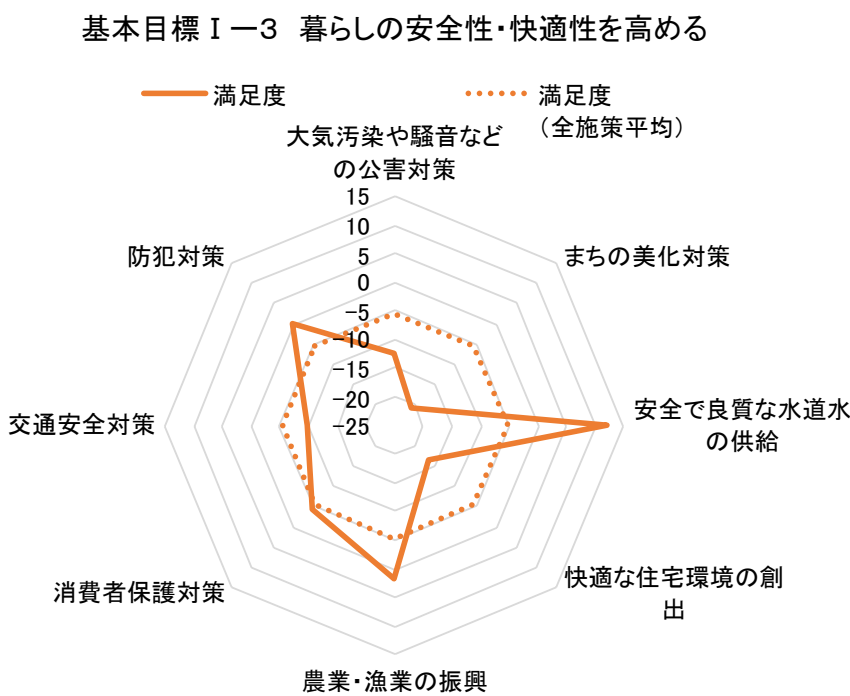
指標の達成状況と市民アンケート結果の比較

- 達成状況は「交通安全対策」、「防犯対策」で全ての指標を達成しています。また、その他の施策においても一部指標を達成しており、全ての指標で未達となっているものはありません。
- 満足度は「安全で良質な水道水の供給」、「農業・漁業の振興」、「防犯対策」、「消費者保護対策」で全施策平均よりも高くなっています。
- 重要度は「大気汚染や騒音などの公害対策」、「まちの美化対策」、「安全で良質な水道水の供給」、「快適な住宅環境の創出」、「交通安全対策」で全施策平均よりも高くなっています。
- 達成している指標が多い一方、満足度が低い施策は「交通安全対策」、達成している指標が少なく満足度も低い施策は「まちの美化対策」となっています。

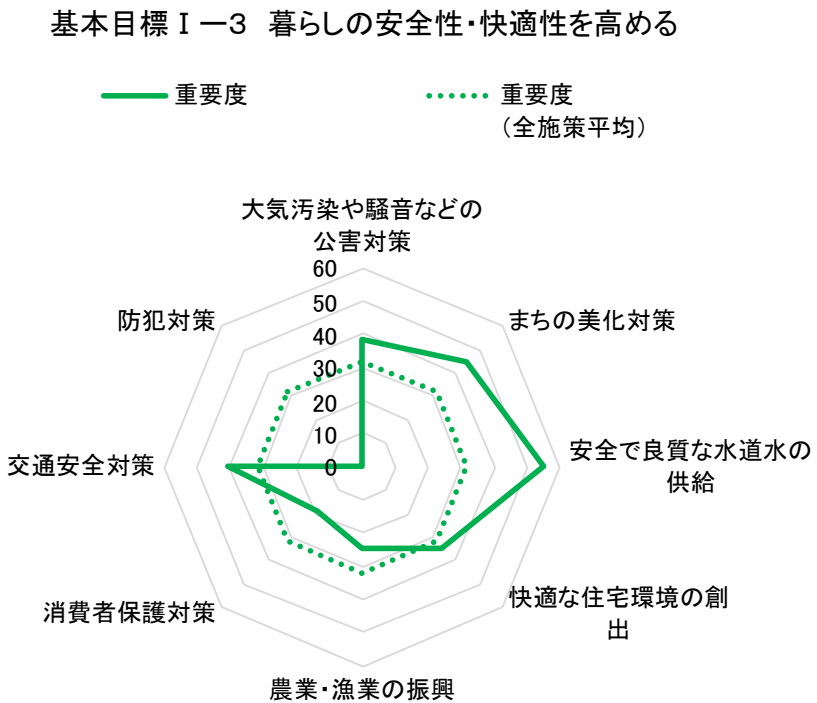
＜各施策の指標の達成状況＞

目標が達成された姿	施策（項目）	指標名	単位	基準値		直近値		目指そう値		経過状況	達成状況
										向上／低下	達成／未達
(1)健康的で快適な暮らしができている	(16) 大気汚染や騒音などの公害対策	① 騒音や大気汚染などの公害に悩まされている市民の割合	%	19.5	(2018)	22.3	(2020)	19.5	(2022)	低下	未達
		② 騒音に係る環境基準(道路に面する地域)達成割合	%	94.9	(2017)	96.5	(2019)	97.3	(2021)	向上	未達
		③ 微小粒子状物質や有害大気汚染物質(ベンゼン等)に係る環境基準達成割合	%	100	(2017)	100	(2019)	100	(2021)	向上	達成
	(17) まちの美化対策	① 衛生的できれいなまちであると感じている市民の割合	%	32.8	(2018)	31.3	(2020)	32.8	(2022)	低下	未達
		② 不法投棄に関する苦情件数(市役所に寄せられた件数)	件	130	(2017)	104	(2019)	130	(2021)	向上	達成
		③ 美化運動の申込み件数	件	1,200	(2017)	1,054	(2019)	1,200	(2021)	低下	未達
	(18) 安全で良質な水道水の供給	① 安全な水が安定して供給されていると感じている市民の割合	%	77.6	(2018)	80.4	(2020)	77.6	(2022)	向上	達成
		② 有収率	%	94.69	(2017)	94.36	(2019)	95	(2021)	低下	未達
	(19) 快適な住宅環境の創出	① 秩序があり、美しい街並みが形成されていると感じている市民の割合	%	22.9	(2018)	24.5	(2020)	22.9	(2022)	向上	達成
		② 建築確認申請の完了検査受検率	%	93.9	(2017)	87.2	(2019)	100	(2021)	低下	未達
		③ 地区計画等・建築協定・緑地協定の締結件数(累計)	件	13	(2017)	13	(2019)	13	(2021)	向上	達成
(2)安全な食が生産され、身近に購入できている	(20) 農業・漁業の振興	① 農業や漁業に魅力があると感じている市民の割合	%	34.8	(2018)	35.8	(2020)	34.8	(2022)	向上	達成
		② 地元産の食品を優先的に買う市民の割合	%	53	(2018)	50.1	(2020)	53	(2022)	低下	未達
		③ エコ農産物(エコ米)の収量	t	21	(2017)	18.3	(2019)	34	(2021)	低下	未達
		④ 農産物・海産物の直販所の来場者数	人	701,227	(2017)	614,762	(2019)	717,000	(2021)	低下	未達
(3)不安なく日常生活を送っている	(21) 消費者保護対策	① この1年間に何らかの消費者トラブルにあったことがある市民の割合	%	5.1	(2018)	4.6	(2020)	4.2	(2022)	向上	未達
		② 消費者相談のうち、解決済の割合	%	96.9	(2017)	98.1	(2019)	98.8	(2021)	向上	未達
	(22) 交通安全対策	① 安心して歩道を通行することができると感じている市民の割合	%	24.1	(2017)	28	(2020)	24.1	(2022)	向上	達成
		② 交通事故(人身事故+物損事故)の年間発生件数	件	6,242	(2017)	6,137	(2019)	6,200	(2021)	向上	達成
	(23) 防犯対策	① 地域の治安がだんだん悪化していると感じている市民の割合	%	33.2	(2018)	31	(2020)	31.7	(2022)	向上	達成
		② 刑法犯罪の認知件数	件	2,380	(2017)	1,826	(2019)	2,300	(2021)	向上	達成

＜市民アンケートでの各施策項目の満足度＞



＜市民アンケートでの各施策項目の重要度＞



基本目標 I-3 暮らしの安全性・快適性を高める

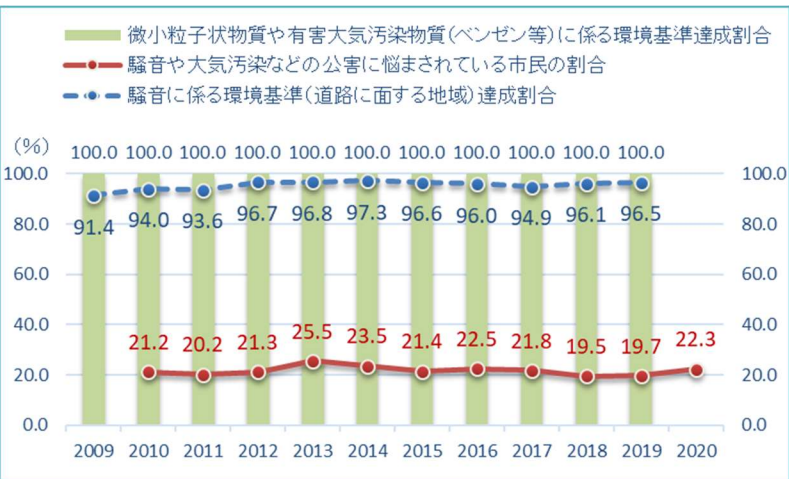
目標が達成された姿I	
健康的で快適な暮らしができている	
目指す成果	生活を脅かす環境要因が改善されている
▶ 排出ガスによる大気汚染や、騒音・振動などへの対策が講じられ、良好な生活環境が守られています。	
目指す成果	衛生的で美しい生活環境が維持されている
▶ ポイ捨てごみや害虫被害などがなく、清潔で衛生的なまちで生活しています。	
目指す成果	安全でおいしい水が安定的に供給されている
▶ 水道事業が健全に経営され、安全で良質な水道水が安定的に供給され、市民が安心して利用しています。	
目指す成果	良好な住環境が維持・改善されている
▶ 適正な都市計画により、秩序があり美しく、快適な住環境が形成されています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））
- ・大気汚染や騒音、振動など、市民の生活を脅かす環境問題に対応するため、行政だけでなく、市民・事業者も一体となって意識を高め、良好な生活環境の改善・維持を推進
 - ・平成25年に岸和田市きれいなまちづくり条例を施行し、公民協働でごみのポイ捨てや落書き、ペットのフンの放置等の防止を推進
 - ・不法投棄防止のため、府や警察などの関係機関、市民やボランティア団体との連携を図り、啓発やパトロールなどの取組を強化
 - ・水道の老朽管路等の更新や耐震化を効率的かつ効果的に実施
 - ・土地利用規制や都市施設の計画について、社会情勢の変化や事業の進捗にあわせ必要な都市計画変更等を実施
 - ・危険な空家等への除却助成金の交付を行うなど、市民の安全安心を確保する空家等対策を推進

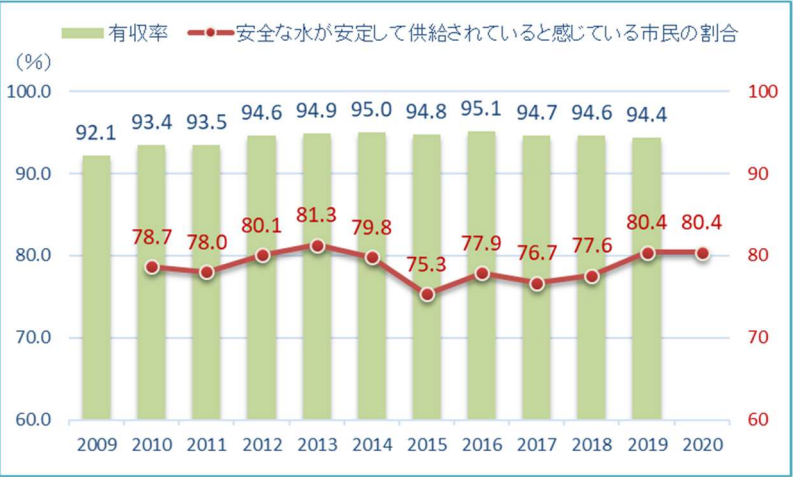
- 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）
- ・地域における活動が鍵となるため、引き続き普及啓発活動や表彰などを通じて地域の美化活動の強化を図る必要がある。
 - ・令和元年度に策定された「水道事業ビジョン」及び中長期計画に基づき、引き続き老朽管路の更新や耐震化を効率的・効果的に行い、安全で良質な水道水の安定供給に努めていく必要がある。
 - ・都市計画マスタープランに定めたまちの将来像の実現に向けて、関連する事業の進捗や社会情勢の変化等を踏まえながら、都市計画等について必要な見直しを行う必要がある。
 - ・引き続き、空家の状態に応じた利活用や適正管理、除却が適切になされる環境を整備するとともに、関係部課が連携し、適切な対応を行う必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
騒音や大気汚染などの公害に悩まされている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の低かった現状値の水準を超えないことを目指し、設定した。
		19.5	22.3	19.5		
		基準値	直近値	目指そう値		
騒音に係る環境基準（道路に面する地域）達成割合	%	2017	2019	2021		過去5年間で数値の高かった2016年の水準を下回らないことを目指し、設定した。
		94.9	96.5	97.3		
		基準値	直近値	目指そう値		
微小粒子状物質や有害大気汚染物質（ベンゼン等）に係る環境基準達成割合	%	2017	2019	2021		引き続き、良好な状態を保つことを目指し、設定した。
		100.0	100.0	100.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
衛生的できれいなまちであると感じている市民の割合（H30～文言変更）	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		32.8	31.3	32.8		
		基準値	直近値	目指そう値		
不法投棄に関する苦情件数	件	2017	2019	2021		近年ほぼ横ばいの件数であり、現状値と同水準で抑えられるよう、設定した。
		130	104	130		
		基準値	直近値	目指そう値		
美化運動の申込み件数	件	2017	2019	2021		近年、減少傾向にあり、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		1,200	1,054	1,200		
		基準値	直近値	目指そう値		
安全な水が安定して供給されていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		近年下降傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		77.6	80.4	77.6		
		基準値	直近値	目指そう値		
有収率	%	2017	2019	2021		「岸和田市水道ビジョン」に基づき、設定した。
		94.69	94.36	95.00		
		基準値	直近値	目指そう値		
秩序があり、美しい街並みが形成されていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		22.9	24.5	22.9		
		基準値	直近値	目指そう値		
建築確認申請の完了検査受検率	%	2017	2019	2021		すべての建築確認申請についての完了検査の受検を目指し、設定した。
		93.9	87.2	100.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
地区計画等・建築協定・緑地協定の締結件数（累計）	件	2017	2019	2021		現状値と同水準を見込み、設定した。
		13	13	13		
		基準値	直近値	目指そう値		



（次のページにつづく）



基本目標 I-3 暮らしの安全性・快適性を高める

目標が達成された姿 2	
安全な食が生産され、身近に購入できている	
目指す成果	地域で安全な食が生産され、消費されている
▶市内で安全な農業や漁業生産が行われ、地元で安定的に供給・消費されています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 大阪府内でトップクラスの岸和田産農産物について、情報発信することで理解や認識を高め、農業振興と地産地消を推進するとともに、新たな拠点となる丘陵地区農整備エリアでの農業基盤の整備を推進。
- 地域の活性化と地場産品の定着のため、府内有数の漁獲量を誇る水産業の振興の支援。6次産業化の推進や地産地消の取組の推進

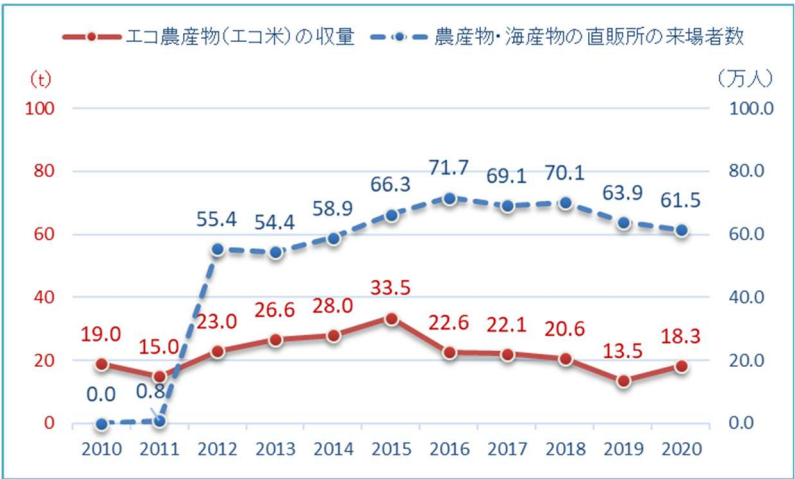
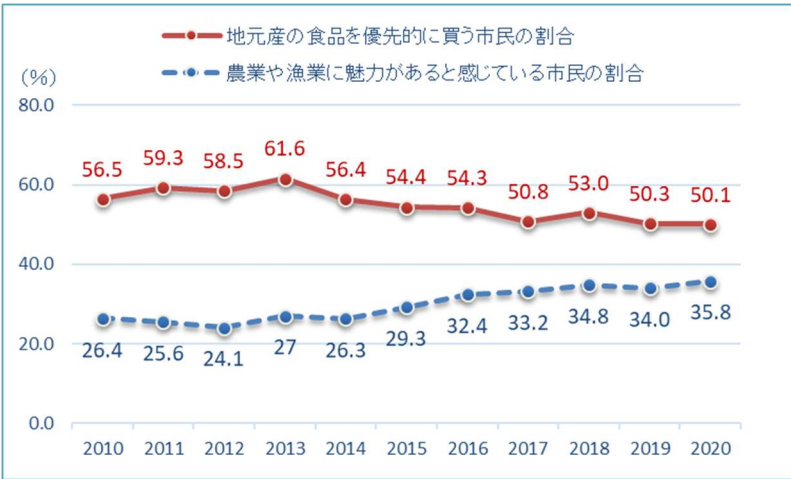


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 農業者の高齢化や担い手不足が懸念されるため、さらなる新規就農者の育成・支援や、企業が農業参入できる支援事業等を実施していく必要がある。
- 令和3年度に丘陵地区における農業の基盤整備が完了する見込みであり、道の駅愛彩ランドに隣接した立地であることなどを活かしながら、魅力向上に努める必要がある。
- 引き続き各漁業協同組合と連携しながら、水産業の支援を行う必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
農業や漁業に魅力を感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		34.8	35.8	34.8		
		基準値	直近値	目指そう値		
地元産の食品を優先的に買う市民の割合	%	2018	2020	2022		近年下降傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		53.0	50.1	53.0		
		基準値	直近値	目指そう値		
エコ農産物（エコ米）の収量	t	2017	2019	2021		過去5年間で数値の高かった2014年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		20.6	18.3	33.5		
		基準値	直近値	目指そう値		
農産物・海産物の直販所の来場者数	万人	2017	2019	2021		近年、上昇傾向にあり、数値の高かった2015年と同水準を確保できるよう、設定した。
		70.1	61.5	71.7		
		基準値	直近値	目指そう値		



基本目標 I-3 暮らしの安全性・快適性を高める

目標が達成された姿 3	
不安なく日常生活を送っている	
目指す成果	安心して消費生活を送ることができている
▶ 食品や製品、サービスなどを安心して購入でき、消費に対する相談体制が整い、消費者教育の結果、自立した消費生活が送れています。	
目指す成果	交通事故の不安を感じることなく外出している
▶ 交通事故の発生件数が減少し、子どもも高齢者も不安を感じることなく外出しています。	
目指す成果	犯罪の不安を感じることなく暮らしている
▶ 不審者の出没や詐欺、窃盗などの犯罪が減少し、誰もが不安を感じることなく暮らしています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- ・巧妙化する手口による消費者被害を防止し、安心して日常生活が営めるよう、消費生活センターで相談体制の充実とともに、消費者意識の啓発及び消費者団体との連携の強化を実施
- ・歩道をはじめとした交通安全施設を整備するとともに、警察や交通安全協会と連携し、交通安全教育の実施や交通安全運動による交通ルール普及・啓発を推進
- ・市民生活の安全と平穏を確保するとともに、社会経済活動の健全な発展を目的に、平成25年に暴力団排除条例を施行
- ・家庭、地域、関係機関が一体となった防犯体制の確立に向けた取り組みを実施。刑法犯罪認知件数が減少。

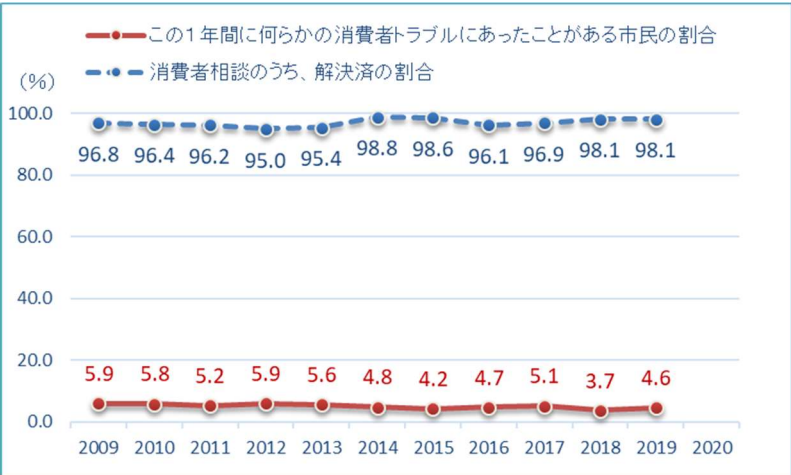


第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- ・詐欺や悪徳商法の手口は巧妙化しており、相談員の育成など相談体制の充実とともに、広報紙や講演会をはじめとする市民への啓発をより一層実施する必要がある。
- ・引き続き、交通安全指導員による登校時の見守りや交通安全運転者講習会を行うとともに、高齢者の増加に伴い、高齢者への交通安全啓発の方策について検討していく必要がある。
- ・市民や地域の自主的な防犯活動を支援するため、引き続き防犯カメラの設置に係る助成など行政としての支援に注力していく必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
この1年間に何らかの消費者トラブルにあったことがある市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の低かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		5.1	4.6	4.2		
消費者相談のうち、解決済の割合	%	2017	2019	2021		過去5年間で最も数値の高かった2014年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		96.9	98.1	98.8		
安心して歩道を通行することができると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		24.1	28.0	24.1		
交通事故（人身事故＋物損事故）の年間発生件数	件	2017	2019	2021		近年増加傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ現状値と同水準で抑えられるよう、設定した。
		6,242	6,137	6,200		
地域の治安がだんだん悪化していると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の低かった2017年の数値と同水準を目指し、設定した。
		33.2	31.0	31.7		
刑法犯罪の認知件数	件	2017	2019	2021		過去5年間で最も数値の低かった2016年の数値と同水準を目指し、設定した。
		2,380	1,826	2,300		



基本目標Ⅰ-4 人も街も災害に強くする

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較	・・・ P.54
目標が達成された姿 1 災害に対する備えと予防ができている	・・・ P.55
目標が達成された姿 2 災害が起こったとき、迅速・的確な対応ができている	・・・ P.56

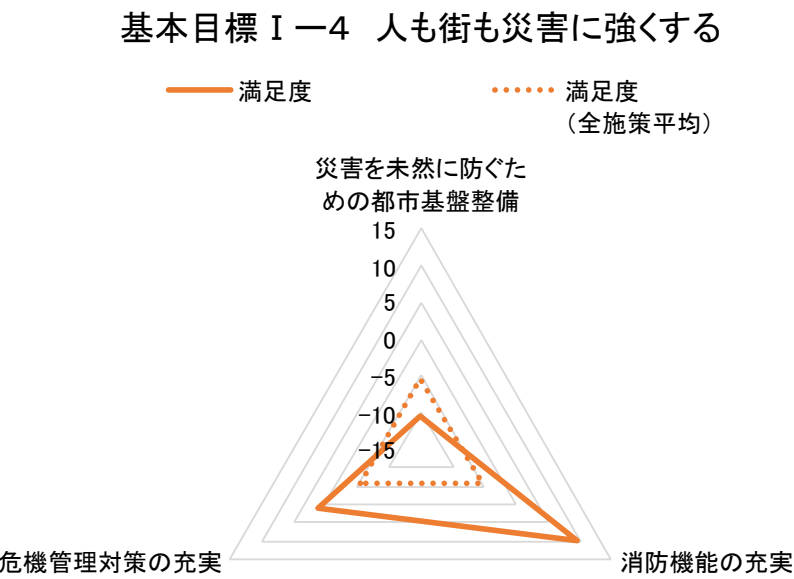
指標の達成状況と市民アンケート結果の比較

- 達成状況は「災害を未然に防ぐための都市基盤整備」で3の指標のうち2つが達成と多くを達成しています。また、その他の施策においても一部の指標は達成しています。
- 満足度は「消防機能の充実」、「危機管理対策の充実」で全施策平均よりも高くなっています。
- 重要度は全ての施策で全施策平均を上回っています。
- 達成している指標が多い一方、満足度が低い施策は「災害を未然に防ぐための都市基盤整備」となっています。

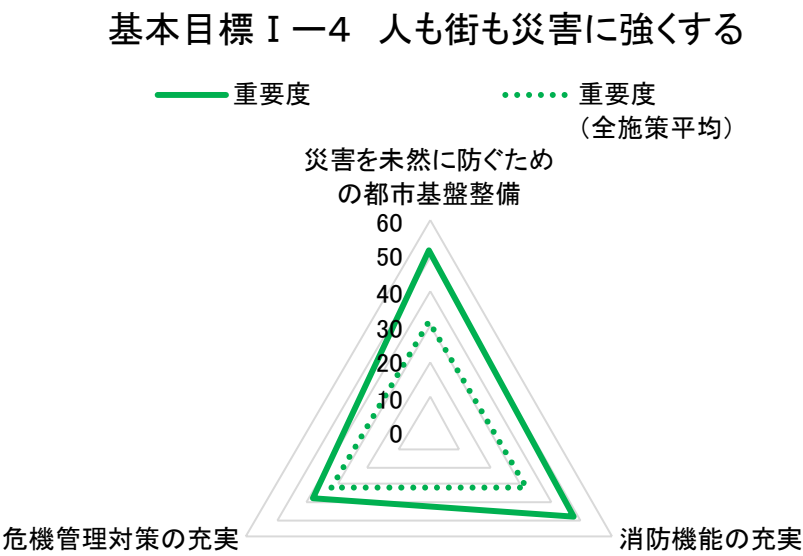
＜各施策の指標の達成状況＞

目標が達成された姿	施策(項目)	指標名	単位	基準値		直近値		目指そう値		経過状況	達成状況
										向上／低下	達成／未達
(1)災害に対する備えと予防ができている	(24) 災害を未然に防ぐための都市基盤整備	① 無料耐震診断及び既存建築物耐震診断補助制度による耐震診断実施戸数(累計)	戸	713	(2017)	815	(2019)	920	(2021)	向上	未達
		② 市有特定建築物等(学校教育施設を除く。)の耐震化率	%	81.9	(2017)	90.2	(2019)	87.7	(2021)	向上	達成
		③ 準用河川の改修率	%	93.2	(2017)	93.5	(2019)	93.5	(2021)	向上	達成
	(25) 消防機能の充実	① 消防機能が充実していると感じている市民の割合	%	30.5	(2018)	32.7	(2020)	30.5	(2022)	向上	達成
		② 人口1万人当たりの火災発生件数	件	3.5	(2017)	3.2	(2019)	2.5	(2021)	向上	未達
		③ 住宅用火災警報器の普及率	件	70	(2017)	75	(2019)	78	(2021)	向上	未達
(2)災害が起こったとき、迅速・的確な対応ができて	(26) 危機管理対策の充実	① 災害の際の緊急避難場所がどこか知っている市民の割合	%	84.9	(2018)	82.8	(2020)	84.9	(2022)	低下	未達
		② 災害の際の非常持出し品や食糧などを準備している市民の割合	%	31.3	(2018)	43.7	(2020)	31.1	(2022)	向上	達成
		③ 地域の防災力が高まっていると感じている市民の割合	%	25.2	(2018)	24.4	(2020)	25.2	(2022)	低下	未達
		④ 防災福祉コミュニティの数	組織	69	(2017)	70	(2019)	81	(2021)	向上	未達

＜市民アンケートでの各施策項目の満足度＞



＜市民アンケートでの各施策項目の重要度＞



基本目標 I-4 人も街も災害に強くする

目標が達成された姿Ⅰ	
災害に対する備えと予防ができている	
目指す成果	地震や台風などの災害に対する防災対策が講じられている
▶地震や台風が発生しても、大きな災害につながらないような施設整備などの対策が講じられています。	
目指す成果	火事が減っている
▶迅速な消防体制が維持され、火災による被害が最小限に抑えられています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

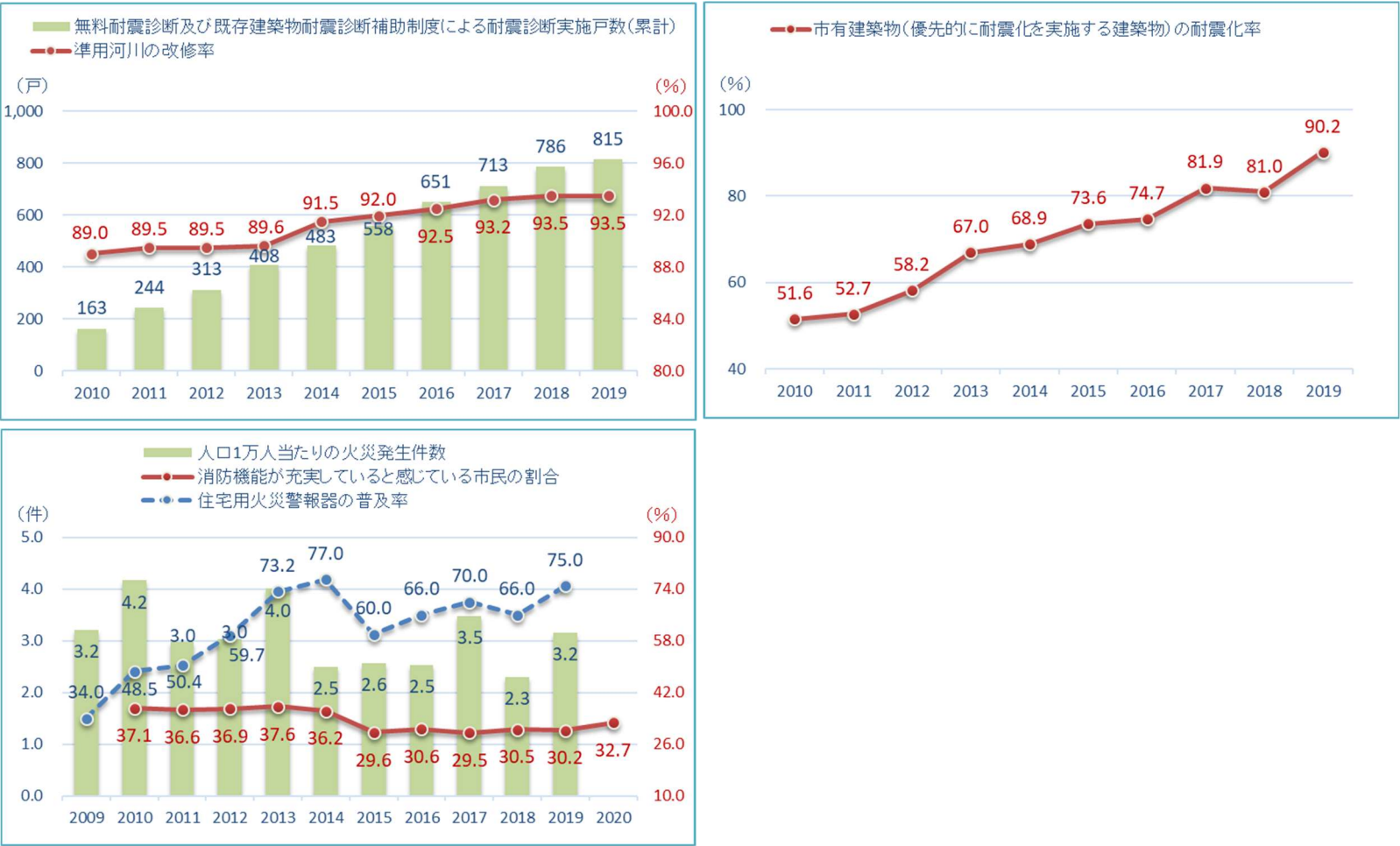
- 「住宅・建築物耐震改修促進計画 第2期」に基づき、耐震化の積極的な普及啓発に努め、耐震バンク登録者の拡大とともに、耐震診断や耐震改修工事、耐震シェルター設置工事への助成を継続
- 地震発生時のブロック塀倒壊を防ぐため、ブロック塀等の撤去費用の補助を引き続き実施
- 牛滝川等の2級河川については、引き続き積極的に、府へ整備要望を実施
- 河川の整備・点検等のデータベース化を行うための河川台帳を作成
- 浸水被害を最小限にするため、未整備区間の水路改修を推進
- 防火意識や住宅用火災警報器の設置率の向上、防火対象物等への立入検査の強化や、放置ボンベ撲滅の取組を推進
- 防火水槽の補強、消火栓の設置・更新及びはしご車のオーバーホール（分解点検作業）の実施

■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 災害時の行政の役割が増大する中、地域と行政の連携を円滑に進めるため、防災会議を中心に地域防災計画の見直しや災害対応の振り返りなどを行う必要がある。
- 住宅・建築物の耐震化については、市民と行政における防災意識の向上や防災情報の共有を行い、より地域に根ざした対策を講じることが今後重要となる。
- 市民一人ひとりが火災予防に努め、地域コミュニティ等で火災予防啓発を実施するとともに、行政としては効果的な火災予防広報や立入検査等を通じて、防火思想を普及させることが求められる。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
無料耐震診断及び既存建築物耐震診断補助制度による耐震診断実施戸数（累計）	戸	2017	2019	2021	😊	50戸/年の耐震診断の実施を見込み、設定した。
		713	815	920		
市有建築物（優先的に耐震化を実施する建築物）の耐震化率	%	2017	2019	2021	😋	「岸和田市住宅・建築物耐震改修促進計画第2期」において、2026年度までに95%以上を目標としている。これを勘案し、設定した。
		81.9	90.2	87.7		
準用河川の改修率	%	2017	2019	2021	😋	改修予定区間の工事完了を目指し、設定した。
		93.2	93.5	93.5		
消防機能が充実していると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022	😋	近年下降傾向にあり、まずはそれに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう設定した。
		30.5	32.7	30.5		
人口1万人当たりの火災発生件数	件	2017	2019	2021	😞	近年減少傾向にあり、過去5年間で最も少なかった2014年、2016年と同水準で抑えられるよう設定した。
		3.5	3.2	2.5		
住宅用火災警報器の普及率	%	2017	2019	2021	😞	現状よりさらに制度周知に努めることにより、毎年2%の上昇を目指し、設定した。
		70.0	75.0	78.0		



基本目標 I-4 人も街も災害に強くする

目標が達成された姿 2

災害が起こったとき、迅速・的確な対応ができている

目指す成果

災害被害を最小限に抑える危機管理体制が整っている

▶ 災害に対する備えや情報伝達、救助体制など、災害発生時に適切な対応ができ、被害を最小限に抑える体制が整っています。

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 災害時に必要な非常食や日用品等の重要物資、避難所の円滑な運営に必要な物資の計画的な備蓄
- 停電に備え、非常用エンジン発電機を整備
- 地域の災害対応力を高めるため、消防団・水防団を中核とした地域防災力の充実強化
- 頻発する水害に即応できるよう、水防団活動を引き続き実施
- 要支援者への支援の要となる防災福祉コミュニティに対する、地域住民や関係機関と連携した積極的な支援と育成の実施

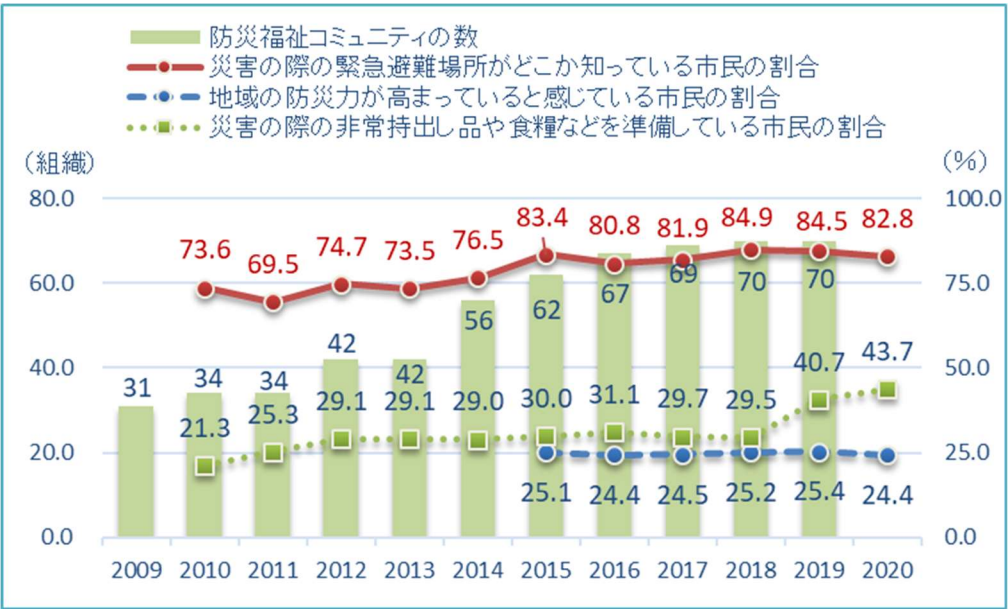


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 引き続き、資機材の配備や物資保管を進めるなど、指定避難所の防災機能の強化を図る必要がある。
- これまでのような展示型の防災訓練ではなく、実災害を見据えた実践的な訓練の実施について検討するとともに、行政においても各機関との連携や、応援職員の受け入れなど災害対応業務の練度を高めていくことが求められる。
- 地域防災において市民が主体的に取り組めるよう、防災福祉コミュニティ等に対して防災講座や防災意識の啓発など、必要な支援を引き続き実施することが必要である。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
災害の際の緊急避難場所がどこか知っている市民の割合	%	2018 84.9	2020 82.8	2022 84.9		過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
災害の際の非常持出し品や食糧などを準備している市民の割合	%	2018 29.5	2020 43.7	2022 31.1		過去5年間で最も高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
地域の防災力が高まっていると感じている市民の割合	%	2018 25.2	2020 24.4	2022 25.2		近年ほぼ横ばいであり、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
防災福祉コミュニティの数	組織	2017 69	2019 70	2021 81		現状値から毎年3組織ずつ増やすことを目指し、設定した。



基本目標Ⅰ-5 健康を育み、地域医療を充実させる

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較	・・・ P.58
目標が達成された姿 1 一人ひとりの健康が維持・増進されている	・・・ P.59
目標が達成された姿 2 誰もが、いつでも、安心して医療が受けられる	・・・ P.60

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較

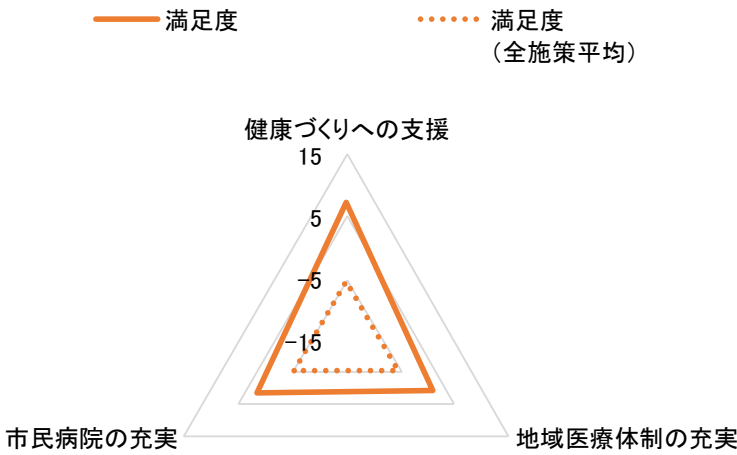
- 達成状況は「地域医療体制の充実」で、10 の指標のうち 7 つが達成となっています。また、その他の施策についても一部指標は達成しており、全ての指標で未達となっている施策はありません。
- 満足度、重要度は全ての施策で全施策平均を上回っています。

＜各施策の指標の達成状況＞

目標が達成された姿	施策(項目)	指標名	単位	基準値		直近値		目指そう値		経過状況	達成状況
										向上／低下	達成／未達
(1)一人ひとりの健康が維持・増進されている	(27) 健康づくりへの支援	① 運動や食事など健康に気をつけている市民の割合	%	72.1	(2018)	75.2	(2020)	74.1	(2022)	向上	達成
		② 日常生活の中でストレスを感じることがある市民の割合	%	83	(2018)	80	(2020)	79.4	(2022)	向上	未達
		③ 国民健康保険特定健康診査受診率	%	28.9	(2017)	28.3	(2019)	42	(2021)	低下	未達
		④ 第1号被保険者に占める中重度介護認定者の割合	%	10.9	(2017)	10.3	(2019)	10.7	(2021)	向上	達成
(2)誰もが、いつでも、安心して医療が受けられる	(28) 地域医療体制の充実	① 救急医療体制が充実していると感じている市民の割合	%	40.2	(2018)	42.6	(2020)	40.2	(2022)	向上	達成
		② 安心して医療が受けられると感じている市民の割合	%	55	(2018)	58.7	(2020)	55	(2022)	向上	達成
		③ 救急講習終了証年間交付者数	人	735	(2017)	522	(2019)	940	(2021)	低下	未達
		④ かかりつけ医をもっている市民の割合	%	63.5	(2018)	63.6	(2020)	63.5	(2022)	向上	達成
		⑤ 軽症者(入院を必要としない)の救急車による搬送割合	%	62.5	(2017)	63.9	(2019)	50	(2021)	向上	達成
		⑥ 働く意欲のある人に働ける場所が確保されていると感じている市民の割合	%	9.6	(2018)	12	(2020)	9.6	(2022)	向上	達成
		⑦ 仕事と生活の調和が取れていると感じている市民の割合	%	46.4	(2018)	50.5	(2020)	46.9	(2022)	向上	達成
		⑧ 労働環境に満足している市民の割合(市内労働者に限る)	%	23.6	(2018)	29.5	(2020)	23.6	(2022)	向上	達成
		⑨ 有効求人倍率(岸和田公共職業安定所管内)	倍	1.02	(2018)	0.86	(2020)	1.02	(2022)	低下	未達
		⑩ 「岸和田・貝塚合同就職面接会」における採用者 数	人	11	(2017)	12	(2019)	17	(2021)	向上	未達
	(29) 市民病院の充実	① 市民病院における 紹介率	%	60.8		63.1		67		向上	未達
		② 市民病院における 逆紹介率	%	76.1	(2017)	86.3	(2019)	80	(2021)	向上	達成
		③ 市民病院における経常収支比率	%	102.2	(2017)	99.9	(2019)	109.7		低下	未達
		④ 市民病院の病床利用率	%	80.5	(2017)	76.4	(2019)	84	(2021)	低下	未達

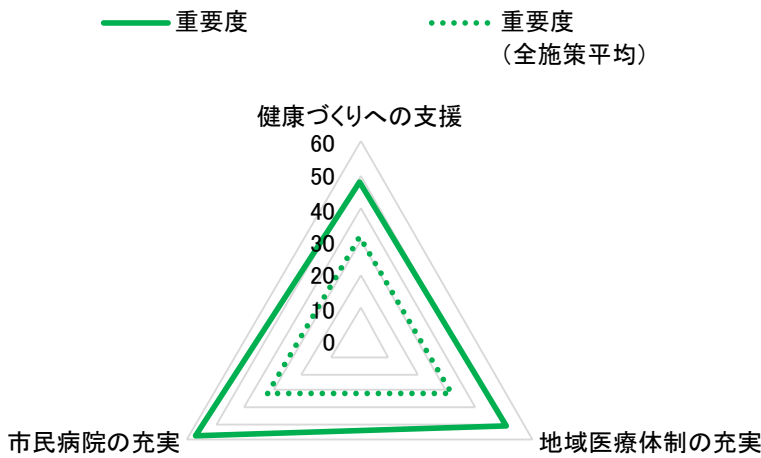
＜市民アンケートでの各施策項目の満足度＞

基本目標 I ー5 健康を育み、地域医療を充実させる



＜市民アンケートでの各施策項目の重要度＞

基本目標 I ー5 健康を育み、地域医療を充実させる



基本目標 I-5 健康を育み、地域医療を充実させる

目標が達成された姿Ⅰ	
一人ひとりの健康が維持・増進されている	
目指す成果	市民一人ひとりが健康づくりに取り組み、心身の健康が維持されている
▶市民一人ひとりが、健康に対する意識を高め、心身ともに健康な状況が保たれています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 感染症の発病やまん延、重症化を防ぐための予防接種事業の実施とともに、がん検診の受診率向上のため、個別受診勧奨を充実
- 国民健康保険においては、特定健康診査や人間ドックなどの疾病の発症や重症化を予防する事業を積極的に実施し、健康寿命の延伸への寄与や健康の保持・増進の推進を実施

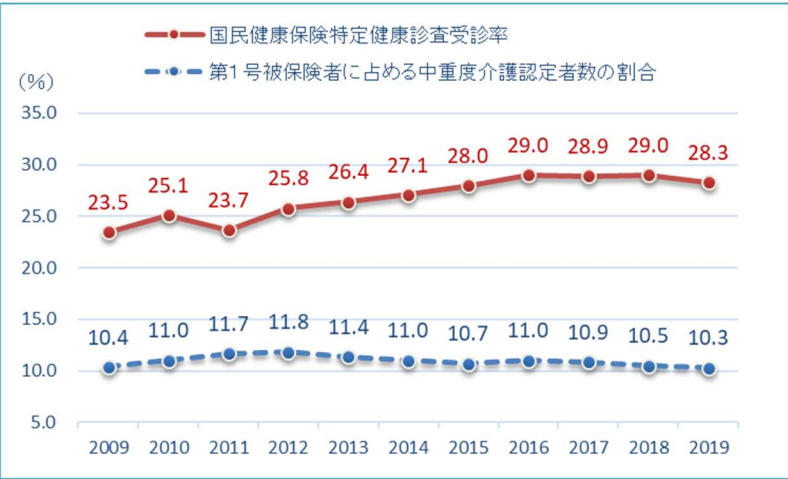
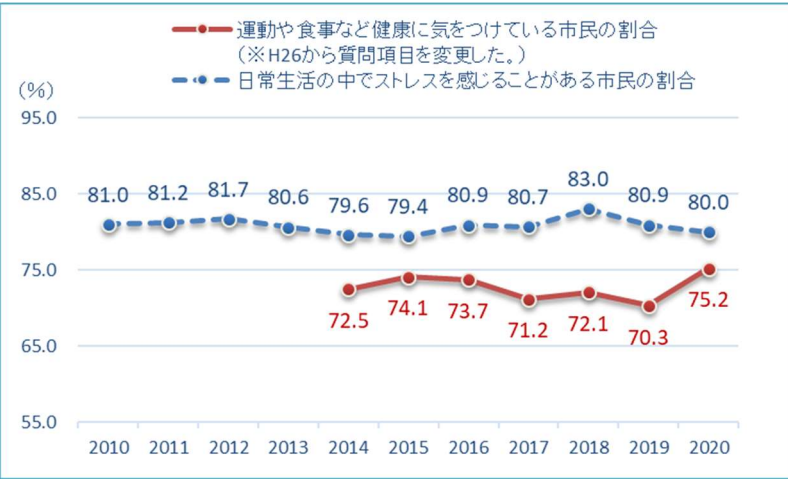


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 今後、本市の健康課題を分析し、市民に発信する場を住民組織と連携して設けることで、市民一人ひとりに健康づくりに取り組む必要性を周知し、自らの行動変容に繋げる取組が求められる。
- 疾病の早期発見・予防のためには、国民健康保険被保険者が特定健康診査を受診することが重要であり、民間事業者のノウハウなどを活用しながら、引き続き受診率向上のための取組が必要である。
- 介護予防のためには、いきいき百歳体操などを実施する地域の通いの場を形成・維持することが重要であり、引き続き行政として市民の自主的な活動を支援する必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
運動や食事など健康に気をつけている市民の割合 （※H26から質問項目を変更した。）	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		72.1	75.2	74.1		
日常生活の中でストレスを感じることがある市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の低かった2015年の数値を超えないよう、設定した。
		83.0	80.0	79.4		
国民健康保険特定健康診査受診率	%	2017	2019	2021		「第2期保健事業実施計画（第2期データヘルス計画）」に定める暫定目標受診率に基づき、設定した。
		28.9	28.3	42.0		
第1号被保険者に占める中重度介護認定者数の割合	%	2017	2019	2021		過去5年間で最も割合の少なかった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		10.9	10.3	10.7		



基本目標 I-5 健康を育み、地域医療を充実させる

目標が達成された姿 2	
誰もが、いつでも、安心して医療が受けられる	
目指す成果	必要な医療が安心して受けられる
▶ 地域医療体制が整い、夜間や休日でも医療が受けられる体制が整っています。	
目指す成果	市民病院が地域の基幹病院としての役割を果たしている
▶ 医療の高度化や地域連携が図られていて、地域の基幹病院としての役割を果たしています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 救急隊員の資質と機器の性能の向上に努め、ハード面とソフト面の両面から救急体制を充実・強化
- 高度・専門医療や救急医療、がん医療の充実
- 患者への入退院支援や地域医療ネットワークの構築の推進による、地域医療機関との機能分担、連携の強化
- 病院経営の効率化とともに、医師をはじめとする病院医療スタッフの確保、病院設備の適切な更新による診療体制の充実

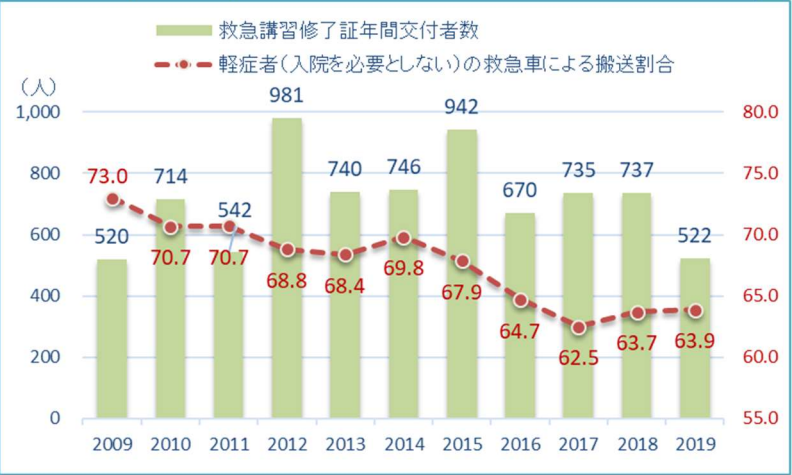
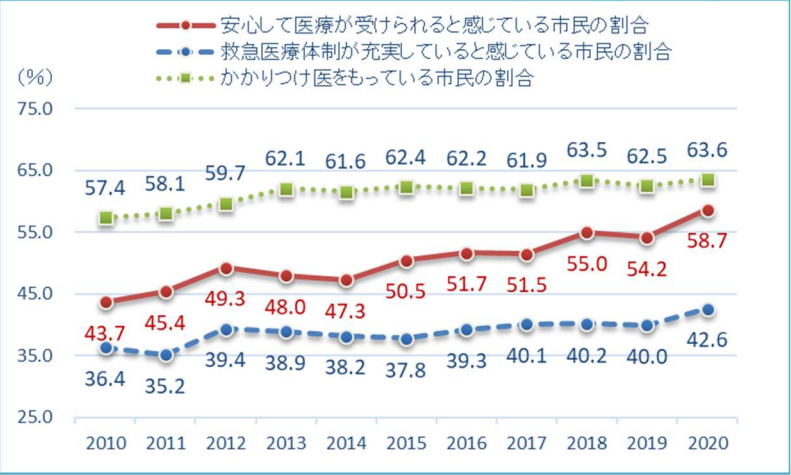


第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 市民の健康が保持・増進され、いつでも安心して医療を受けられるよう、地域の保健医療を充実させるため、市医師会・市歯科医師会・市薬剤師会を支援するとともに、協力関係をより強固にしていくことが求められる。
- 引き続き、救急隊員の知識・技術の向上に努めるほか、新たな感染症などの発生に備え、必要な資機材の備蓄を行うとともに、市民に対する啓発活動を実施する必要がある。
- 引き続き、市民病院の経営効率化を進めるとともに、医師をはじめとする病院医療スタッフの確保に努め、病院設備を適切に更新することにより診療体制の充実を図り、公立病院として安全で安心な医療を安定的に提供できるよう取り組む必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
救急医療体制が充実していると感じている市民の割合	%	2018 40.2	2020 42.6	2022 40.2	👍	現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
安心して医療が受けられると感じている市民の割合	%	2018 55.0	2020 58.7	2022 55.0	👍	過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
救急講習修了証年間交付者数	人	2017 735	2019 522	2021 940	😐	過去5年間で最も多かった2015年と同水準を確保できるよう、設定した。
かかりつけ医をもっている市民の割合	%	2018 63.5	2020 63.6	2022 63.5	👍	過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
軽症者（入院を必要としない）の救急車による搬送割合	%	2017 62.5	2019 63.9	2021 50.0	😞	全国平均水準(平成29年49.3%)を目指し、設定した。
市民病院における紹介率	%	2017 60.8	2019 63.1	2021 67.0	😊	「市立岸和田市民病院新改革プラン（平成29年度～平成32年度）」における目標設定に準じて設定した。
市民病院における逆紹介率	%	2017 76.1	2019 86.3	2021 80.0	👍	「市立岸和田市民病院新改革プラン（平成29年度～平成32年度）」における目標設定に準じて設定した。
市民病院における経常収支比率	%	2017 102.2	2019 99.9	2021 103.7	😐	「市立岸和田市民病院新改革プラン（平成29年度～平成32年度）」における目標設定に準じて設定した。
市民病院の病床利用率	%	2017 80.5	2019 76.4	2021 84.0	😞	「市立岸和田市民病院新改革プラン（平成29年度～平成32年度）」における目標設定に準じて設定した。



基本目標Ⅰ-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創造する

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較	・・・ P.62
目標が達成された姿 1 多彩な地域特性を活かした景観や拠点が形成されている	・・・ P.63
目標が達成された姿 2 人や物が盛んに市内を行き交っている	・・・ P.64
目標が達成された姿 3 1年中を通じて多くの人が岸和田を訪れ、市民と交流している	・・・ P.65
目標が達成された姿 4 経済活動が活発に行われている	・・・ P.66

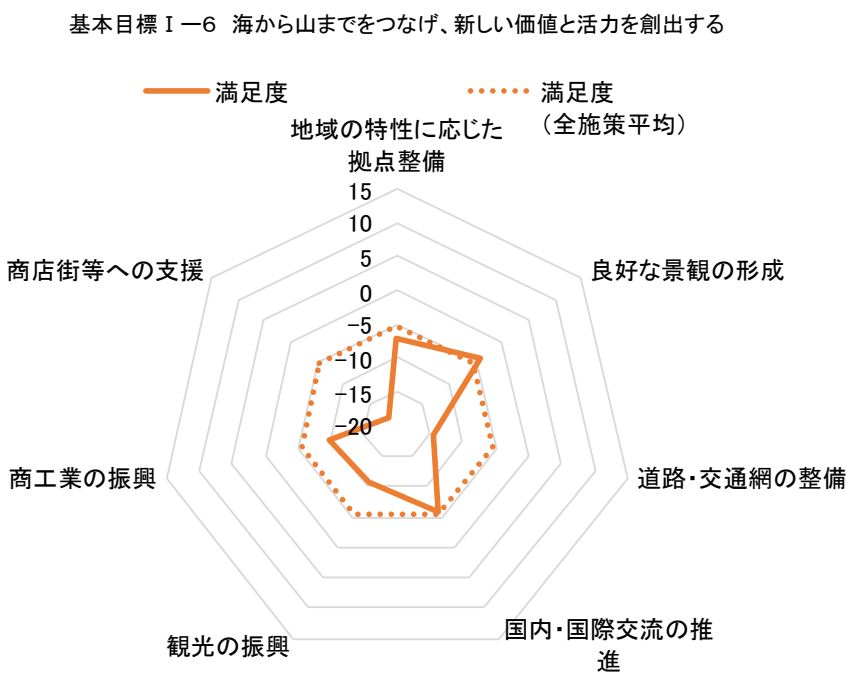
指標の達成状況と市民アンケート結果の比較

- 達成状況は「良好な景観の形成」、「国内・国際交流の推進」で全ての指標が達成となっています。また、「地域の特性に応じた拠点整備」、「商工業の振興」、「商店街等への支援」で一部の指標を達成しています。一方、「道路・交通網の整備」や「観光の振興」では、把握できている全ての指標で未達となっています。
- 満足度は「良好な景観の形成」以外の全ての施策において全施策平均を下回っています。
- 重要度は「道路・交通網の整備」で全施策平均を上回っています。
- 達成している指標が多い一方、満足度が低いのは「良好な景観の形成」、「国内・国際交流の推進」、「地域の特性に応じた拠点整備」となっています。
- 重要度が全施策平均以上あるいは平均程度である一方、達成している指標が少なく、満足度も低いのは「道路・交通網の整備」、「商店街等への支援」となっています。

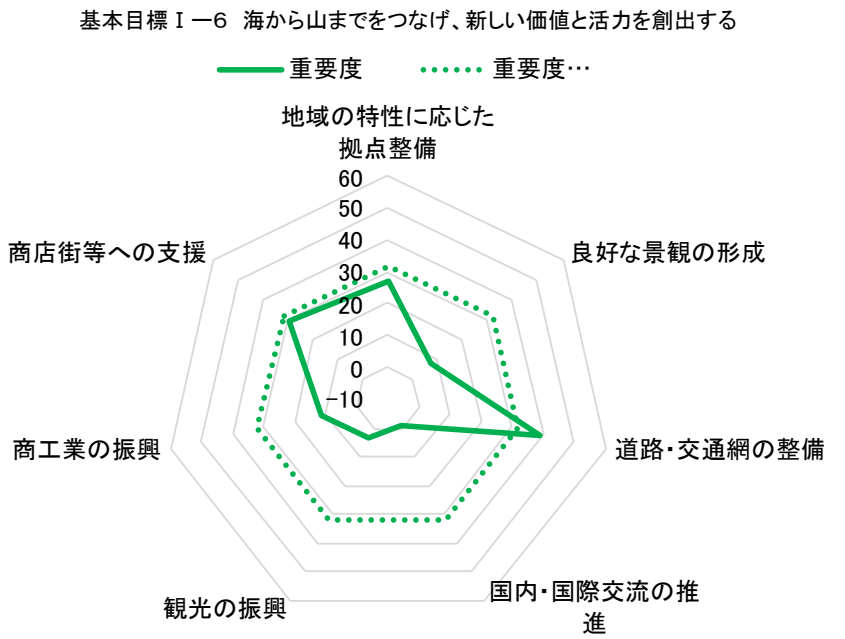
＜各施策の指標の達成状況＞

目標が達成された姿	施策(項目)	指標名	単位	基準値		直近値		目指そう値		経過状況	達成状況
										向上／低下	達成／未達
(1) 多彩な地域特性を活かした景観や拠点が形成されている	(30) 地域の特性に応じた拠点整備	① 鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合	%	17.2	(2018)	20.4	(2020)	17.2	(2022)	向上	達成
		② 丘陵部、港湾部などの地域の特性を活かしたまちづくりが進んでいると感じている市民の割合	%	20.9	(2017)	22.7	(2019)	20.9	(2021)	向上	達成
		③ 市内鉄道駅(7駅)の1日平均乗車人員	人	46,542	(2017)	45,079	(2019)	47,000	(2021)	低下	未達
		④ 丘陵地区整備事業の進捗よく率	%	15.2	(2017)	22.4	(2019)	100	(2021)	向上	未達
	(31) 良好な景観の形成	① 景観がよく保全されていると感じている市民の割合	%	19.7	(2018)	22.5	(2020)	19.7	(2022)	向上	達成
(2) 人や物が盛んに市内を行き交う	(32) 道路・交通網の整備	① 市内をスムーズに移動できていると感じている市民の割合	%	34.1	(2018)	36.1	(2020)	39.1	(2022)	向上	未達
		② 都市計画道路の整備率	%	55.5	(2017)	55.8	(2019)	58.6	(2021)	向上	未達
		③ 市内で運行されているバスの1日平均乗車人数	人/日	3,612	(2017)	3,159	(2019)	4,100	(2021)	低下	未達
(3) 1年中を通じて多くのひとが岸和田を訪れ、市民	(33) 国内・国際交流の推進	① 国際化が進んでいると感じている市民の割合	%	11.5	(2018)	11.7	(2020)	11.5	(2022)	向上	達成
		② 多文化共生事業への参加者数	人	379	(2017)	666	(2019)	450	(2021)	向上	達成
	(34) 観光の振興	① 岸和田が多く観光客でにぎわい、観光の振興が十分な状態であると感じている市民の割合	%	13.7	(2018)	15.1	(2020)	18.7	(2022)	向上	未達
		② 1年間の主要観光施設及びイベント等への観光入込客数	万人	295【76】	(2017)	240【71】	(2019)	321【95】	(2021)	-	-
(4) 経済活動が活発に行われている	(35) 商工業の振興	① 商工業に活気があると感じている市民の割合	%	7.4	(2018)	10.6	(2020)	8.8	(2022)	向上	達成
		② 年間商品販売額	億円	3,152	(2016)	-		3,152	(2020)	-	-
		③ 市内の従業員4人以上の製造業事業所の製造品出荷額等	億円	2,369	(2017)	2,450	(2018)	2,369	(2021)	向上	達成
		④ 市内民営事業所数	事業所	7,262	(2016)	-		7,300	(2020)	-	-
		⑤ 市内民営事業所就業者数	人	63,157	(2016)	-		64,000	(2020)	-	-
	(37) 商店街等への支援	① 地元の商店や商店街で頻繁に買物をする市民の割合	%	39.7	(2018)	41.4	(2020)	39.7	(2022)	向上	達成
		② 小売業年間販売額数	億円	1,537	(2016)	-		1,537	(2020)	-	-
		③ 小売業の商店数	店	1,116	(2016)	-		1,116	(2020)	-	-

＜市民アンケートでの各施策項目の満足度＞



＜市民アンケートでの各施策項目の重要度＞



基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する

目標が達成された姿Ⅰ	
多彩な地域特性を活かした景観や拠点が形成されている	
目指す成果	拠点の整備が計画的に進んでいる
▶計画的な土地利用に基づき、地域特性に応じた拠点の整備が進んでいます。	
目指す成果	良好な景観が形成されている
▶景観に配慮した良好な街並みが形成され、快適な住環境が形成されています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- ・JR久米田駅周辺において駅周辺道路の整備を推進。また、駅西側の新たな改札口に対応するアクセス道路の整備を実施。南海春木駅周辺においても、市道整備を進めるなどインフラ整備を実施
- ・岸和田丘陵地区「ゆめみヶ丘岸和田」では、みどり豊かな魅力あるまちづくりをめざし、丘陵土地区画整理組合を積極的に支援し、関係機関とも連携を図りながら、企業誘致や市有地の売却を推進。住宅用地については、丘陵土地区画整理組合や住宅メーカー、住宅販売業者等と連携・協力した広報活動を実施。自然エリアでは、伐採竹林等の有効活用による地域振興や、アドプトフォレスト活動など民間企業と連携した里山再生、自然環境の保全を実施。
- ・岸和田旧港地区と地蔵浜地区の施設について、国から「みなとオアシス岸和田」として登録
- ・地域が主体的に景観の核となる資源を発掘し、その情報を蓄積・共有していけるよう、平成24年から「ここに残る景観資源発掘プロジェクト」を実施

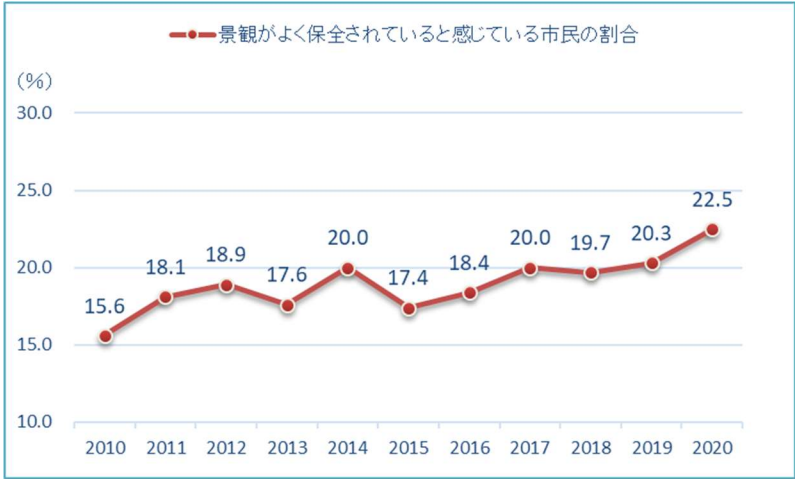
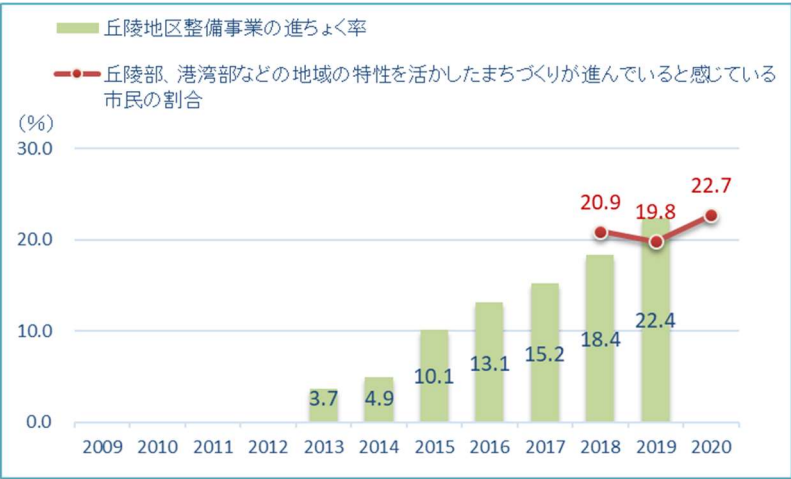


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- ・引き続き、多様な機能が集積し、安全で利便性の高い地域拠点の形成を進めるため、駅前におけるバスなど公共交通の充実を図る必要がある。
- ・丘陵地区の活性化に向け、まちづくり協議会の主体的な運営体制の確立をめざすため、行政として必要な支援を行うことが求められる。
- ・旧港地区再開発事業から20年が経過し、民間事業者の動向などを踏まえた今後の旧港地区・地蔵浜地区のあり方・ビジョン等を再検討していく必要がある。
- ・引き続き、景観資源の改善や保全を行うため、広報活動や指導により市民意識の向上や事業者等の行動へとつなげていく必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
鉄道駅周辺の市街地に活気があると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		17.2	20.4	17.2		
丘陵部、港湾部などの地域の特性を活かしたまちづくりが進んでいると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		新規調査項目であるため、経過値がなく傾向は不明であるが、当面の間、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		20.9	22.7	20.9		
市内鉄道駅（7駅）の1日平均乗車人員	人	基準値	直近値	目指そう値		近年では微増傾向にあったが、減少に転じたため、過去5年間で最も多かった2016年の水準を維持できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		46,542	45,079	47,000		
丘陵地区整備事業の進捗よく率	%	基準値	直近値	目指そう値		2021年度末の整備完了を目指し、設定した。
		2017	2019	2021		
		15.2	22.4	100.0		
景観がよく保全されていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		近年、減少傾向にあり、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		19.7	22.5	19.7		



基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する

目標が達成された姿 2

人や物が盛んに市内を行き交っている

目指す成果

市内の移動がスムーズにできている

▶交通網が充実し、安心してスムーズに目的地に行くことができます。

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 市民の安全な通行を確保するため、道路施設の破損などの迅速な補修及び修繕ともに、街路樹の剪定などの実施
- 持続的な安全性・信頼性を確保するため、道路舗装及び橋りょうの老朽化への対応の計画的な実施
- 臨海部と丘陵地区のアクセスネットワーク機能の向上につながる、岸和田港福田線（田治米畑町線から包近流木線）の整備を実施
- 広域幹線である泉州山手線の延伸に向けて、沿線3地区における区画整理事業調査等の実施。
- JR東岸和田駅の高架化の完成及び周辺の整備

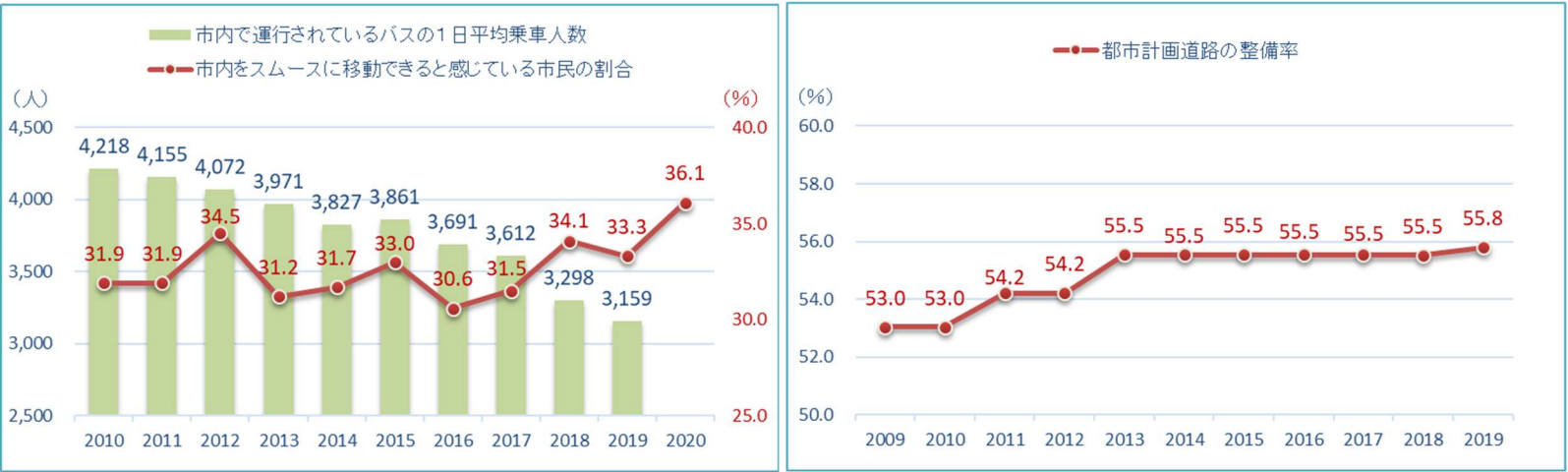


第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 田治米畑町線はじめ、今後、必要な事業用地買収及び道路整備工事を進めていくために、積極的な所要の財源確保及び事業推進が必要である。
- 泉州山手線の早期事業着手に向け、民間事業者の募集や国の補助金・交付金の活用などにより、効率的な整備を行うよう国・府等の関係機関とより一層連携していく必要がある。
- 今後、地域の交通資源を総動員した移動手段の確保を行うとともに、IoTやAI技術の公共交通への活用を行い、公共交通ネットワークの拡充と利便性向上に取り組む必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
市内をスムーズに移動できている市民の割合	%	2018	2020	2022		重点目指す成果に関連する指標であるため、5%の増加を目指し、設定した。
		34.1	36.1	39.1		
都市計画道路の整備率	%	基準値	直近値	目指そう値		現着手街路事業の竣工を見込み、設定した。
		2017	2019	2021		
		55.5	55.8	58.6		
市内で運行されているバスの1日平均乗車人数	人/日	基準値	直近値	目指そう値		近年は減少傾向にあるが、まずはそれに歯止めをかけ、第2期戦略計画での目指そう値と同水準を目指し、設定した。
		2017	2019	2021		
		3,612	3,159	4,100		



基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する

目標が達成された姿 3	
1 年中を通じて多くの人が岸和田を訪れ、市民と交流している	
目指す成果	地域の中で多文化共生が行われている
▶ 国籍や居住地などにかかわらず、多くの人が活発な交流を通じ、相互理解が進んでいます。	
目指す成果	市民が観光資源に親しみ、多くの観光客でにぎわっている
▶ 岸和田の魅力をアピールすることで、多くの人を呼び込み、活発に交流が行われています。	

1. 第 4 次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- ・ 姉妹・友好都市間での青少年やスポーツ、文化交流等を実施するとともに、国際交流団体への支援を実施
- ・ 岸和田城の文化・観光資源を活用した、外国人旅行者の戦略的誘致を実施している。
- ・ 旅行者による SNS などを通じた本市の魅力の発信とともに、本市の岸和田城の紹介ページ等の多言語化にも着手するなど、情報発信の強化を実施
- ・ 一般社団法人 KIX 泉州ツーリズムビューローとの連携を主軸に、関係自治体や関係団体と一体となった、民間活力を活かした観光地経営の視点から「稼ぐ力」の構築支援を実施

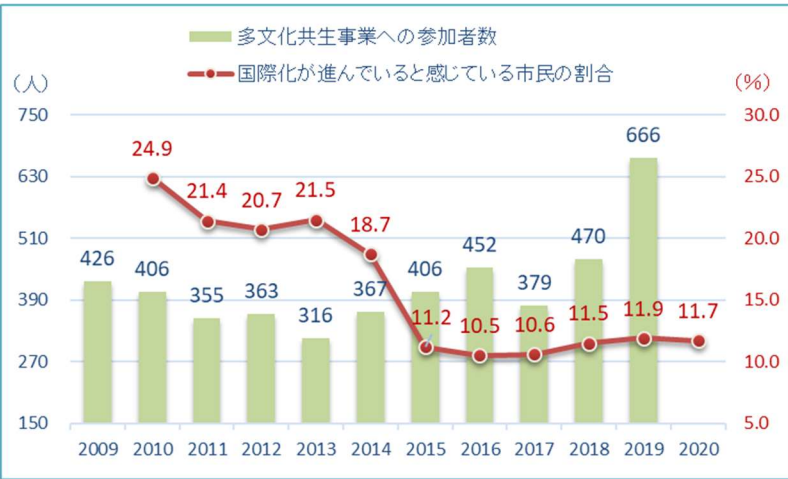


■ 第 5 次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- ・ 多文化共生の実現に向け、岸和田市国際親善協会の活動を支援するとともに、市民が主体的に活動できる環境を整えることが求められる。
- ・ 本市では、だんじり祭以外にも岸和田城や五風荘などの観光資源があり、「岸和田ならではの価値」をさらに磨き上げ、外向きに発信していくことで認知度の向上に取り組む必要がある。
- ・ 引き続き、行政と KIX 泉州ツーリズムビューローが連携しながら、泉州地域の発展のために取り組む必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第 3 期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
国際化が進んでいると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		近年は下降傾向にあるが、その状況に歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		11.5	11.7	11.5		
多文化共生事業への参加者数	人	2017	2019	2021		過去 5 年間で最も数値の高かった 2016 年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		379	666	450		
岸和田が多く観光客でにぎわい、観光の振興が十分な状態であると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		重点目指す成果に関連する指標であるため、5%を超える上昇を目指し、設定した。
		13.7	15.1	18.7		
1 年間の主要観光施設及びイベント等への入込客数	万人	2017	2019	2021		重点目指す成果に関連する指標であるため、5%を超える上昇を目指し、設定した。
		295	240	321		



基本目標 I-6 海から山までをつなげ、新しい価値と活力を創出する

目標が達成された姿 4	
経済活動が活発に行われている	
目指す成果	多様な資源を活かしあい、市内の事業所に活力がある
▶ 岸和田が有する資源を効果的に活用し、市内の事業所活動が活発に行われています。	
目指す成果	身近に利用できる商業施設があり、にぎわっている
▶ 身近になじみのある商店があり、地域のふれあいの場となって活力があります。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

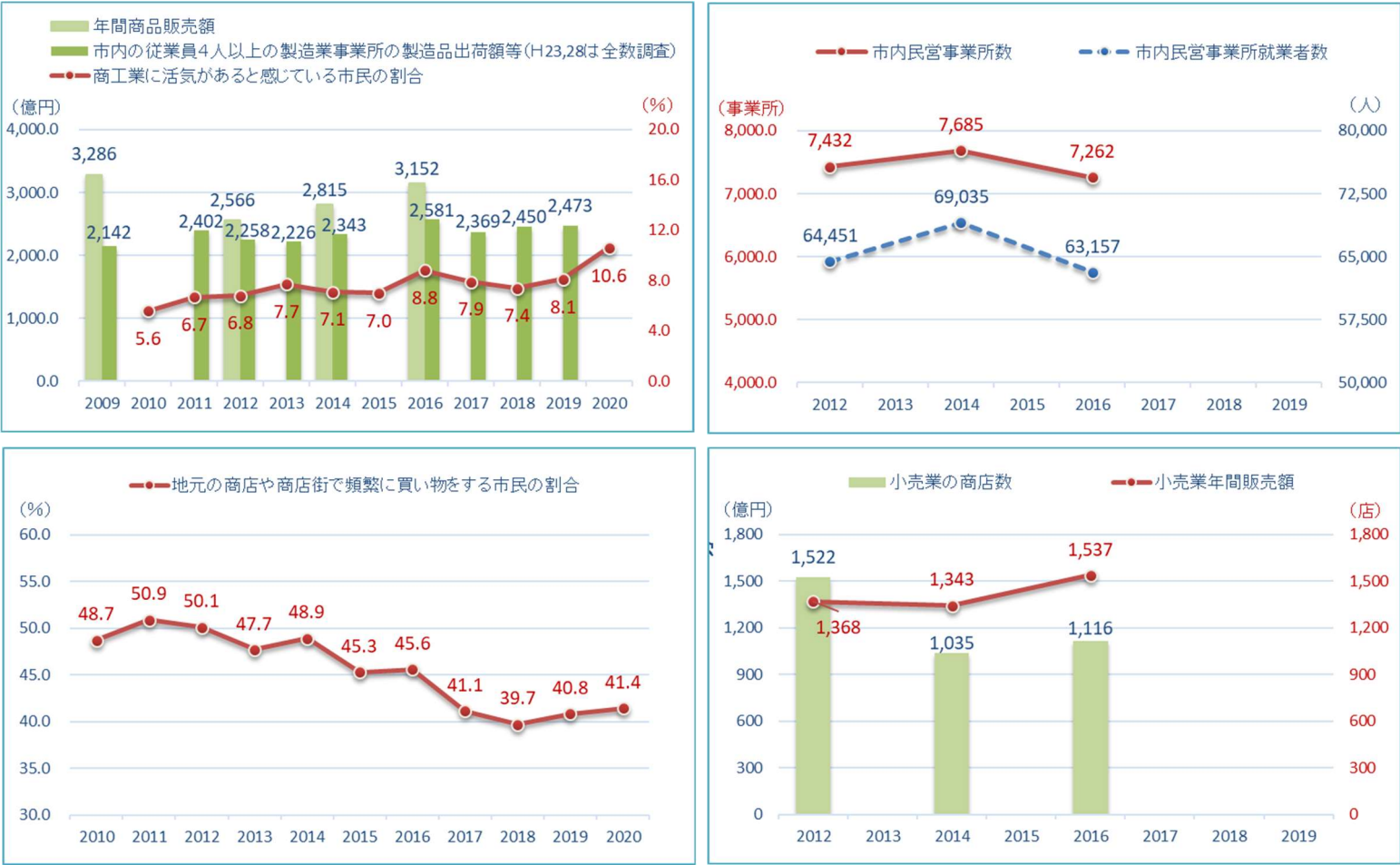
- 市内で創業する人に対する初期投資の支援や、商工会議所や地域金融機関と連携した継続的な創業支援に加え、市内の中小企業や小規模事業者に対しては、Kishi-Biz を通した販路開拓、人材獲得・育成及び技術力向上のための支援を実施
- 岸之浦町の阪南2区整備事業推進事業用地である市有地の売却とともに、阪南2区第1期保管施設用地の企業誘致、臨海部の既存企業に対する助成制度による支援。
- J R東岸和田駅前へホテル事業者と防災や観光等の連携協定を締結
- 商店活性化やにぎわいの創出のための施設維持の支援や協働によるイベントの開催などを実施
- 安心安全な商店街を目指し、街路灯や防犯カメラの設置支援

■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 事業者の強みを見出し、売上アップに向けた具体的な提案を行うことが特徴である Kishi-Biz を中心に関係支援機関との連携を強化し、市内事業者の活性化に取り組むことが必要である。
- 将来的な企業ニーズにあった業務用地の不足により、企業誘致が困難になると見込まれるため、今後は大阪府などと連携し、既存企業の流出防止に努める必要がある。
- 引き続き、インターネットにおける販路開拓など、行政として必要な後方支援を商店街等に対して行う必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
商工業に活力があると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		7.4	10.6	8.8		
年間商品販売額	億円	基準値	直近値	目指そう値	未判定	過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2016	2019	2021		
		3,152	-	3,152		
市内の従業員4人以上の製造業事業所の製造品出荷額等（H23,28は全数調査）	億円	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2017	2021		
		2,369	2,473	2,369		
市内民営事業所数	事業所	基準値	直近値	目指そう値	未判定	近年減少傾向にある。まずは、それに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2016	2019	2021		
		7,262	-	7,300		
市内民営事業所就業者数	人	基準値	直近値	目指そう値	未判定	近年減少傾向にある。まずは、それに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2016	2019	2021		
		63,157	-	64,000		
地元の商店や商店街で頻繁に買い物をする市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		近年減少傾向にあり、それに歯止めをかけるため、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		39.7	41.4	39.7		
小売業年間販売額	億円	基準値	直近値	目指そう値	未判定	現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2016	2019	2021		
		1,537	-	1,537		
小売業の商店数	店	基準値	直近値	目指そう値	未判定	現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2016	2019	2021		
		1,116	-	1,116		



基本目標Ⅰ-7 豊かな自然を未来につなぐ

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較	・・・ P.68
目標が達成された姿 1 海から山をつなぐ、水と緑のネットワークが機能している	・・・ P.69
目標が達成された姿 2 心安らぐ場所が身近にある	・・・ P.70
目標が達成された姿 3 地球環境への負荷が減っている	・・・ P.71

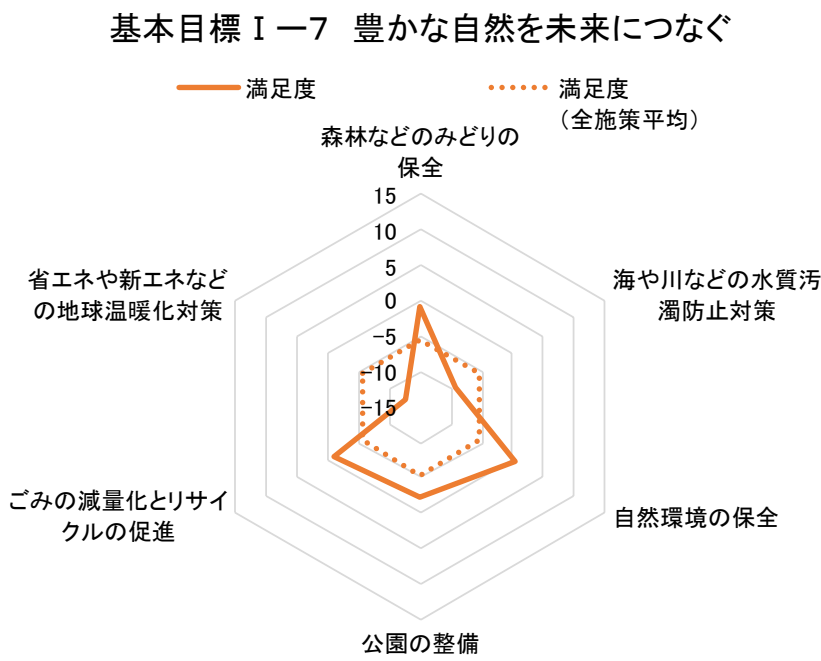
指標の達成状況と市民アンケート結果の比較

- 達成状況は、「公園の整備」、「ごみの減量化とリサイクルの促進」、「省エネや新エネなどの地球温暖化対策」では全ての指標で達成となっています。また、その他の指標においても一部指標は達成しており、全ての指標が未達となっている施策はありません。
- 満足度は「森林などのみどりの保全」、「自然環境の保全」、「ごみの減量化とリサイクルの促進」「公園の整備」で全施策平均より高くなっています。
- 重要度は「海や川などの水質汚濁防止対策」、「ごみの減量化とリサイクルの促進」が全施策平均より高くなっています。

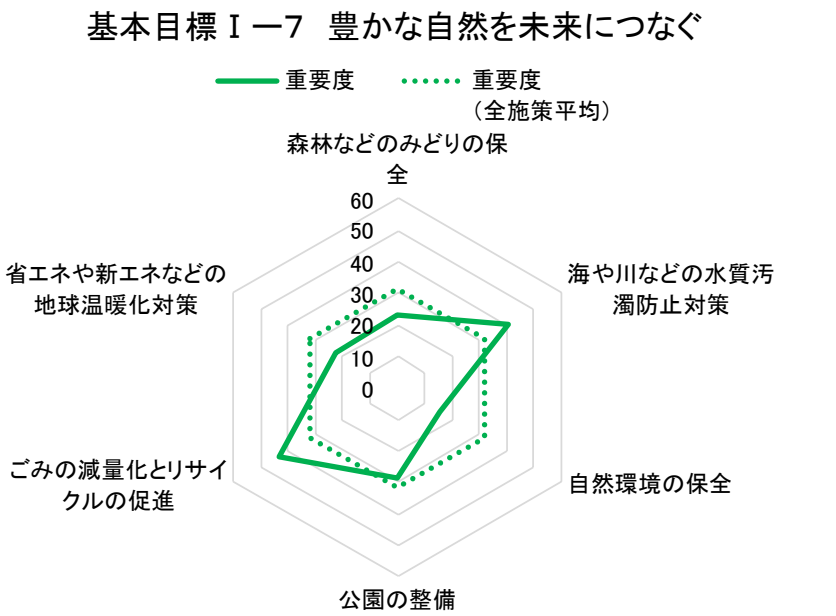
＜各施策の指標の達成状況＞

目標が達成された姿	施策（項目）	指標名	単位	基準値		直近値		目指そう値		経過状況	達成状況
										向上／低下	達成／未達
(1) 海から山までをつなぐ、水と緑のネットワークが機能している	(39) 森林などのみどりの保全	① 岸和田はみどりが豊かであると感じている市民の割合	%	50.2	(2018)	52.2	(2020)	54.1	(2022)	向上	未達
		② 施設緑地面積	ha	345.05	(2017)	348.7	(2019)	345.05	(2021)	向上	達成
	(40) 海や川などの水質汚濁防止対策	① 海や川の水がきれいと感じている市民の割合	%	16.1	(2018)	15.1	(2020)	17	(2022)	低下	未達
		② 河川の生活環境に係る環境基準(BOD)達成割合	%	100	(2017)	100	(2019)	100	(2021)	向上	達成
		③ 生活排水適正処理割合	%	89.1	(2017)	90.1	(2019)	90	(2021)	向上	達成
		④ 経費回収率	%	122.6	(2017)	130.1	(2019)	100	(2021)	向上	達成
	(41) 自然環境の保全	① 多様な動植物が生息していると感じている市民の割合	%	23.5	(2018)	25.4	(2020)	24	(2022)	向上	達成
		② きしわだ自然資料館の入館者数	人	18,950	(2017)	20,790	(2019)	21,800	(2021)	向上	未達
(2) 心安らぐ場所が身近にある	(42) 公園の整備	① 心安らぐ公園や親水空間などが身近にあると感じている市民の割合	%	37.2	(2018)	39.1	(2020)	38.5	(2022)	向上	達成
		② 市民1人当たりの都市公園面積	m ² /人	8.6	(2017)	8.8	(2019)	8.6	(2021)	向上	達成
		③ 公園美化ボランティア登録数団体	人	224		224		224		向上	達成
		④	団体	10	(2017)	10	(2019)	10	(2021)	向上	達成
(3) 地球環境への負荷が減っている	(43) ごみの減量化とリサイクルの促進	① ごみの減量化やリサイクルに取り組んでいる市民の割合	%	70	(2018)	74.1	(2020)	70	(2022)	向上	達成
		② 市民1人1日当たりの一般家庭普通ごみ排出量	g	408.4	(2017)	410.4	(2019)	401.3	(2021)	向上	達成
		③ 事業系ごみの年間排出量	t	31,958	(2017)	33,563	(2019)	30,561	(2021)	向上	達成
		④ リサイクル率	%	13.7	(2017)	12.2	(2019)			低下	達成
	(44) 省エネや新エネなどの地球温暖化対策	① 省エネルギーに取り組んでいる市民の割合	%	60.9	(2018)	60.9	(2020)	60.9	(2022)	向上	達成
		② 市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量	t-CO ₂	6.6	(2015)	6.9	(2016)	4	(2020)	向上	達成

＜市民アンケートでの各施策項目の満足度＞



＜市民アンケートでの各施策項目の重要度＞



基本目標 I-7 豊かな自然を未来につなぐ

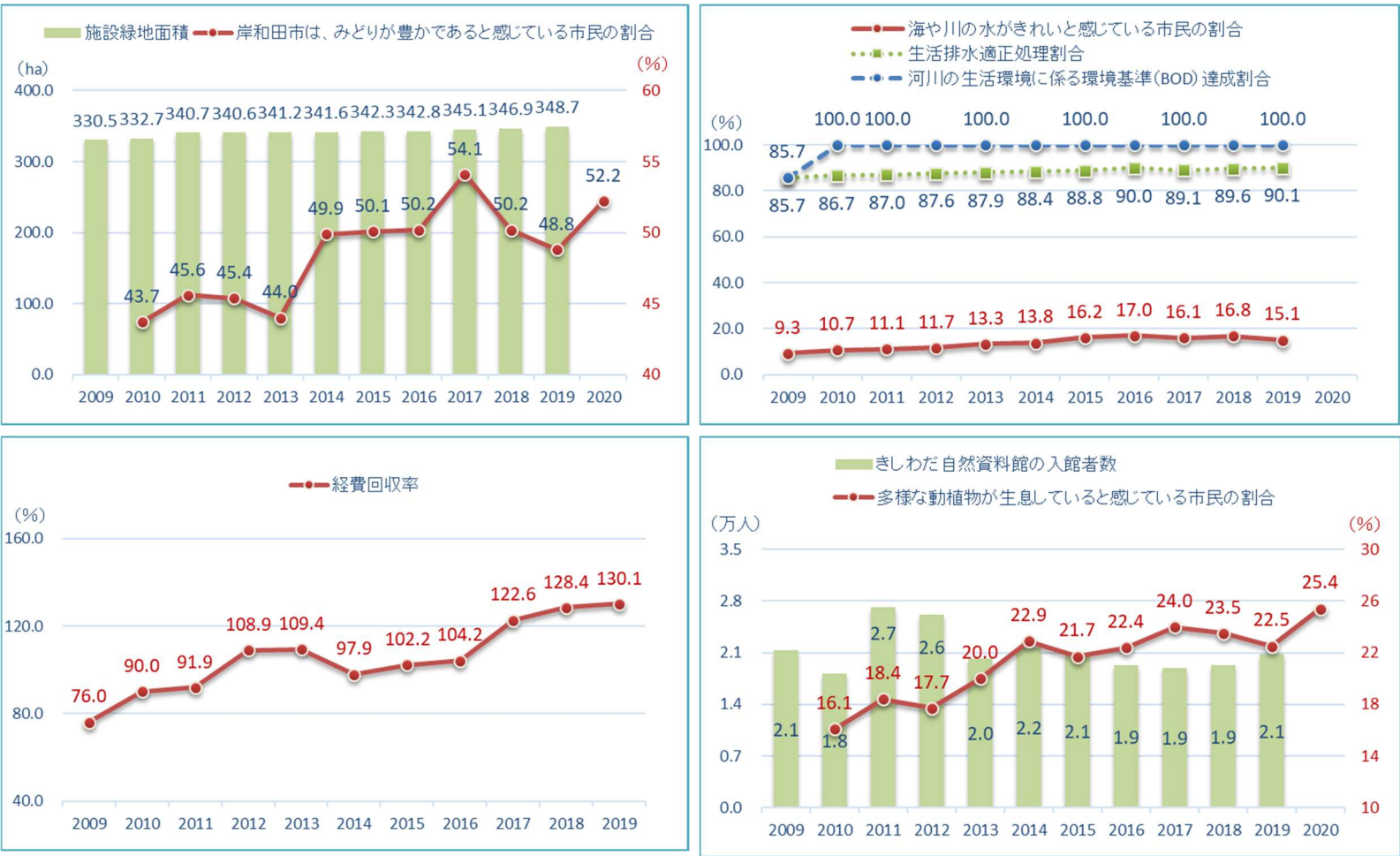
目標が達成された姿I	
海から山をつなぐ、水と緑のネットワークが機能している	
目指す成果	みどりが保全され、まちの緑化が進んでいる
▶自然を感じることができる貴重な市内のみどりが守られ、身近にみどりが増えています。	
目指す成果	公共用水域の水質が向上している
▶生活排水が適正に処理され、海や川などの水がきれいになっています。	
目指す成果	自然環境が保全されている
▶貴重な自然との共生が図られ、市内に多様な動植物が生息しています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））
- ・担い手不足による遊休農地増加等、農業の抱える問題の解消となるよう、都市住民と地域の人たちが、楽しみながら交流しあえる農業体験などの取組や農空間を守り育てる活動を推進
 - ・国土の保全、水源の涵養、土砂災害防止機能等の本来森林の有する多面的機能が十分に発揮されるよう、国や府の支援のもと、放置森林等の未整備森林の解消の推進や所有者、府、森林組合と連携した、積極的な間伐の推進と間伐材利用の促進
 - ・「管理計画基本構想」及び「下水道ストックマネジメント計画」に基づき、老朽化した下水道施設の計画的な更新や効率的な維持管理の実施。未整備区域の解消の推進
 - ・貴重な自然との共生を目指し、里山ボランティア育成入門講座の継続、自然環境保全のための技術を習得した市民ボランティアの育成
 - ・自然資料館と学校園が連携した生物多様性の保全と理解につながる取組

- 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）
- ・引き続き、神於山をはじめとする自然や公園における緑を保全するとともに、民間事業者に対する敷地内緑化を指導することで、身近に緑地環境を感じることができるように取り組む必要がある。
 - ・下水道については、施設の老朽化に対して計画的に維持管理を行うとともに、施設の集約化・統廃合を推進することで、効果的・効率的な運営を行う必要がある。
 - ・今後も自然資料館におけるスタッフの資質を高め、市民や関係機関等との協働をさらに促進することで自然資料館の機能を向上させ、学校園や未就学児向けの事業を充実させていく必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
岸和田市は、みどりが豊かであると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2017年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		50.2	52.2	54.1		
施設緑地面積	ha	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		345.05	348.70	345.05		
海や川の水がきれいと感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2017年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		16.1	15.1	17.0		
河川の生活環境に係る環境基準（BOD）達成割合	%	基準値	直近値	目指そう値		引き続き、良好な状態を保つことを目指し、設定した。
		2017	2019	2021		
		100.0	100.0	100.0		
生活排水適正処理割合	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		89.1	90.1	90.0		
経費回収率	%	基準値	直近値	目指そう値		引き続き100%以上を維持できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		122.6	130.1	100.0		
多様な動植物が生息していると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2017年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		23.5	25.4	24.0		
きしわだ自然資料館の入館者数	人	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2014年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		18,950	20,790	21,800		



基本目標 I-7 豊かな自然を未来につなぐ

目標が達成された姿 2	
心安らぐ場所が身近にある	
目指す成果	公園を快適に利用している
▶緑地や公園、親水空間などが身近にあり、市民が快適に利用しています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 平成27年に久米田池が世界かんがい施設遺産への登録
- 「みどりの基本計画」に基づき、良好なみどりの確保を図るとともに、施設の維持修繕の実施や各種のスポーツやイベントなど多彩な利活用を推進

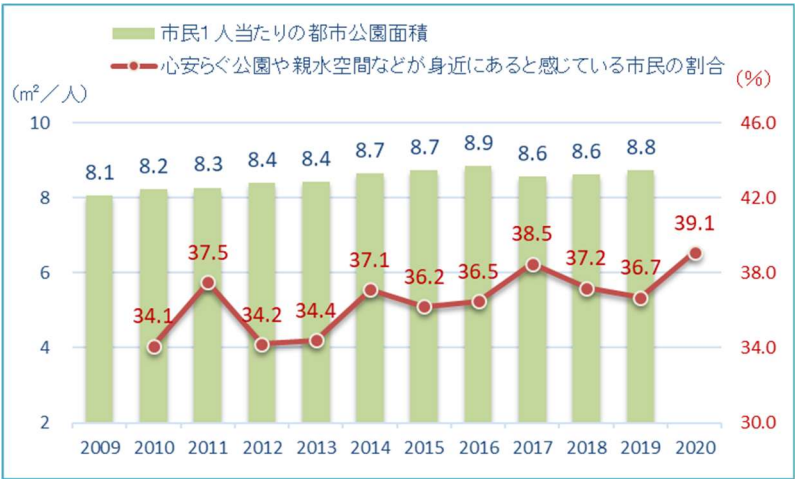


第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 公園の維持管理には、行政だけでなく公園美化ボランティアによる活動が重要であることから、ボランティア参加者・団体数を維持するとともに、引き続き活動の充実を図るための支援を行う必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
心安らぐ公園や親水空間などが身近にあると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2017年と同水準を確保できるよう、設定した。
		37.2	39.1	38.5		
市民1人当たりの都市公園面積	㎡/人	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		8.6	8.8	8.6		
公園美化ボランティア登録者数	人	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		224	224	224		
公園美化ボランティア登録団体数	団体	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		10	10	10		



基本目標 I-7 豊かな自然を未来につなぐ

目標が達成された姿 3	
地球環境への負荷が減っている	
目指す成果	ごみの減量化・資源化が進んでいる
▶ごみの減量化や資源化が進み、排出されるごみの量が減っています。また、排出されたごみが適正に処理されています。	
目指す成果	地球環境に配慮して行動している
▶地球環境問題を認識し、地球環境への負荷軽減に配慮した行動をとっています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 環境への配慮を最優先した循環型社会の形成に向け、平成22年にごみの減量化対策として普通ゴミの優良指定袋制の導入とともに分別収集計画を策定
- ごみ収集のあり方について、適正な収集と処理、処分のため収集コストなどの検証を実施
- 安全安心で持続可能な社会の構築を目指し、地球温暖化対策の「緩和」と「適応」を推進するため、「地球温暖化対策実行計画（区域施策）」の改定と同時に「気候変動の影響への適応計画」を策定
- 温室効果ガスの排出量を低減する設備の導入補助を実施

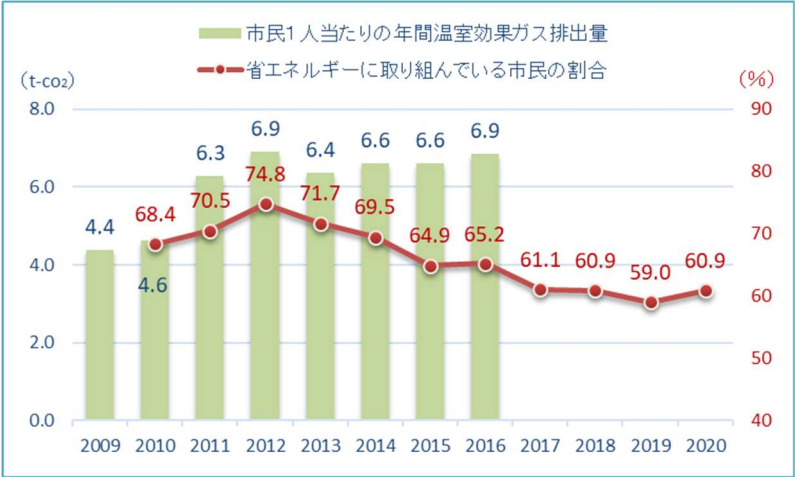
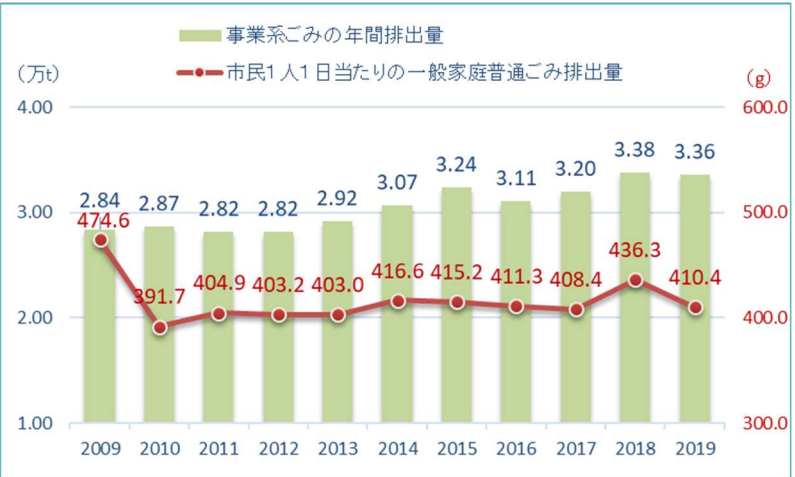
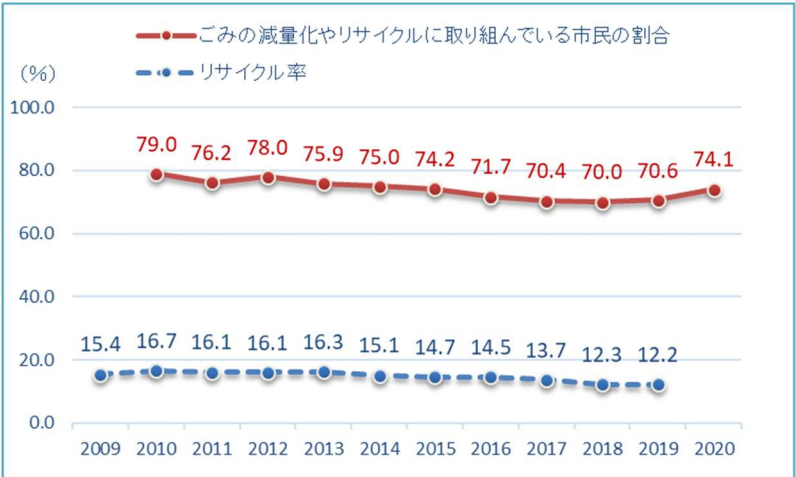


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 引き続き、ごみの減量化・資源化を推進するため、市民に対して啓発活動を行うとともに、事業系ごみについて多量排出者に減量化や分別を働きかける必要がある。
- また、ごみ収集は、市民に欠かせない生活インフラであり、引き続き適正な廃棄物処理を行うことが求められる。
- 岸和田市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）に基づいて、市民・事業者・行政など多様な主体が連携し、小さな一歩でも少しずつ温室効果ガス排出削減に向けた取組を行う必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
ごみの減量化やリサイクルに取り組んでいる市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		近年、減少傾向にあり、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		70.0	74.1	70.0		
市民1人1日当たりの一般家庭普通ごみ排出量	g	基準値	直近値	目指そう値		「岸和田市一般廃棄物処理基本計画（ごみ編）」に基づき設定した。
		2017	2019	2021		
		408.4	410.4	401.3		
事業系ごみの年間排出量	t	基準値	直近値	目指そう値		「岸和田市一般廃棄物処理基本計画（ごみ編）」に基づき設定した。
		2017	2019	2021		
		31,958	33,563	30,561		
リサイクル率	%	基準値	直近値	目指そう値		「岸和田市一般廃棄物処理基本計画（ごみ編）」に基づき設定した。
		2017	2019	2021		
		13.7	12.2	14.7		
省エネルギーに取り組んでいる市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		近年、減少傾向にあり、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		60.9	60.9	60.9		
市民1人当たりの年間温室効果ガス排出量	t-CO2	基準値	直近値	目指そう値	未判定	岸和田市地球温暖化対策実行計画に基づき、2020年までに1990年の温室効果ガス排出量（1,054,943 t-co2）の25%削減を目指し、設定した。
		2015	2017	2020		
		6.6	-	4.0		



基本目標Ⅰ-8 みんながみんなを大事にし、見守る

指標の達成状況と市民アンケート結果の比較	・・・ P.73
目標が達成された姿 1 平和の尊さが実感できている	・・・ P.74
目標が達成された姿 2 互いの人権を尊重しあっている	・・・ P.75
目標が達成された姿 3 とともに支えあう地域社会になっている	・・・ P.76
目標が達成された姿 4 高齢者・障害者が安心して活動している	・・・ P.77
目標が達成された姿 5 誰もが必要な支援を受けることができる	・・・ P.79

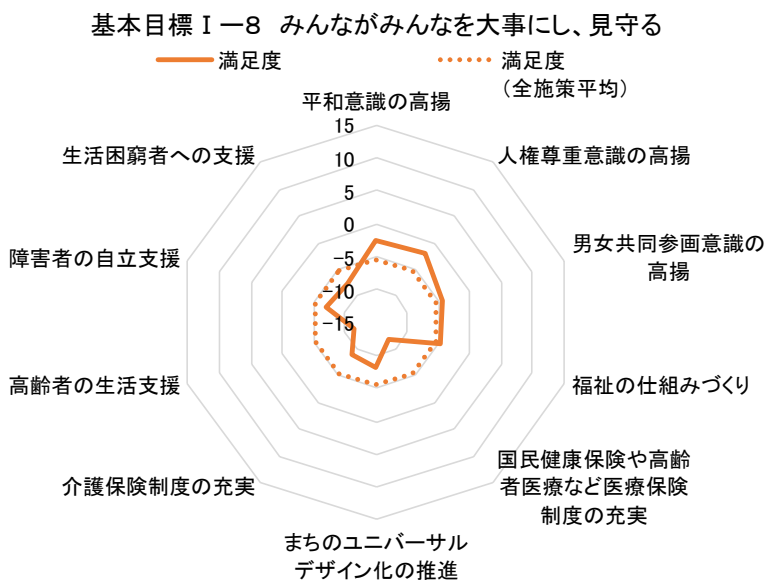
指標の達成状況と市民アンケート結果の比較

- 達成状況は、「国民健康保険や高齢者医療など医療保険制度の充実」、「生活困窮者への支援」では、全ての指標が達成となっています。また、「人権尊重意識の高揚」、「男女共同参画意識の高揚」、「福祉の仕組みづくり」、「まちのユニバーサルデザイン化の推進」、「介護保険制度の充実」、「障害者の自立支援」では一部指標を達成しています。一方、「平和意識の高揚」では全ての指標が未達となっています。
- おおむね重要度は「国民健康保険や高齢者医療など医療保険制度の充実」、「介護保険制度の充実」、「高齢者の生活支援」、「障害者の自立支援」で全施策平均より高くなっています。

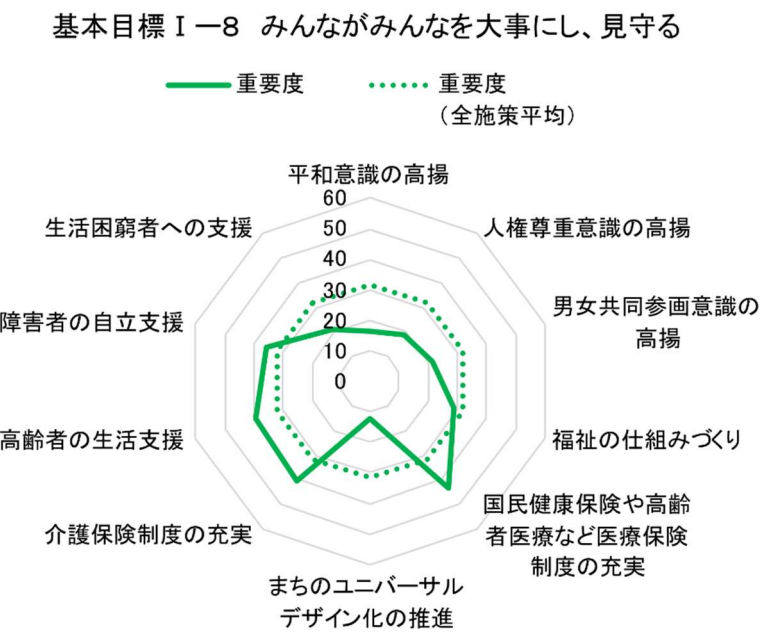
＜各施策の指標の達成状況＞

目標が達成された姿	施策（項目）	指標名	単位	基準値		直近値		目指そう値		経過状況	達成状況
										向上／低下	達成／未達
(1) 平和の尊さが実感できている	(45) 平和意識の高揚	① 平和が大切であると感じている市民の割合	%	94.8	(2018)	94.7	(2020)	94.8	(2022)	低下	未達
		② 平和意識啓発事業への参加者数	人	1,691	(2017)	1,464	(2019)	1,700	(2021)	低下	未達
(2) 互いの人権を尊重しあっている	(46) 人権尊重意識の高揚	① 人種差別、部落差別などの人権にかかわる差別が地域にあると感じている市民の割合	%	7.3	(2018)	8.6	(2020)	7.3	(2022)	低下	未達
		② 人権意識啓発事業への参加者数	人	1,046	(2017)	1,192	(2019)	1,050	(2021)	向上	達成
	(47) 男女共同参画意識の高揚	① 男女がそれぞれの能力を十分に発揮しあい、あらゆる場面で協力しあっていると感じている市民の割合	%	22.5	(2018)	25.4	(2020)	22.5	(2022)	向上	達成
		② 審議会等における女性委員の割合	%	29.7	(2018)	35.3	(2020)	40	(2022)	向上	未達
		③ 男女共同参画意識啓発事業への参加者数	人	2,474	(2017)	3,122	(2019)	2,500	(2021)	向上	達成
(3) ともに支え合う地域社会になっている	(48) 福祉の仕組みづくり	① 困ったときに近くに相談できる人や場所があると感じている市民の割合	%	33.2	(2018)	34.1	(2020)	33.5	(2022)	向上	達成
		② ボランティアセンターのボランティア登録人数	人	773	(2017)	833	(2019)	800	(2021)	向上	達成
		③ コミュニティソーシャルワーカーによる個別相談件数	件	2,313	(2017)	1,544	(2019)	2,500	(2021)	低下	未達
	(49) 国民健康保険や高齢者医療など医療保険制度の充実	① 医療保険制度が適正に運営され、安心して暮らすことができると感じている市民の割合	%	43.8	(2018)	51.3	(2020)	43.8	(2022)	向上	達成
		② 国民健康保険料の収納率(現年分)	%	92.8	(2017)	93.8	(2019)	92.8	(2021)	向上	達成
(4) 高齢者・障害者が安	(50) まちのユニバーサルデザイン化の推進	① ユニバーサルデザイン化が進んでいると感じている市民の割合	%	8.3	(2018)	10.7	(2020)	8.3	(2022)	向上	達成
		② 駅と主要施設を結ぶ道路のバリアフリー化率(3 エリアの特定経路整備率)	%	66.8	(2017)	68.1	(2019)	78.6	(2021)	向上	未達
(5) 誰もが必要な支援を受けている	(51) 介護保険制度の充実	① 介護が必要になったとき、適切な介護サービスを受けることができると感じている市民の割合	%	25.7	(2018)	28	(2020)	25.7	(2022)	向上	達成
		② 居宅介護サービス・介護予防サービスの1か月当たりの受給者数	人/月	7,093	(2018)	7,312	(2020)	7,750	(2022)	向上	未達
	(52) 高齢者の生活支援	① 高齢者が安心して生活できていると感じている市民の割合	%	22.2	(2018)	25.6	(2020)	22.2	(2022)	向上	達成
		② 地域包括支援センターの相談件数	件	3,883	(2017)	3,259	(2019)	4,200	(2021)	低下	未達
		③ 認知症サポーター養成人数	人	1,925	(2017)	1,333	(2019)	2,000	(2021)	低下	未達
	(53) 障害者の自立支援	① 障害者が自立した生活ができていると感じている市民の割合	%	10.7	(2018)	12.4	(2020)	10.7	(2022)	向上	達成
		② 長期的な病気や障害を抱えている人のうち、日常生活に支障がある市民の割合	%	44.6	(2018)	45.5	(2020)	44.6	(2022)	低下	未達
		③ 施設入所支援サービスの利用者数	人	148	(2017)	151	(2019)	145	(2021)	向上	達成
		④ 訪問系福祉サービスの利用量(月平均利用時間)	時間/月	13,818	(2017)	16,099	(2019)	20,505	(2021)	向上	未達
	(54) 生活困窮者への支援	① 生活に困窮する人たちが適正な支援を受けていると感じている市民の割合	%	11.8	(2018)	14	(2020)	11.8	(2022)	向上	達成
		② 生活保護受給者で就労可能な人のうち、就業支援事業による就職率	%	57.7	(2017)	69	(2019)	61.3	(2021)	向上	達成

＜市民アンケートでの各施策項目の満足度＞



＜市民アンケートでの各施策項目の重要度＞



基本目標 I-8 みんながみんなを大事にし、見守る

目標が達成された姿I	
平和の尊さが実現できている	
目指す成果	非核平和への市民の意識が高まっている
▶誰もが世界平和の重要性や戦争の悲惨さを理解し、実感しています	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- ・市民とともに、平和を愛し、核兵器のない世界の実現に向け、非核平和資料展をはじめ、被爆地・ヒロシマへの平和バスや巡回平和パネル展などを実施

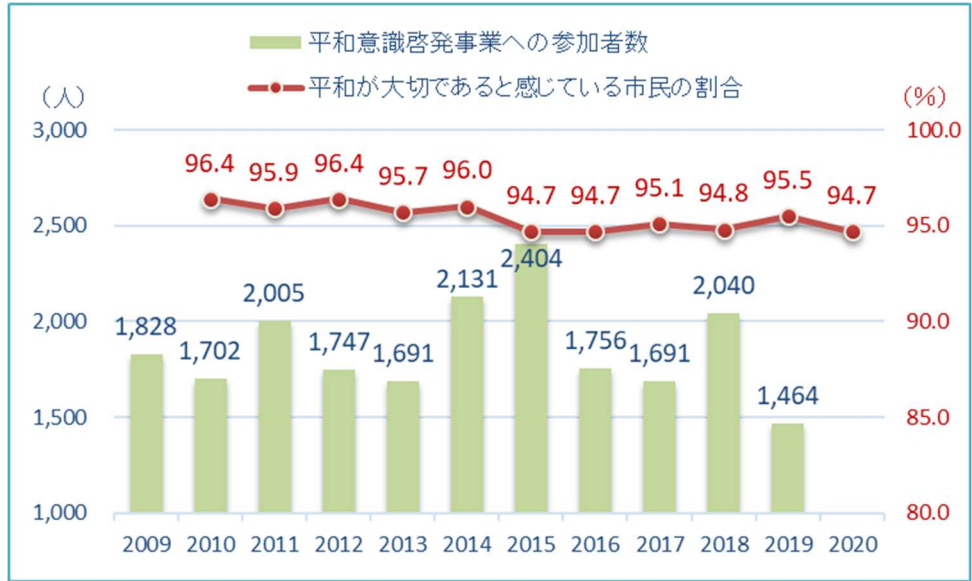


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- ・戦争を経験した世代が減少し、平和な日常が当たり前となる中、引き続き平和の尊さや重要性を語り継ぐことが重要であるため、周知方法を工夫しながら市民の意識啓発に努めることが求められる。
- ・引き続き、平和の礎となった戦没者を慰霊追悼することで、戦没者を顕彰し、戦没者遺家族の福祉増進に努め、戦争体験を次世代に語り継ぐことが重要である。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
平和が大切であると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		近年減少傾向にあり、それに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		94.8	94.7	94.8		
平和意識啓発事業への参加者数	人	基準値	直近値	目指そう値		近年減少傾向にあり、それに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		1,691	1,464	1,700		



基本目標 I-8 みんながみんなを大事にし、見守る

目標が達成された姿 2	
互いの人権を尊重しあっている	
目指す成果	あらゆる差別がなく、すべての人が互いの人権を尊重しあっている
▶年齢や性別、国籍、障害の有無などによる差別がなく、誰もがその人らしく暮らしています。	
目指す成果	男女共同参画が実感できている
▶男女がそれぞれの能力を十分に発揮し、あらゆる場面で協力しあっています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

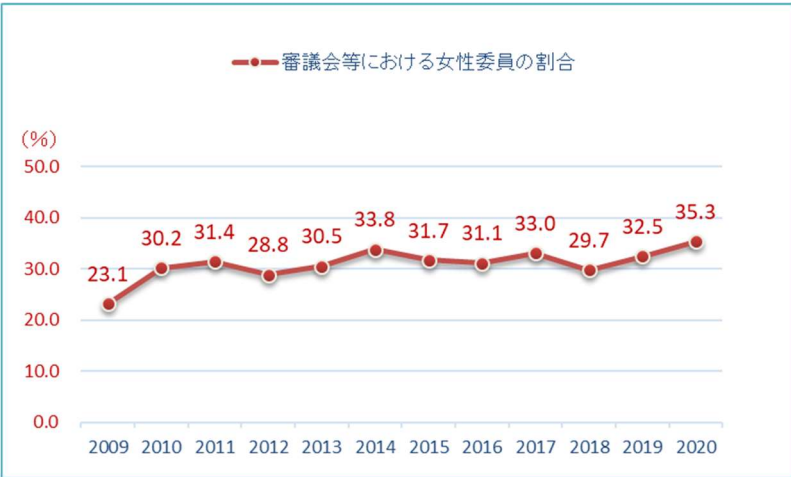
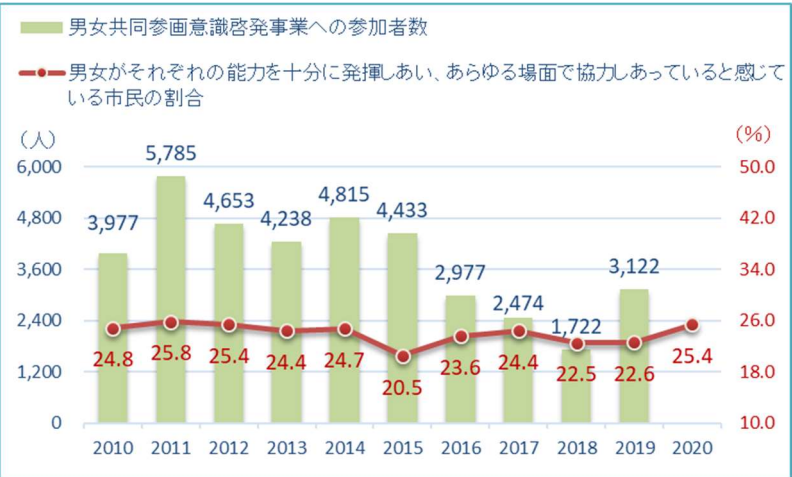
- 平成23年に岸和田市男女共同参画推進条例を制定
- 「岸和田市人権尊重のまちづくり条例」に基づき、あらゆる差別をなくし、すべての人の人権が尊重されるまちづくりを実現するため、関係機関や団体と連携しながら啓発や相談を通じた人権擁護を推進
- 「DV対策基本計画」に基づき、被害者への支援とDV防止の啓発の推進
- 市民、事業者、教育関係者と連携した、「男女共同参画推進計画」の推進



第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）	
- SNSにおける誹謗中傷など新しい人権問題にも対応しつつ、人権尊重のまちづくりを進めるため、引き続き啓発や相談事業などの人権施策を推進する必要がある。 - DV被害の早期発見のため、正しい知識の習得について市民に啓発するとともに、DV被害者の支援を充実させるため、関係機関との連携をさらに進めることが求められる。 - 引き続き、障害者理解の促進や障害による差別の解消、合理的配慮の提供に関する啓発を実施するとともに、必要に応じて相談対応を適切に実施していくことが求められる。	

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
人種差別、部落差別などの人権にかかわる差別が地域にあると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022	😞	近年はほぼ横ばいである。現状の水準を超えないよう、設定した。
		7.3	8.6	7.3		
人権意識啓発事業への参加者数	人	基準値	直近値	目指そう値	😞	近年減少傾向にあり、それに歯止めをかけるため、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		1,046	1,192	1,050		
男女がそれぞれの能力を十分に発揮しあい、あらゆる場面で協力しあっていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値	😞	近年減少傾向にあり、それに歯止めをかけるため、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		22.5	25.4	22.5		
審議会等における女性委員の割合	%	基準値	直近値	目指そう値	😊	「岸和田市男女共同参画推進計画」において、2020年度に40%を目標としている。これを維持することを目指し、設定した。
		2018	2020	2022		
		29.7	35.3	40.0		
男女共同参画意識啓発事業への参加者数	人	基準値	直近値	目指そう値	😞	近年減少傾向にあり、それに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		2,474	3,122	2,500		



基本目標 I-8 みんながみんなを大事にし、見守る

目標が達成された姿 3	
ともに支え合う地域関係ができている	
目指す成果	お互いに助け合う地域関係ができている
▶日ごろから地域のつながりがあり、お互いに助けあう関係ができています。	
目指す成果	相互扶助の精神に基づき、医療保険制度が適正に運営されている
▶国民健康保険や、高齢者を対象とする医療保険制度などが安定して運営されています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 「第4次地域福祉計画」に基づき、高齢者の見守り活動等の住民主体の地域福祉活動を継続的に支えることができるよう、地域福祉を支える担い手づくりや仲間づくりを重点項目として推進。
- 高齢者、児童、障害者等への福祉サービス提供事業者や事業を運営する社会福祉法人等に対して、関係法令の遵守はもとより、制度の趣旨や目的の理解の促進をはじめ、サービスの質の向上を図ることを主眼とした指導等の実施。
- 老朽化した斎場の建替えに備え、火葬が支障なく行えるよう、貝塚市との広域連携も視野に入れた調査・検討を実施。
- 「墓苑基本計画」に基づき、墓苑の魅力を高める各種整備や市営墓地のあり方についての検討を実施
- 効率的な事業運営のため、府と市が共同保険者となって国民健康保険制度を運用開始

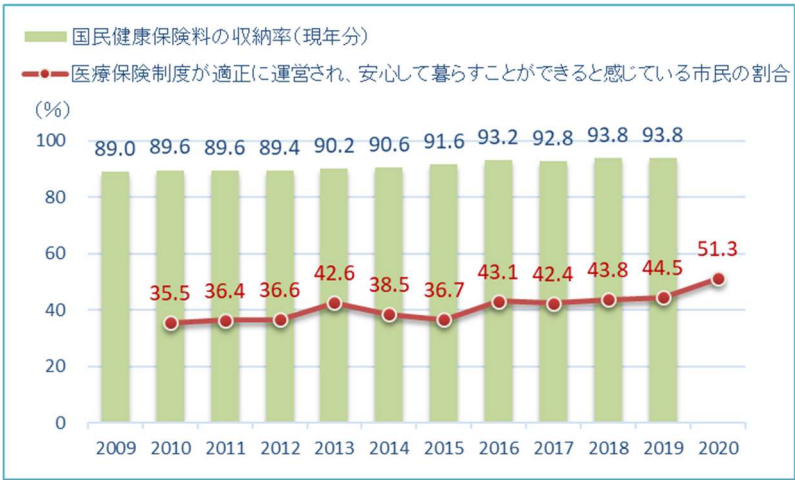
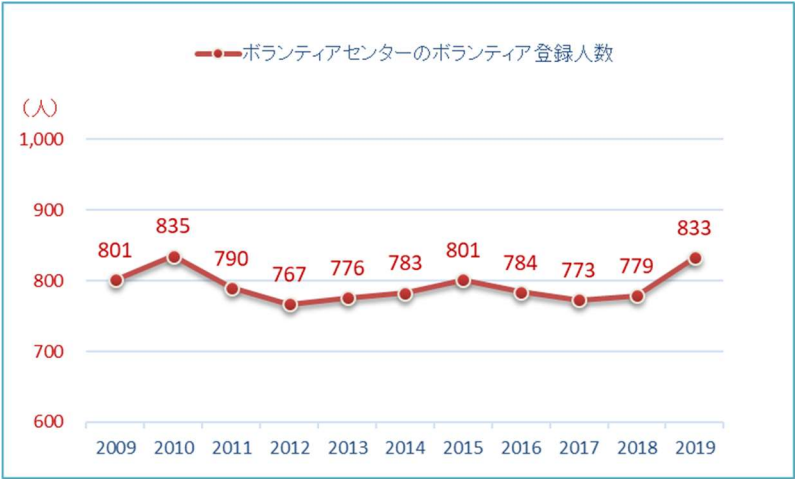
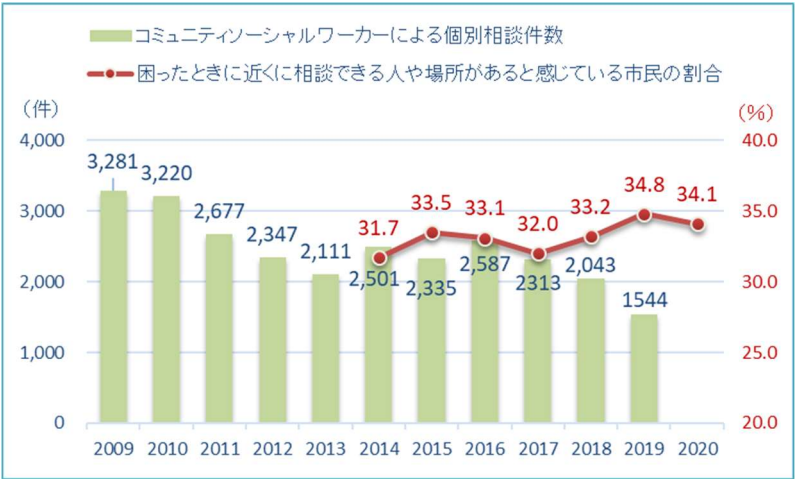


第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 引き続き、住民主体の地域福祉活動を進めるため、地域福祉の担い手の増加につながる啓発活動を行うとともに、福祉における協働の理念を市民に啓発し、役割分担を明らかにしていく必要がある。
- 引き続き、生活習慣病や疾病の重症化を防ぐために健診啓発や周知を行い、医療費の適正化につなげるなど、市民の医療保険制度への信頼を醸成し、相互扶助の精神を高めることが求められる。
- 高止まりしている高齢者の医療費の適正化を図るため、介護予防と一体的に実施する保健事業を推進していく必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
困ったときに近くに相談できる人や場所があると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		近年、上昇傾向にあり、過去5年間で最も高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう設定した。
		2018	2020	2022		
		33.2	34.1	33.5		
ボランティアセンターのボランティア登録人数	人	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		773	833	800		
コミュニティソーシャルワーカーによる個別相談件数	件	基準値	直近値	目指そう値		近年は相談件数が増加傾向であるが、制度趣旨の周知を図り、過去5年間で最も数値の高かった2016年と同水準を想定して、設定した。
		2017	2019	2021		
		2,313	1,544	2,500		
医療保険制度が適正に運営され、安心して暮らすことができると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		43.8	51.3	43.8		
国民健康保険料の収納率（現年分）	%	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		92.8	93.8	92.8		



基本目標 I-8 みんながみんなを大事にし、見守る

目標が達成された姿 4	
高齢者・障害者が安心して活動している	
目指す成果	ユニバーサルデザイン化が進んでいる
▶まちのユニバーサルデザイン化が進み、高齢者や障害者も安心して活動しています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- ・鉄道駅舎のバリアフリー化を推進するため交通事業者が実施する設備整備に補助金を交付。
- ・岸和田市交通バリアフリー基本構想により、計画的にバリアフリー化を実施。
- ・障害者の快適な在宅生活等を支援するため、住宅改造に要する経費の一部を助成。
- ・バリアフリー化がなされている建築物数の増加のために、市民等に対し適宜指導、啓発を実施。

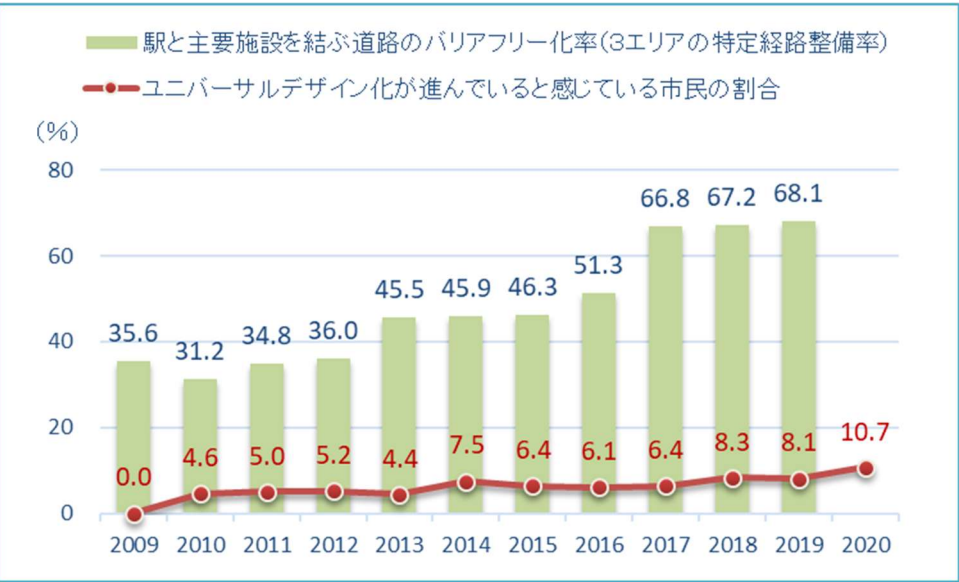


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- ・引き続き、岸和田市交通バリアフリー基本構想に基づき、関係機関による計画的な取組の推進を支援するとともに、市民・関係者で構成される岸和田市公共交通協議会バリアフリー基本構想分科会において進行を確認・管理していく必要がある。
- ・今後も障害者の身体状況や生活様式に合わせた住宅改造のニーズが多様化すると見込まれるため、引き続き、有効な住宅改造が行われるよう支援していく必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
ユニバーサルデザイン化が進んでいると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		近年ほぼ横ばいであり、引き続きこの水準を確保できるよう、設定した。
		8.3	10.7	8.3		
駅と主要施設を結ぶ道路のバリアフリー化率（3エリアの特定経路整備率）	%	2017	2019	2021		各道路管理者の整備計画に基づき2021年度末の整備目標を設定した。
		66.8	68.1	78.6		



余白

基本目標 I-8 みんながみんなを大事にし、見守る

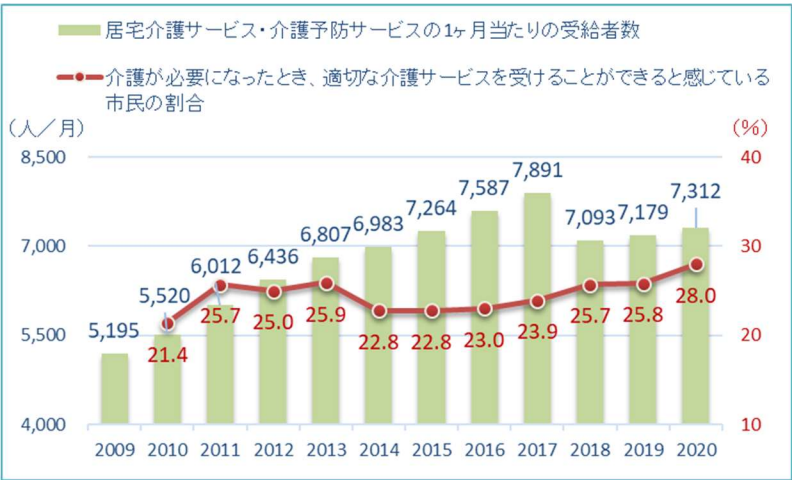
目標が達成された姿 5	
誰もが必要な支援を受けることができている	
目指す成果	必要な介護サービスの支援を受けられる
▶加齢などにより身体機能が低下した場合でも、必要な介護サービスを利用しながら地域の中で生活しています。	
目指す成果	高齢者が必要な支援を受け、安心して日常生活を送っている
▶支援が必要な高齢者の生活を地域社会がサポートし、安心して日常生活を送っています。	
目指す成果	障害者が必要な支援を受け、安心して日常生活を送っている
▶障害者が必要な支援を受け、地域社会の中で安心して日常生活を送っています。	
目指す成果	生活困窮者などが必要な支援を受けている
▶生活に困窮する人などがそれぞれの事情に応じた支援を受け、安定した生活を送っています。	

1. 第 4 次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））
- 介護保険制度を安定的に運営し、質・量ともに適切な介護サービスの確保による、安心して暮らし続けられる生活環境づくりの推進。
 - 多職種の専門職と協働し、個別ケースを専門的に検討する「自立支援型地域ケア会議」を開催。
 - 生活困窮者や失業者等に対する年金保険料免除制度など、広く市民に普及、周知により、加入の促進、年金受給権の確立、年金制度の維持の推進
 - 一般の歯科診療で受診困難な障害者・障害児のための障害の特性に応じた安全安心な歯科診療を委託開始
 - 「生活困窮者自立支援法」に基づいた自立相談支援事業の実施
 - 生活困窮者の家計上の課題解決のため、専門家のアドバイス等による自律的な家計管理の支援
 - 就労支援による自立の促進のために、庁内にハローワーク常設窓口を設置

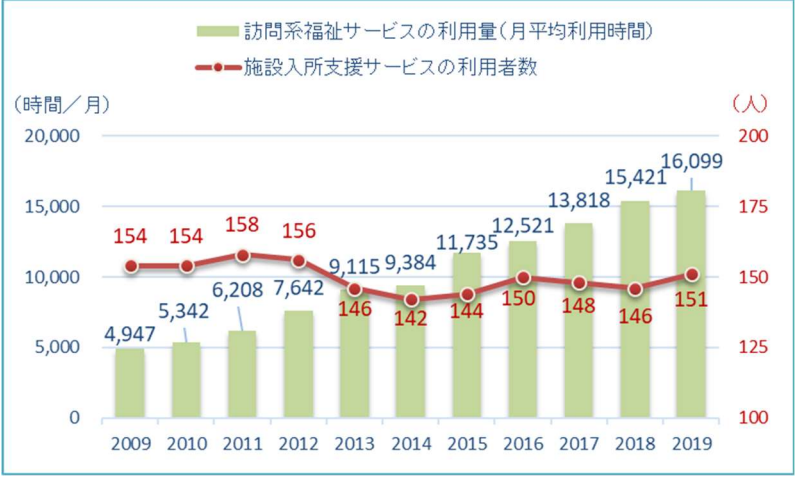
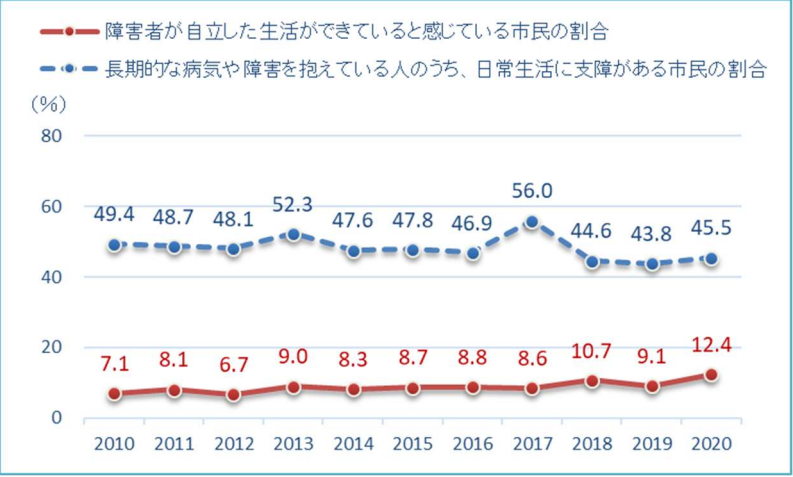
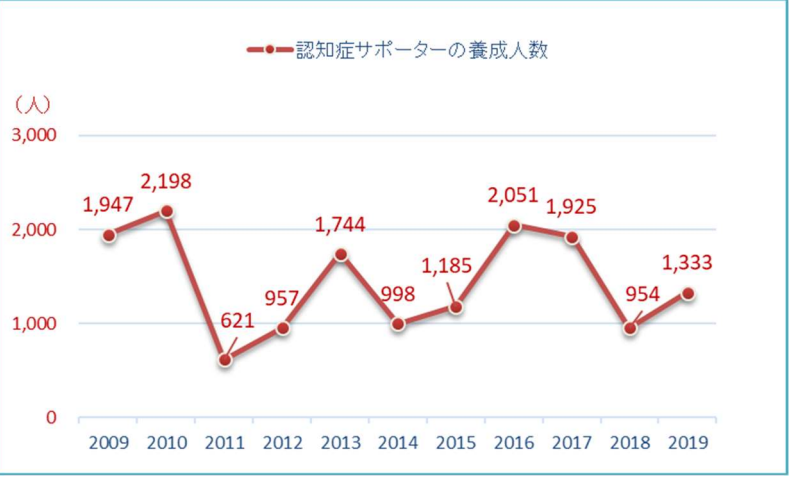
- 第 5 次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）
- 今後、高齢者の増加に伴い、介護認定者の増加や介護サービスの需要が高まると見込まれるため、正しい介護保険制度の理解を促進する必要があることから、出前講座や市民向け介護予防講座等を通じて、市民の理解を進めていくことが求められる。
 - 介護の担い手不足が進行し、高齢者虐待の増加が懸念されることから、地域における情報収集や実態把握を進めるとともに、地域福祉を担う法人等の協力体制の強化が必要である。
 - 障害者の尊厳が守られ、誰もが個性や能力を発揮し、社会の構成員として主体的な社会参加が行えるよう、引き続き行政として必要な支援をおこなっていくことが求められる。
 - 引き続き、生活保護の適正実施や生活保護受給者の自立に向けた専門的な相談・支援・指導を行うための取組を進める必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
介護が必要になったとき、適切な介護サービスを受けることができると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		25.7	28.0	25.7		
居宅介護サービス・介護予防サービスの1ヶ月当たりの受給者数	人/月	基準値	直近値	目指そう値		高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画で想定される受給者数を勘案し、設定した。
		2018	2020	2022		
		7,093	7,312	7,750		
高齢者が安心して生活できていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		近年ほぼ横ばいであり、引き続きこの水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		22.2	25.6	22.2		
地域包括支援センターの相談件数	人	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で数値の高かった2014年の水準程度を見込み、設定した。
		2017	2019	2021		
		3,883	3,259	4,200		
認知症サポーターの養成人数	人	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準の人数を養成することを目指し、設定した。
		2017	2019	2021		
		1,925	1,333	2,000		
障害者が自立した生活ができていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		10.7	12.4	10.7		
長期的な病気や障害を抱えている人のうち、日常生活に支障がある市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		現状値を超えないことを目指し、設定した。
		2018	2020	2022		
		44.6	45.5	44.6		
施設入所支援サービスの利用者数	人	基準値	直近値	目指そう値		第5期障害福祉計画における2020年度のサービス見込み量(145人)を確保することを目指し、設定した。
		2017	2019	2021		
		148	151	145		
訪問系福祉サービスの利用量（月平均利用時間）	時間/月	基準値	直近値	目指そう値		第5期障害福祉計画における2020年度のサービス見込み量(20,505人)を確保することを目指し、設定した。
		2017	2019	2021		
		13,818	16,099	20,505		
生活に困窮する人が孤立せずに必要な支援を受けていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		11.8	14.0	11.8		
生活保護受給者で就労可能な人のうち、就業支援事業による就職率	人	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		57.7	69.0	61.3		



(次のページにつづく)



基本目標ⅡーⅠ 市民と議会、行政がそれぞれの役割を果たす

目標が達成された姿 1	意欲をもって地域活動にかかわっている市民が増えている	・・・ P.82
目標が達成された姿 2	三者が、互いの立場を理解しながら問題解決に取り組んでいる	・・・ P.83

基本目標 II-1 市民と議会、行政がそれぞれの役割を果たす

目標が達成された姿I

意欲をもって地域活動にかかわっている市民が増えている

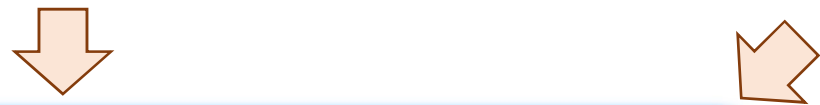
目指す成果

公共を担う市民や事業者が増え、地域の活動が活発に行われている

▶新しい公共の考え方の下、地域の中で市民や事業者が活発に交流し、様々な活動に取り組んでいます。

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- まちづくり活動の中心となる地区市民協議会や地域コミュニティの基礎である町会・自治会の活動の支援とともに、町会等が設置する施設整備への助成を実施
- 平成25年に八木市民センター、桜台市民センターを開設
- 平成29年に市民活動やNPOの設立支援、行政と市民の橋渡しを担う中間支援組織である市民活動サポートセンターを開設。NPOを含む市民活動の活性化を推進

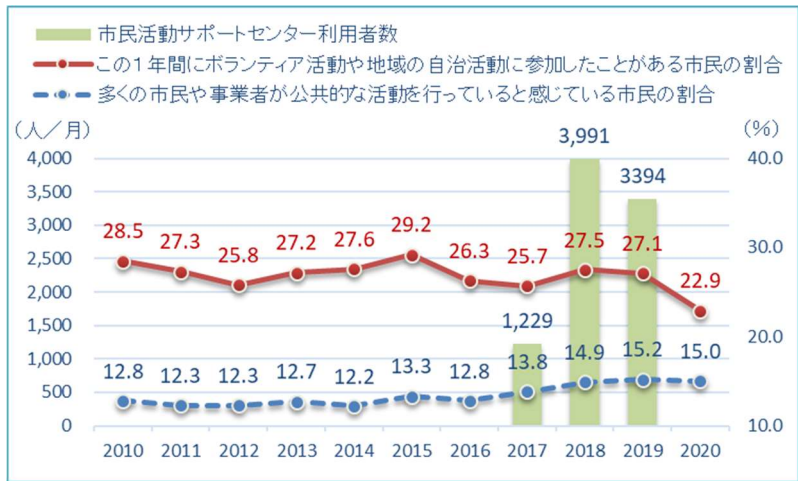


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどういうことが必要になるのか）

- 市民自治都市の実現のため、これまで以上に市民がまちづくりに関わり、主体的に進めていくことが求められる中、地区市民協議会や町会・自治会のニーズなどを考慮し、行政として支援する内容についてより良いものに改めていくことが必要である。
- 新たに市民活動に参加する市民を増やす取組を行うとともに、NPO法人をはじめとした市民活動団体が活発に活動を行えるよう、引き続き必要な支援を行うことが求められる。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
この1年間にボランティア活動や地域の自治活動に参加したことがある市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2015年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		27.5	22.9	29.2		
多くの市民や事業者が公共的な活動を行っていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		14.9	15.0	14.9		
市内のNPO法人数（市内にのみ事務所を有する法人）	団体	基準値	直近値	目指そう値		毎年1団体の増加を目指し、設定した。
		2017	2019	2021		
		64	63	68		
市民活動サポートセンター利用者数	人	基準値	直近値	目指そう値		新規施設であり、当面の間は150人/月の利用者を想定し、設定した。
		2017	2019	2021		
		1,229	3,394	1,800		



基本目標 II-1 市民と議会、行政がそれぞれの役割を果たす

目標が達成された姿 2	
三者が、互いの立場を理解しながら問題解決に取り組んでいる	
目指す成果	お互いが、ともに学び育ち合う関係が築かれている
▶三者（市民、議会、行政）の間に信頼関係が形成され、「協働と参画」によりまちづくりが行われています。	
目指す成果	お互いの情報交換が活発に行われている
▶適正な情報が丁寧に発信・公開され、三者が情報交換を行い、コミュニケーションが十分にとられています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

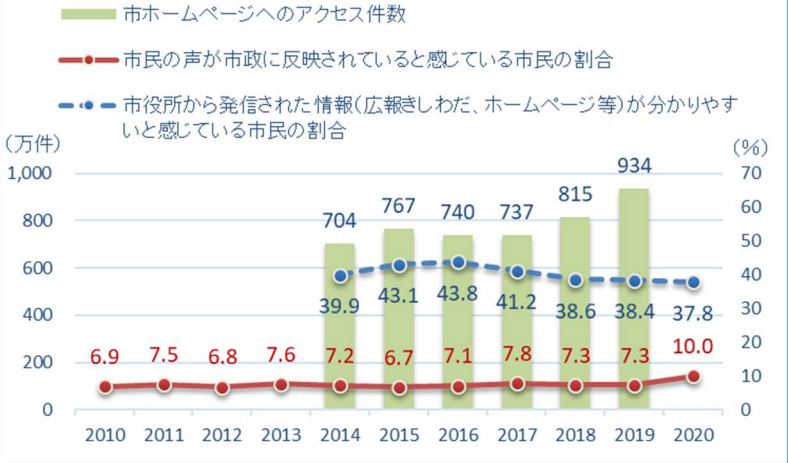
- 自治基本条例の趣旨普及をより一層推進するとともに、条例が本市にふさわしく、社会情勢に適合したものであり続けているかを確認するため、平成26年度、平成31年度に自治基本条例推進委員会で検証作業を実施
- ウェブサイトやフェイスブックの活用等による、効果的に市政の情報や本市の魅力を積極的に発信
- 広報きしわだや議会だよりの充実を図り、分かりやすく利用しやすい市政・市議会情報を提供
- 情報セキュリティポリシーに基づき、個人情報を含む行政情報の安全を確保するとともに、マイナンバー制度の運用に則した、より高いセキュリティ対策を実施
- 本市の都市イメージを向上させ、定住促進につなげるため、主に子育て世代をターゲットにしたシティセールスを実施。また、インターネットTVやInstagramを活用し、本市の魅力の市内外への積極的なPRの実施

■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 岸和田市自治基本条例の理念普及のための取組など、これまで実施した取組の検証作業を進めるとともに、引き続きより多くの市民に条例を知ってもらい、行政からだけでなく市民間で自主的・自発的に条例の普及・啓発を行ってもらえるよう支援を行う必要がある。
- 引き続き、広報紙、ホームページ、スマートフォンアプリ、SNS、報道機関への情報提供など様々な手段を用いて、効果的に市政情報を提供していくとともに、大規模災害時など非常時における広報事業のあり方について検討を行う必要がある。
- 市民の市政への関心度を高めるため、市議会の透明性を確保することが重要であり、引き続き積極的な情報発信を行うとともに、他市事例も調査しながら傍聴の在り方についても創意工夫することが求められる。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
広く市政に参加できる機会や情報提供が保障されていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2014年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		16.1	17.6	17.3		
市民意識調査の回答率	%	基準値	直近値	目指そう値		近年やや減少傾向にあり、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		38.7	41.7	38.7		
開催された1審議会等（公開会議に限る）あたりの傍聴者の数	人	基準値	直近値	目指そう値		過去5年で最も多かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		0.58	2.33	1.27		
市民の声が市政に反映されていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2017年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		7.3	10.0	7.8		
市役所から発信された情報（広報きしわだ、ホームページ等）が分かりやすいと感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		38.6	37.8	43.8		
市役所の情報管理は漏えいなどなく適正に行われていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		新規調査項目であるため、経過値がなく傾向は不明であるが、当面の間、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		20.8	22.6	20.8		
市ホームページへのアクセス件数	万件	基準値	直近値	目指そう値		近年減少傾向にあるため、それに歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		737	934	737		
情報公開制度に基づく不服申立の認容件数（一部認容を含む。）	件	基準値	直近値	目指そう値		適正な情報公開制度の運用に努め、不服申立の認容による決定の変更が生じない状態を目指し設定した。
		2017	2019	2021		
		0	0	0		
新聞で岸和田関連の話題が取り上げられた件数（事故・事件を除く。）	件	基準値	直近値	目指そう値		過去5年間で最も数値の高かった2014年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		225	241	230		



基本目標Ⅱ-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする

目標が達成された姿 1	行政の責務が果たされていることを市民が実感できている	・・・ P.85
目標が達成された姿 2	持続可能な財政運営が行われている	・・・ P.86
目標が達成された姿 3	事務を効果的・効率的に行うための体制が整っている	・・・ P.87
目標が達成された姿 4	市民にとって利用しやすい市役所になっている	・・・ P.88

基本目標 II-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする

目標が達成された姿I	
行政の責務が果たされていることを市民が実感できている	
目指す成果	新たな行政課題や業務改善に取り組む職員が増えている
▶三者（市民、議会、行政）の間に信頼関係が形成され、「協働と参画」によりまちづくりが行われています。	
目指す成果	明確な目標設定と評価により行政運営が行われている
▶適正な情報が丁寧に発信・公開され、三者が情報交換を行い、コミュニケーションが十分にとられています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 多様化する市民ニーズに対応できるよう、人材の育成と職員の能力開発のため、派遣型の研修等を実施
- 「岸和田市まちづくりビジョン第3期戦略計画」に基づき、施策目標とPDCAサイクルによる適正な行政運営を推進
- 目標達成のため、事務事業評価制度の再構築を実施

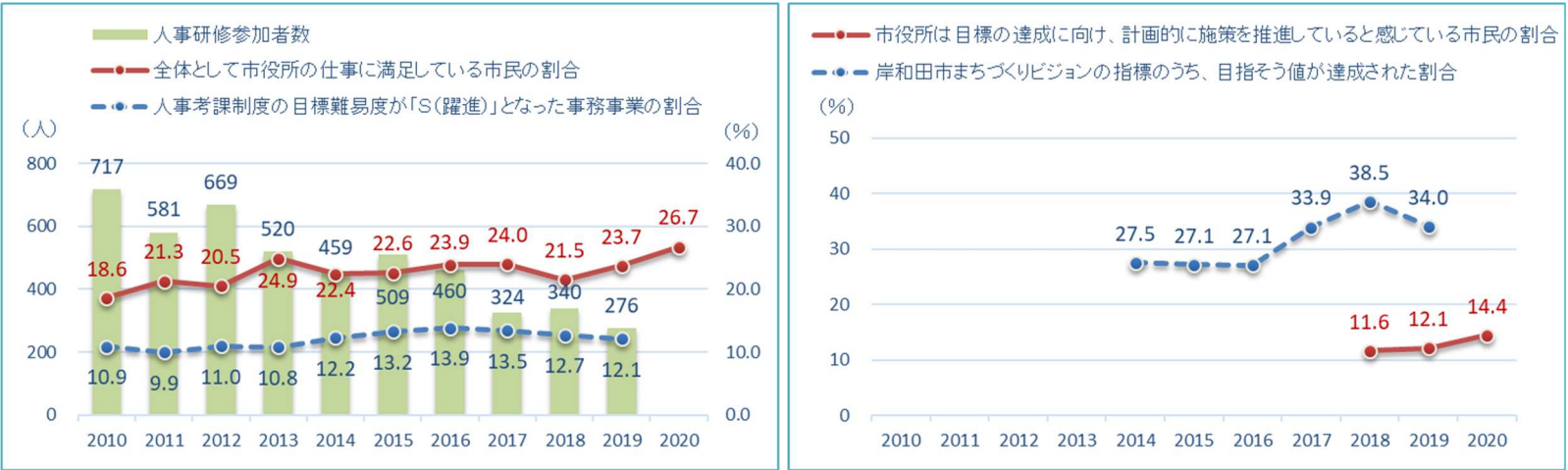


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 行政サービスを維持向上させるために、職員の資質向上については、より一層必要とされるところであり、実際の業務に反映できるものなどニーズにあった研修を見極め、引き続き人材育成事業を継続する必要がある。
- 今後、政策立案から行政評価までが連携した効率的かつ効果的な行政経営システムの構築が必要になるため、政策立案時に事業の効果を示していける仕組みを検討する必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
全体として市役所の仕事に満足している市民の割合	%	2018	2020	2022	😊	過去5年間で最も高かった2017年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		21.5	26.7	24.0		
人事考課制度の目標難易度が「S（躍進）」となった事務事業の割合	%	2017	2019	2021	😞	過去5年間で最も高かった2016年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		13.5	12.1	13.9		
人事研修参加者数	人	2017	2019	2021	😟	近年は減少傾向にあり、その状況に歯止めをかけ、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		324	276	330		
市役所は目標の達成に向け、計画的に施策を推進していると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022	😊	新規調査項目であるため、経過値がなく傾向は不明であるが、当面の間、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		11.6	14.4	11.6		
岸和田市まちづくりビジョンの指標のうち、目指そう値が達成された割合	%	2018	2019	2022	😟	掲げた目指そう値がすべて達成できることを目指し、設定した。
		38.5	34.0	100.0		



基本目標 II-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする

目標が達成された姿 2	
持続可能な財政運営が行われている	
目指す成果	自主財源が安定的に確保されている
▶市税を中心とした自主財源が安定的に確保されています。	
目指す成果	計画的に財政運営が行われている
▶中長期の視野に立った財政運営が行われています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 「岸和田競輪場施設整備計画」に基づき、競輪参加選手や来場者の安全性の確保のための施設整備を推進。
- 特別競輪等の開催に際し、売上および入場者数の向上の促進
- ふるさと寄附の返礼品等の充実。本市の魅力発信に取り組みつつ、業務の委託による効率的な事業実施と寄附額の増加

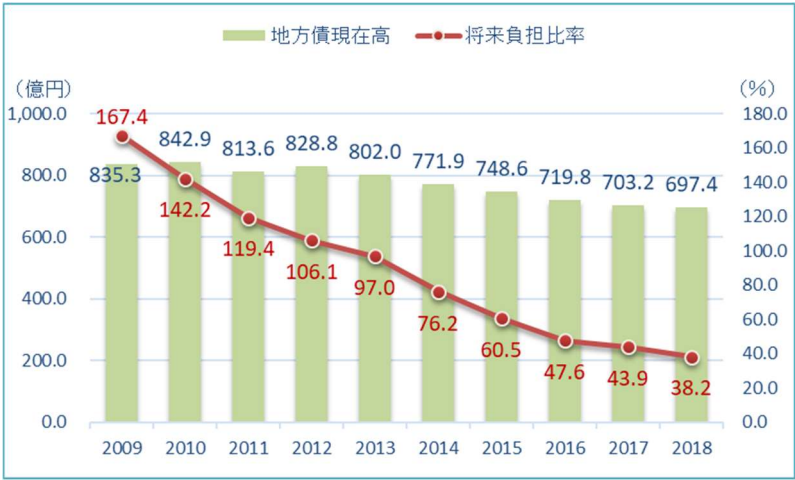


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 引き続き、市税徴収事務のスキルアップを図りつつ、コールセンターや大阪府域地方税徴収機構の効果的活用を図ることにより、安定した市税収入を確保していく必要がある。
- 岸和田競輪場へ足を運ぶファンの減少傾向を鑑み、若年層やファミリー層の来場者を獲得するなどの取組を行い、競輪事業収益の安定化を図る必要がある。
- 引き続き、市内事業者等に協力を仰ぎ、協力事業者を増やす、返礼品等に創意工夫を凝らすなど、返礼品等の充実を図るとともに、ふるさと寄附事業を通じて本市のPRに努め、寄附者に選ばれる自治体となるよう取り組む必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
経常一般財源比率	%	基準値	直近値	目指そう値		自主財源を確保するため、引き続き100%以上を維持できるよう、設定した。
		2017	2018	2021		
		101.7	101.9	101.5		
市税収納率（現年課税分）	%	基準値	直近値	目指そう値		近年上昇傾向であり、引き続きこの水準を維持できるよう、設定した。
		2017	2019	2021		
		99.17	99.29	99.17		
岸和田競輪売上額	億円	基準値	直近値	目指そう値		施設整備資金計画に基づき設定した。
		2017	2019	2021		
		184.9	147.0	214.8		
地方債現在高	億円	基準値	直近値	目指そう値		平成30年度財政推計に基づき設定した。
		2017	2018	2021		
		703.2	697.4	631.5		
実質赤字比率	億円	基準値	直近値	目指そう値		平成30年度財政推計に基づき設定した。
		2017	2018	2021		
		-	-	-		
将来負担比率	%	基準値	直近値	目指そう値		平成30年度財政推計に基づき設定した。
		2017	2018	2021		
		43.9	38.2	21.2		



基本目標 II-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする

目標が達成された姿 3	
事務を効率的・効果的に行うための体制が整っている	
目指す成果	効率的かつ円滑に業務が実施されている
▶ 行財政改革などの取組により、効率的で円滑な行政運営が行われています。	
目指す成果	資産が適正に管理・運用され、有効に活用されている
▶ 市有財産の管理がムダなく適正に行われ、有効に利活用されています。	

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- ・ 社会保障・税番号制度の適正・円滑な運営により、他団体との情報連携システムの利用を進めるとともに、個人番号を活用した市民サービスの向上を推進
- ・ 広域行政の推進として、消防・救急サービスやごみ処理、し尿処理、水道事業など、市民の安全・安心や利便性の向上を最大の目標としつつ、将来的負担を回避するサステナブルな財政運営の視点で、多角的な検討を実施
- ・ 安定的で持続可能な姿勢運営を実現することを目的として、平成30年度に岸和田市行財政再建プランを策定
- ・ 平成25年に「岸和田市公共施設のあり方に関する基本方針」及び「公共施設等総合権利計画」を策定。安全で快適な暮らしを支える道路、上下水道等のインフラや施設の維持管理と整備を推進
- ・ 令和元年度、庁舎建て替えに関する「岸和田市新庁舎整備基本計画」を策定

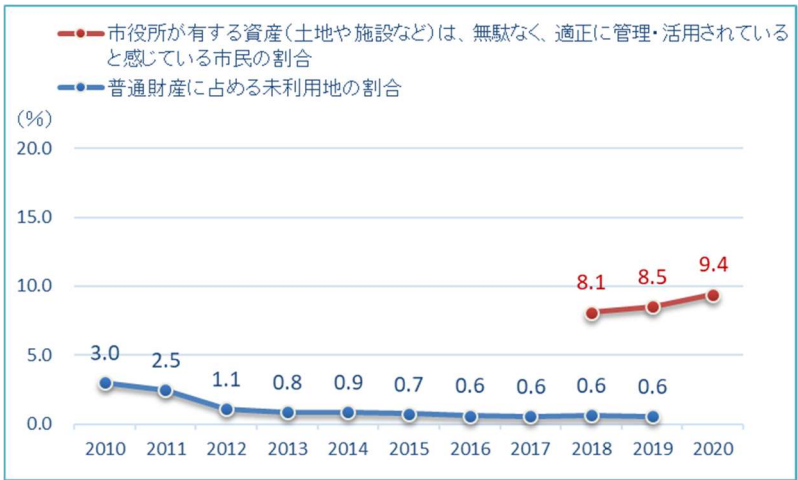
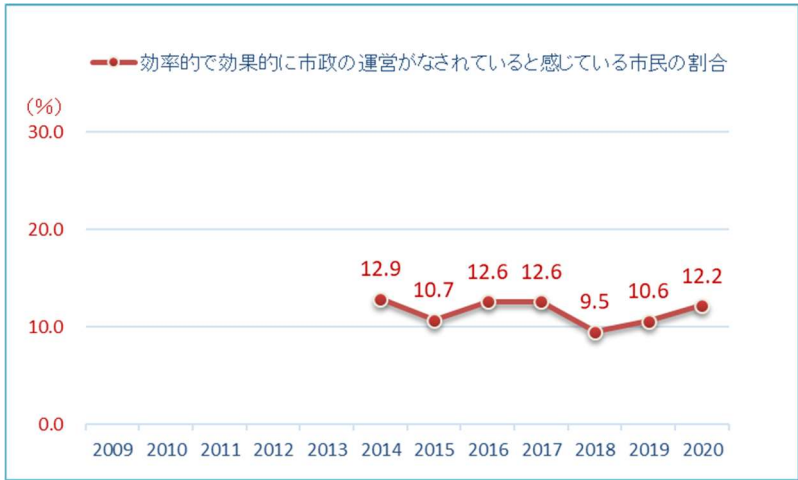


■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- ・ 人口減少に伴い、職員数も同様に減少する一方、ICT技術の向上や地域課題の多様化・複雑化により、部門横断的な対応やさらなる効率化が求められることとなるため、引き続き、効率的な組織運営をめざし、公民の役割分担や協働が推進できる組織の構築を進める必
- ・ 今後、労働力人口の減少が顕著に現れると考えられるため、ICTを活用したスマート自治体への転換を始めとする行政組織全体のスリム化と効率化が急務である。
- ・ 引き続き、新庁舎の整備にあたっては、庁舎を利用する市民や職員との対話を通じ、全ての利用者にとって便利で親しみの持てる庁舎となるよう取り組む必要がある。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
効率的で効果的に市政の運営がなされていると感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2014年の数値と同水準を確保できるよう、設定した。
		9.5	12.2	13.0		
市役所が有する資産（土地や施設など）は、無駄なく、適正に管理・活用されていると感じている市民の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		新規調査項目であるため、経過値がなく傾向は不明であるが、当面の間、現状値と同水準を確保できるよう、設定した。
		2018	2020	2022		
		8.1	9.4	8.1		
普通財産に占める未利用地の割合	%	基準値	直近値	目指そう値		現状と同水準の利活用を図ることを目指し、設定した。
		2017	2019	2021		
		0.6	0.6	0.6		



基本目標 II-2 適正で、分かりやすい行財政運営をする

目標が達成された姿 4

市民にとって利用しやすい市役所になっている

目指す成果

必要な行政サービスをいつでも手軽に受けられる

▶必要な行政サービスを様々な手段によって手軽に得ることができています。

1. 第4次総合計画期間中の成果（何がどこまで到達したか（これまでの成果））

- 市民サービスの向上を図るため、マイナンバーカードを利用した住民票の写し、住民票記載事項証明書、印鑑登録証明書及び所得・課税証明書のコンビニエンスストアでの証明等の交付を実施
- 市民の利便性向上を図るため、旅券法に基づき、パスポートの申請受付や交付事務を実施



■ 第5次総合計画に向けての分析（何ができていないのか、またどうすることが必要になるのか）

- 引き続き、市役所窓口や支所・サービスセンターにおける行政サービスの提供については、接遇技術の向上を図り、市民満足度を上げる必要がある。また、マイナンバーカードやデジタル化の進展が見込まれる中、不慣れな高齢者への対応や、市役所本庁との連携について、より良いあり方に見直していくことが求められる。

2. 指標やデータ（目指そう値）の推移

成果の達成度を測る指標	単位	第3期戦略計画期間			判定	目指そう値の説明
		基準値	直近値	目指そう値		
市役所への手続きの申請や相談の窓口が利用しやすいと感じている市民の割合	%	2018	2020	2022		過去5年間で最も数値の高かった2016年と同水準を確保できるよう、設定した。
		34.3	35.8	38.7		

